

授業コード	EDA0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	共通科目 (必修) EDA01				研究教育力	○
授業科目名	高度看護学研究特論D	選択・必修	必修		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2			
担当教員	河野保子 讃井真理					
授業の目的						
<p>本科目は、保健医療福祉分野で生起する看護現象に対して、看護学の学問的発展に貢献できる研究者として研究の「問い」や研究手法を学修するとともに、看護の専門性と学際性のある独創的・新規的な研究設計を行うことを目的とする科目である。自研究テーマの研究計画と、自己の研究の遂行と継続に必要な思考への示唆を得るための科目とする。各分野の教員自身の研究内容と方法、臨床と教育研究の往還的研究内容から幅広く研究に関する知識と方法、思考を学修する。</p>						
授業の概要						
<p>(河野保子/8回) 看護研究における博士論文の新規性・独創性・社会的価値について論述する。看護研究と実践援助の往還的研究内容の重要性を概観し、博士論文の研究の「問い」について説明するとともに、研究の「問い」に対する研究手法の重要性を論じる。また、博士論文の基本構造と科学的・論理的な論述方法について詳述する。そのため(1) 看護研究、博士論文における新規性・独創性・社会的意義(2) 研究倫理、及び研究倫理審査会(3) 研究の「問い」の重要性(4) 博士論文の基本構造と科学的・論理的・創造的論述について教授する。</p> <p>(讃井真理/7回) 研究計画、及び研究倫理について、データ収集に着手するまでのプロセスと、具体的な研究の社会的価値等の論述方法について、自研究の展開から詳述する。データ収集から博士論文作成までのプロセスと研究倫理について、自研究プロセスなどから論述する。研究論文の公表について、計画的・戦略的に研究活動を遂行することの重要性について論述する。そのため(1) 自研究計画の論旨、及び研究の意義と社会的価値の論述方法(2) 研究倫理審査申請に必要な項目と書類の実際(3) 自研究の博士論文の基本的構造と各章立ての意味(4) 論文審査、及び論文公表のプロセスについて教授する。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	博士論文とは	博士論文とは 博士論文を書くということ ・ディスカッション	【事前】なぜ博士論文を書くのかについて自問する。【事後】博士論文作成の意義について考える	・看護学における博士論文の数編を提示する ・看護研究47巻4号-博士論文を書くというこー医学書院、2014		
2	研究の意義	看護の現象・事象の可視化 看護実践、研究、理論の関係性 研究の新規性、独創性、社会的価値 ・ディスカッション	【事前】修士課程教育の看護研究について振り返りしておく。【事後】看護研究の意義を再確認する。	オリジナル資料配布		
3	研究の「問い」	教育、実践、管理から生まれる疑問 研究の「問い」；リサーチクエスト とは ・ディスカッション	【事前】自身のキャリアから疑問を見つける。【事後】リサーチクエストから研究計画につなげることを理解する	・中原淳のラボ紹介文 ・オリジナル資料配布		
4	研究の「問い」に対する研究手法	リサーチクエストの精練 それは何か？(質的研究) どのように起こっているか(実態調査研究) それらに関連はあるか(相関研究) 介入は効果があるか(準)実験研究 ・ディスカッション	【事前】研究的問いをいくつか考えておく。【事後】リサーチクエストの重要性について理解する。	・オリジナル資料配布		
5	博士論文の基本構造	博士論文は「構造を書くこと」である ・ディスカッション	【事前】自身のリサーチクエストの概略をイメージする。【事後】博士論文の基本構造について理解する。	・中原淳のラボ紹介文		

6	研究倫理審査	・研究における倫理の考え方と対応 ・研究対象者の権利と倫理審査体制 ・ディスカッション	【事前】看護研究を行う人の自覚を再認識する。【事後】倫理審査委員会による審査を受けることの重要性を自覚する。	・南 裕子、野嶋 佐由美編集
7	論文投稿・査読	博士論文の基本構造図の中から、小RQ（小リサーチクエスション）について研究論文として纏める 研究論文の構成方法 学術雑誌への投稿・査読を受ける ・ディスカッション 〈特別招聘講師による事例演習〉	【事前】事前に手渡す論文を読んでおく。【事後】自身の博士論文の構造図をイメージし、どの部分が副論文として投稿できるかを考える。【事後】投稿論文・査読の厳しさを自覚し、副論執筆に対応する。	・河野理恵他著
8	論文クリティーク	・文献検討の意義 ・文献検索 ・文献の読み方 ・クリティカルな読み方 ・ディスカッション	【事前】クリティカルシンキングについて再認する。【事後】クリティカルな論文の読み方について知識を持つ。	・南 裕子、野嶋 佐由美編集
9	科目リエンション、	研究設計	自研究の課題と方向性を思い描いておく。事後は自己研究課題について省察する。	必要資料は配布。 参考文献：
10	研究の意義と価値（讃井）	自研究計画の論旨、及び研究の意義と社会的価値の論述方法		
11	研究倫理に必要な	研究倫理審査申請に必要な項目と書類の実際	研究倫理について調べておく。先行研究の倫理的配慮のクレーター。	
12	項目			
13	論文の構成と章	自研究の博士論文の基本的構造と各章立ての意味	論文の構成について調べておく。先行研究の構成を確認する。	
14	立て			
15	論文審査のプロセル	論文審査、及び論文公表のプロセスを教授する。	論文審査の視点を調べておく。本研究科の論文審査の頁を確認する	
16	試験			

教科書・参考文献など

南 裕子、野嶋佐由美 編集：看護における研究 第2版、日本看護協会出版会、2017.

D.F. ポーリット他：看護研究、原理と方法、医学書院、2010. 10, 450円

山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版：研究手法別のチェックシートで学ぶ、日本看護協会出版会、2020. 3, 520円

・河野理恵他著：準限界集落に居住する高齢者の生活満足度に影響を及ぼす身体・社会・心理的要因の検討—共分散構造分析による因果モデルの構築、高齢者のケアと行動科学、第27巻、21-38、2022

最終到達目標

- ①必要な情報を収集・整理して、解決すべき研究課題が明確化できる
- ②研究課題を解決するために、有効かつ適切な研究の「問い」を見極められて、「問い」に対する適切な研究手法を導き出すことができる
- ③博士論文の基本的構造が理解できる
- ④博士論文に求められる新規性・独創性・社会的価値について理解できる
- ⑤看護研究における倫理的配慮について説明できる
- ⑥自研究計画の論旨、及び研究の意義と社会的価値の論述方法
- ⑦研究倫理審査申請に必要な項目と書類の実際
- ⑧自研究の博士論文の基本的構造と各章立ての意味
- ⑨論文審査、及び論文公表のプロセスについて理解できる

評価方法

課題達成度を以下の方法で評価する
筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)

履修判定基準・評価基準

履修判定基準：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EDB0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	共通科目（選択）EDB01				研究教育力	○
授業科目名	人体機能生理学特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	本田和男					
授業の目的						
看護研究の実施にあたっては、日進月歩で進化している最新の医学情報にも精通しておく必要がある。この科目では、まず医学研究の基礎となる分子生物学の歴史をふりかえり、その後のさまざまな医療の分野における発展についてわかりやすく解説する。報道などで取り上げられる最新医療に関するトピックスも、十分理解出来るように基本的知識を更新する。						
授業の概要						
毎回配布する資料を参照しながら、分子生物学の発展の歴史、ゲノム診断、分子標的治療、オーダーメイド医療、癌治療の歴史、手術療法、化学療法、免疫療法、臓器移植の基礎、歴史、肝移植、再生医療などについて、具体的どのような進歩があったのか、またさらに克服すべき問題点などをわかりやすく講義する。疑問点に関する質問には個別に対応し、社会的に注目されている話題についてディスカッションする。評価は筆記試験で行うが、必要に応じて課題を提示し、各自のプレゼンテーション、レポート提出などにより理解を深める。 (オフィスアワー：火曜日 10：50-12：20)						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	分子生物の歴史	RNA、DNA、アミノ酸、タンパク質		配付資料復習	毎回配付資料	
2	ゲノム解析方法	制限酵素、シーケンサー		配付資料復習	毎回配付資料	
3	遺伝子診断	サンプル採取、倫理問題		配付資料復習	毎回配付資料	
4	分子標的治療	オーダーメイド医療		配付資料復習	毎回配付資料	
5	癌治療（歴史）	生物学的特性の解明		配付資料復習	毎回配付資料	
6	癌治療（手術）	根治術、転移病巣への対応		配付資料復習	毎回配付資料	
7	癌治療（手術2）	内視鏡治療、ロボット手術		配付資料復習	毎回配付資料	
8	化学療法	抗癌剤の開発とその歴史		配付資料復習	毎回配付資料	
9	免疫療法	癌免疫の考え方とその発展型		配付資料復習	毎回配付資料	
10	臓器移植の基礎	移植免疫の担い手		配付資料復習	毎回配付資料	
11	移植の歴史	腎移植、心臓移植、肝移植		配付資料復習	毎回配付資料	
12	肝移植	国内での動き、生体肝移植		配付資料復習	毎回配付資料	
13	再生医療の基礎	幹細胞、ES細胞、iPS細胞		配付資料復習	毎回配付資料	
14	再生医療の臨床	心筋、網膜、脊髄、パーキンソン		配付資料復習	毎回配付資料	
15	最新トピックス	遠隔医療など		配付資料復習	毎回配付資料	
16	試験					
教科書・参考文献など						
毎回、理解に必要な関連資料を配布する。						
最終到達目標				評価方法		
最新医療に関するキーワードについて、学部学生が理解出来るような解説文（400字程度）を書くことができる。				課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・		

評価基準・評価基準

履修判定指標：

評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EDB0201			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	自立研究力	○
科目区分	共通科目（選択）EDB02				研究教育力	○
授業科目名	疼痛制御薬理学特論 D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	森田 克也					
授業の目的						
<p>疼痛はどの年代でも起こりうる身体症状であり、他者には理解しがたい影響を個人に及ぼしている。近年では線維筋痛症や機能性身体症候群としての痛みなどの新たな疾患概念も浮上してきており、生活の質の低下に直結する痛みの慢性化はや社会的損失をも呼び込む社会的課題として一層関心が高まっている。本科目は、疼痛の発現メカニズムからその発現の生理学的知識を修得し、また各種疼痛緩和のための薬理的知識を修得することを目的とする。</p>						
授業の概要						
<p>痛み発症のメカニズム（痛み刺激の受容とその伝達、痛みを修飾・調節する機構、痛みの）を理解し、痛みの難治化、難治性疼痛、がん性疼痛の発現機序を理解し、疼痛緩和で使用される薬剤の主作用と副作用の作用機序、及び疼痛コントロール方法について造詣を深める。疼痛緩和・薬物療法中の患者に対する疼痛評価と薬物コントロール等について集学的に学修し、最新の研究トピックを紹介しながら、疼痛を有する人の看護について講義とディスカッションから探究する。</p> <p>（オフィスアワー：授業終了後～90分）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション 痛みのしくみ	痛みの定義、痛みの生理学的価値、痛みはどのようにして私たちの日常を守っているのかについて講義と討議で理解を深化させる。	事前学修：痛みの生理的な役割について調べてくる。 事後学習：痛みは心理的狀態であり、痛みの仕組が正常に働かないと日常生活が脅かされることを説明できる。	適宜 資料及び文献をプリントとして提示する。		
2	疼痛発症のメカニズム（痛みのインパルスの発生とその伝達）	侵害刺激受容機構と痛み伝達にかかわる細胞内シグナル伝達機構、プロスタグランジン（PG）による増強、生理的痛みと病的痛みについて講義と討議で理解を深める。	事前学修：痛みと炎症の関係、痛みの伝導路について調べてくる。 事後学習：発痛物質の侵害受容器での相互作用、神経性炎症、痛みの弁別系と情動系について説明できる。	適宜 資料及び文献をプリントとして提示する。		
3	疼痛制御のメカニズム（痛みのインパルスを修飾・調節する仕組）	末梢性及び中枢性痛みの感作機構、下降性疼痛抑制系、ストレス鎮痛など生体が有する痛みを抑えるメカニズムについて講義と討議で理解を深化させる。	事前学修：シナプス伝達について復習しておく。 事後学習：痛みのゲートコントロール、下降性疼痛抑制系、内因性モルヒネ様物質、末梢性感作、中枢性感作、痛の時間的加算について説明できる。	適宜 資料及び文献をプリントとして提示する。		
4	神経の可塑性	神経の可塑性、痛みの感じ方を変容する精神心理的要因について講義と討議で理解を深化させる。	事前学修：シナプス伝達の修飾・調節機構について予習しておく。 事後学習：脳の可塑性と情報伝達について説明できる。	適宜 資料及び文献をプリントとして提示する。		
5	痛みの難治化機構	神経系の可塑的变化や下降性疼痛抑制系の機能低下、高次脳機能の異常による痛みの過敏、興奮と抑制のバランスの破綻について講義と討議で理解を深化させる。	事前学修：脳の機能と痛みの伝導路について復習しておく。 事後学習：神経回路の再編成・可塑的变化、グリア細胞と神経細胞の情報交換、興奮と抑制のバランスの破綻と難治化について説明できる。	適宜 資料及び文献をプリントとして提示する。		
6	痛覚と痛み	脳での痛みの認知機構、情動神経回路と痛み、痛みと脳内報酬系について講義と討議で理解を深化させる。	事前学修：情動神経回路と脳内報酬系について予習しておく。 事後学習：「痛覚」≠「痛み」似て異なるものであることを理解する。	適宜 資料及び文献をプリントとして提示する。		

7	痛みと学習	「痛み」という語の意味、慢性痛の悪循環・痛みへのこだわりについて講義と討議で理解を深化させる。	事前学修：痛みの情動的、認知的側面について復習しておく。 事後学習：痛みの訴えは、「痛み体験」の代理であり、「痛み体験」そのものではないことを理解する。	適宜 資料及び文献をプリントとして提示する。
8	疼痛による身体的侵襲機構	全人的苦痛（身体的苦痛、社会的苦痛、精神的苦痛、スピリチュアルな苦痛）への配慮について講義と討議で理解を深化させる。	事前学修：痛みの身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな側面を予習する。 事後学習：それぞれの側面の問題点とその解決法について説明できる。	適宜 資料及び文献をプリントとして提示する。
9	疼痛の薬物治療（非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）ステロイド性抗炎症薬 鎮痛補助薬 アセトアミノフェン）	非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）ステロイド性抗炎症薬 鎮痛補助薬 アセトアミノフェンの作用機序、副作用とその克服、看護のポイントについて講義と討議で理解を深化させる。	事前学修：NSAIDs、鎮痛補助薬、アセトアミノフェンについて予習しておく。 事後学習：疼痛治療薬の作用機序や副作用とその克服、看護のポイントなどについて説明できる。	適宜 資料及び文献をプリントとして提示する。
10	疼痛の薬物治療（オピオイド鎮痛薬）	オピオイド薬の作用点、副作用とその克服、痛みと薬物依存について講義と討議で理解を深化させる。	事前学修：モルヒネ鎮痛や副作用・依存について予習しておく。 事後学習：オピオイドの薬理作用と痛みと薬物依存を説明できる。	適宜 資料及び文献をプリントとして提示する。
11	がん性疼痛と慢性疼痛	がん性疼痛のメカニズムと疼痛の難治化機構、疼痛緩和のための薬物療法：NSAIDsと鎮痛補助薬、オピオイド薬について理解を深める。	事前学修：がん性疼痛の特徴と緩和ケアについて予習してくる。 事後学習：WHOの除痛ラダー、オピオイド使用上の注意、突発痛の対応を説明できる。	適宜 資料及び文献をプリントとして提示する。
12	疼痛緩和のための非薬物療法	心理的アプローチとしての認知行動療法やマインドフルネス、インターベンショナル治療等について講義と討議で理解を深化させる。	事前学修：心理的アプローチについて予習してくる。 事後学習：電気刺激や振動刺激による鎮痛法について説明できる。	適宜 資料及び文献をプリントとして提示する。
13	臨床薬理の事例展開	神経障害性疼痛、糖尿病性疼痛、帯状疱疹後神経痛、片頭痛の疼痛緩和治療について講義と討議で理解を深化させる。	事前学修：様々な痛みのメカニズムについて復習しておく。 事後学習：難治性疼痛のしん緩和治療について説明できる。	適宜 資料及び文献をプリントとして提示する。
14	看護学における疼痛教育	痛みの評価や看護のポイント、臨床上の注意事項について講義と討議で理解を深化させる。	事前学修：痛みの評価方法について予習しておく。 事後学習：痛みの評価と治療の立案に問うて説明できる。	適宜 資料及び文献をプリントとして提示する。
15	最近の疼痛関連トピック	脳が痛みの原因・脳が痛覚を変える、慢性疼痛の新しい治療法の開発について講義と討議で理解を深化させる。	事前学修：情動神経回路と痛みについて復習しておく。 事後学習：慢性痛病態の新しい考え方について説明できる。	適宜 資料及び文献をプリントとして提示する。

教科書・参考文献など

神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン、がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン、慢性疼痛治療ガイドライン、痛みの集学的診療：痛みの教育コアカリキュラム、よくわかる痛み・鎮痛の基本としくみ、痛みと鎮痛の基本知識（上 下）、痛みの臨床テキスト、疼痛医学 医学書院 2020. ISBN978-4-260-04083-9

最終到達目標

慢性疼痛を持つ患者さんや緩和ケアを必要とする患者さんの診断、慢性疼痛治療の立案、緩和ケアの立案ができることを目指す。
痛みに関連する生理学、解剖学、薬理学の知識が十分ある。

評価方法

課題達成度を以下の方法で評価する
筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・

履修判定基準・評価基準

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

- A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)
- B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)
- C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EDB0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	共通科目（選択）EDB03				研究教育力	○
授業科目名	ストレスコーピング特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	別宮直子 中島紀子					
授業の目的						
<p>ストレス社会と言われる現在において、現在労働者の6割がストレスを感じており、メンタルヘルスの重要性が指摘されている。メンタルヘルスの対応として、セルフケアに加えてラインケアの重要性が示されているところである。本研究は、ストレス、及びストレスコーピング理論、ストレスコーピングの二つの戦略について学修し、問題解決力やレジリエンスを高めるためのセルフケアとラインケアの両側面から看護の対象者のメンタルヘルスを検討することを目的とする。</p>						
授業の概要						
<p>本科目はオムニバス方式／全15回であり、前半の8回（担当者：別宮）では、ストレスやストレス反応、心理学的ストレスモデルとストレスコーピング理論、二つのストレスコーピングについて学修し、その後発展を続ける多数のストレスコーピングに関連した心理尺度について先行文献を用い探究する。また、ストレスコーピングとセルフケア・セルフマネジメントについて、レジリエンスがもたらすコーピングへの影響と、レジリエンスへの影響因子とその強化にむけたセルフケアについて造詣を深める。</p> <p>後半の7回（担当者：中島）では、看護専門職におけるストレス要因やコーピング特性、ワークエンゲージメント、レジリエンスについて概説し、文献を用いてこれらの関連性について検討する。また、職場における連携や関係構築の必要性をセルフケアやラインケアの両側面から検討することで、ワークエンゲージメントの維持・向上に向けた社会的支援の必要性について探求する。</p> <p>（オフィスアワー：別宮：水曜日12:00-13:30 中島：木曜日12:00-13:30）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	ストレスコーピングとは（別宮）	ストレスからストレスコーピングを概説し、また、授業スケジュールの調整および担当箇所を決定する。	ストレスやストレスコーピングの知識を再確認し、理解を深める。	ストレスの心理学、ストレスとストレスコーピング		
2	ストレスコーピングに関する研究傾向（別宮）	ストレスコーピングに関する研究の動向を調べ、プレゼンし、ディスカッションを行う。	ストレスコーピングに関する研究の動向について、文献調査を行う。	関連文献		
3						
4	ストレスコーピングの類型について（別宮）	各研究者のストレスコーピングの類型を比較検討し、プレゼンし、ディスカッションを行う。	各研究者のストレスコーピングの類型を文献調査し、比較する。	関連文献		
5						
6	ストレスコーピングに関連した心理尺度（別宮）	ストレスコーピングの心理尺度を調べ、その尺度の信頼性・妥当性について検討を行い、プレゼンし、ディスカッションを行う。	ストレスコーピングの心理尺度について、尺度の信頼性・妥当性について事前に文献調査を行う。	SCI、CISS、関連文献		
7	ストレスコーピングとセルフケア・セルフマネジメント（別宮）	ストレスコーピングとセルフケアやセルフマネジメントの関連を検討し、プレゼンし、ディスカッションを行う。	ストレスコーピングとセルフケアやセルフマネジメントの関連について文献調査を行う。	関連文献		
8	ストレスコーピングとレジリエンス（別宮）	ストレスコーピングとレジリエンスの関連を検討し、プレゼンし、ディスカッションを行う。	ストレスコーピングとレジリエンスの関連について文献調査を行う。	関連文献		
9	看護専門職におけるストレスコーピング（中島）	看護専門職におけるストレスコーピングに関する動向を調べ、プレゼンしディスカッションを行う。	看護専門職におけるストレスコーピングに関する研究の同行について事前に文献調査を行う。	関連文献		

10	ワークエンゲージメントとは (中島)	ワークエンゲージメントを概説し、関連する研究の動向を調べ、プレゼンしディスカッションを行う。	ワークエンゲージメントについて事前に文献調査を行う。	関連文献
11				
12	ラインケアとは (中島)	セルフケアとラインケアに関する研究の動向を調べ、プレゼンしディスカッションを行う。	ラインケアについて事前に文献調査を行う。	関連文献
13				
14	ワークエンゲージメントの必要性と社会的支援 (中島)	職場における連携や関係構築の必要性をセルフケアやラインケアの両側面から検討し、ディスカッションを行う。	セルフケアやラインケアの両側面からワークエンゲージメント向上に向けた取組みについて整理する。	関連文献
15				
16	試験			

教科書・参考文献など

1～8 回参考図書：①ストレスの心理学 [認知的評価と対処の研究]、リチャード・S・ラザルス、スーザン・フォルクマン著、本明寛他監修、(1994) 実務教育出版、②ストレスとストレスコーピング ラザルス理論への招待、富田正利、山本和郎編集協力、(2018) 星和書店

9～15 回参考図書：①ワークエンゲージメントー基本理論と研究のためのハンドブック アーノルド・B. バッカー (著)、(2014) 星和書店 ②ケアをすることの意味 病む人とともに在ることの心理学と医療人類学 アーサー・クライマン (著)、(2015) 誠信書房 ③働き方改革時代の「ラインケア」下村洋一 (著)、(2017) フィスメック

最終到達目標

評価方法

ストレスサー、及びストレスコーピング理論、ストレスコーピングの二つの戦略について学修し、問題解決力やレジリエンスを高めるためのセルフケアとラインケアの両側面から看護の対象者のメンタルヘルスを検討することができる。

課題達成度を以下の方法で評価する
筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・

履修判定指標・評価基準

履修判定指標：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EDB0401			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	共通科目（選択）EDB04				研究教育力	○
授業科目名	世代継承性看護特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	讃井真理					
授業の目的						
<p>本科目は、人間に備わっている世代継承性 (Generativity) の概念を理解し、看護ケアの方向性について探求する科目である。特に、高齢者の世代継承性は、人としての尊厳にかかわるスピリチュアルな側面を持ち、ストレングスモデルとしての意味においても重要な概念である。世代継承性を活用した看護の在り方を実装するための知識と、活用する意義を探究し、ケアプログラム構築に向けた看護学研究、高齢者研究への展開について論述する。また、各種理論と関連させながら世代継承性の概念について学修・追究する。</p>						
授業の概要						
<p>世代継承性 (Generativity) の概念とその変遷について詳説する。また Generativity に関連する理論家と理論の特徴を詳説するとともに、Generativity 研究の流れ、及び Generativity と Spirituality の関連性、及び Generativity に関連する各種心理社会的要因について国内外の研究結果から論述する。また、高齢者にとっての Generativity の意味、及び医学、及び看護学、医学看護学教育、福祉学への高齢者の Generativity の活用について、自らの Generativity 研究を踏まえ、今後の看護学への展開について論じる。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション (讃井)	本研究の進め方 世代継承性 (Generativity) の概念、 高齢者看護に必要な理由	世代継承性に関連する先行研究を一編読んでおく。 再度読みなおし、世代継承性の意味を理解する。	必要資料は配布 参考図書は下記に記載		
2						
3	生涯発達 - エリクソンの理論 -	エリクソンの老年期の発達課題 抄読・ディスカッション	できれば参考文献を一部でも読んでおく。 意見交換と省察により、老年期について考察しておく。	参考文献：⑥		
4						
5	老年的超越 - ラッシュトンスラム -	老年的超越性とは 抄読・ディスカッション	できれば参考文献を一部でも読んでおく。 意見交換と省察により、老年期について考察しておく。	参考文献：④		
6						
7	世代性と成熟 - 丸島 -	世代継承性と成熟とは 抄読・ディスカッション	できれば参考文献を一部でも読んでおく。 意見交換と省察により、世代継承性について考察しておく。	参考文献：①		
8						
9	人生の意味と世代継承性	世代継承性の意味とは 発表・ディスカッション	できれば参考文献を一部でも読んでおく。関心のある文献をまとめておく。 意見交換と省察により、世代継承性について考察しておく。	参考文献：②⑤		
10						
11	ケアと世代継承性	世代継承性研究の価値とは 発表・ディスカッション	できれば参考文献を一部でも読んでおく。関心のある文献をまとめておく。 意見交換と省察により、世代継承性について考察しておく。	参考文献：③⑧		
12						
13	看護と世代継承性	看護における世代継承性の意味 発表・ディスカッション	参考文献から、関心のある文献をまとめておく。 意見交換と省察により、世代継承性について考察する。	参考文献：③⑧		
14						

15	教育・研究と世代継承性	教育の場、研究の場における発展発表・ディスカッション	参考文献を読み、関心のある文献をまとめておく。意見交換と省察により、世代継承性と看護について考察する。	持ち寄った文献
16	試験			
教科書・参考文献など				
<p>参考図書：</p> <p>①丸島令子：成人の心理学 世代性と人格的成熟，ナカニシヤ出版，2009. 2,800円+税</p> <p>②佐藤眞一編：心理老年学と臨床死生学，ミネルヴァ書房，2022. 4,200円+税</p> <p>③やまだよこ：世代を結ぶ，新曜社，2012. 3,200円+税</p> <p>④ラーシュ・トーンスタム：老年的超越性 年を重ねる幸福感の世界，晃洋書房，2017. 2,800円+税</p> <p>⑤岡本裕子編：プロフェッションの生成と世代継承，ナカニシヤ出版，2014. 3,200円+税</p> <p>⑥E. H. エリクソン他著，村瀬孝雄他訳：ライフサイクル、その完結 増補版，みすず書房，2001. 2,800円+税</p> <p>⑦藤崎宏子他：ミドル期の危機と発達，金子書房，2008. 3,200円</p> <p>⑧やまだようこ編：人生を物語る，ミネルヴァ書房，2000. 3,000円+税</p> <p>参考文献：</p> <p>⑨中川威他：超高齢者の語りにみる生(life)の意味，老年社会学，32(4)，422-433、2011.</p> <p>⑩後期高齢者の successful Aging の意味 郡部に居住する高齢者の聞き取り調査から，日本看護研究学会雑誌，27(5)，25-30，2004.</p>				
最終到達目標			評価方法	
(1)Generativity の概念について論じられる。(2)Generativity に関連する理論家とその理論の特徴、及びその関連性について説明できる。(3)高齢者にとってのGenerativity 理論の発展性について考察できる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(40%)・課題レポート(30%)・プレゼンテーション(30%)	
履修判定基準・評価基準				
<p>履修判定基準：</p> <p>評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p>(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>				

授業コード	EDB0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	共通科目（選択）EDB05				研究教育力	○
授業科目名	実践・改革的地域包括ケアシステム論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	中島紀子 羽藤典子 赤松公子 宮崎博子					
授業の目的						
<p>本科目は、保健医療福祉の状況において、各世代（小児・成人・高齢者・障がい者等が、従来の医療の現場だけのケア・医療の完結ではなく、地域で生活するために病院から地域・在宅への社会的、改革的な地域包括ケアシステムの構築を探究することを目的とする。</p>						
授業の概要						
<p>現在の社会的課題であるケアの社会化をみざす意義、地域でケアすることの課題、及び地域看護型ケアシステムの実装に向けた看護の展開を学修し、住まい・医療・介護・生活支援、介護予防の視点で、社会保障・社会福祉、他職種連携、継続看護の、ICTの活用を含めた実践的検証をみざす。</p> <p>担当教員、宮崎は、保健所保健師としての長年の業務経験を有する。そこで、あらゆる世代の保健と医療と福祉を一体化したシステムづくりについて論述する。地域看護管理の視点から地域の課題抽出と課題解決のための将来に向けての地域包括ケアシステムの発展と、そのために必要な社会資源の創出とシステムの構築について論じる。</p> <p>担当教員、羽藤は、総合病院小児科病棟での実践経験を有する。そこで、子どもと子育て世代を対象とした地域包括ケアの現状と課題を分析する。妊娠期から出産・子育て期に渡る切れ目ない支援を目指すための看護専門職の役割や連携における研究の動向を考察する。必要な医療・福祉・行政・地域を含めた幅広い専門職の連携・協働による地域包括ケアシステムの構築について議論を深める。</p> <p>担当教員、中島は、看護実践の中から日常生活行動や感染対策に関する現象に焦点をあて、健康問題を生理学的行動学的側面から検討し、複雑な健康問題に対する多角的視点を培い、問題解決に向けた理論的思考とエビデンス構築のプロセスを検証する。</p> <p>担当教員、赤松は、社会保障・地域包括ケアに対する保健医療福祉分野の多職種連携による生活支援サービスの現状と課題を、5つの視点で検証する。</p> <p>（オフィスアワー：宮崎博子 月曜日 12：20-13:00）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	システムづくり（宮崎）	全ての世代における保健医療福祉のシステムづくり 講義と討議を行う。	関連する文献や先駆的な実践事例を複数調べておくこと。発表できるように資料化しておくこと。 授業後は、レポートを課す。	適時、提示する。		
2	課題抽出、課題解決、地域包括ケアシステム（宮崎）	地域の課題抽出と課題解決に向けての地域包括ケアシステムの発展 講義と討議を行う。	関連する文献や先駆的な実践事例を複数調べておくこと。発表できるように資料化しておくこと。 授業後は、レポートを課す。	適時、提示する。		
3	社会資源の創出（宮崎）	地域包括ケアシステム発展のために必要な社会資源の創出とシステムの構築 講義と討議を行う。	関連する文献や先駆的な実践事例を複数調べておくこと。発表できるように資料化しておくこと。 授業後は、レポートを課す。	適時、提示する。		
4	子ども・子育て支援新制度体系Ⅰ（羽藤）	子ども・子育て支援給付のしくみや現状、課題について発表し、ディスカッションを行う。	事前：子ども・子育て支援給付のしくみについて、文献等で調べ、資料を作成し、発表できる形にしておく。事後：現金給付、教育・保育給付のしくみについて復習しレポートを提出する。	内閣府 子ども・子育て支援新制度		

5	子ども・子育て支援新制度体系Ⅱ (羽藤)	地域子ども・子育て支援事業の概要およびさまざまな取り組みの具体策について発表し、ディスカッションを行う。	事前：利用者支援事業（子育て世代包括支援センターの役割）、地域子育て支援拠点事業、子育て短期支援事業のそれぞれの事業の内容の理解と実践事例等について文献で調べ資料を作成し、発表できるようにしておく。事後：地域子ども・子育て支援事業に関して復習しレポートを提出する。	内閣府 子ども・子育て支援新制度 子育て世代包括支援センター業務ガイドライン
6	子ども・子育て支援新制度体系Ⅲ (羽藤)	地域子ども・子育て支援事業の概要およびさまざまな取り組みの具体策について発表し、ディスカッションを行う。	事前：子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）、一時預かり事業、延長・病児保育事業、放課後児童健全育成事業についてそれぞれの事業の内容の理解と実践事例等について文献で調べ資料を作成し、発表できるようにしておく。事後：地域子ども・子育て支援事業に関して復習しレポートを提出する。	内閣府 子ども・子育て支援新制度
7	地域包括ケアシステムの探究 (羽藤)	特に支援を必要とする子どもと家族に対する地域での子育て支援に関する課題と課題の解決に向けた地域包括ケアシステムに必要な多職種連携・協働とはどのようなものか討議を行う。	関連する文献やこれまでの事例を調べて資料にまとめ、発表できるように資料化しておく。（被虐待児など）事後：講義後は、討議内容を踏まえレポートを作成・提出する。	適宜提示する。 子育て世代包括支援センター業務ガイドライン
8	オーラルフレイルとは（中島）	オーラルフレイルの概念とその背景、フレイルとの関連についてヒスカッションを行う。	事前：オーラルフレイルの概念とその背景について文献検索しまとめる 事後：討議内容をまとめ提出する	適宜、文献や資料を提示する
9	オーラルフレイルに対する地域での取り組み (中島)	地域におけるオーラルフレイルへの取り組みと課題についてディスカッションを行う。	事前：地域における具体的な取り組みを調べる 事後：地域の取り組みと課題をまとめ提出する	適宜、文献や資料を提示する
10	認知症と口腔の健康（中島）	高齢者における口腔機能維持の必要性と課題についてディスカッションを行う。	事前：認知症と口腔ケアに関連する文献検索とまとめ 事後：討議内容をまとめ提出する	適宜、文献や資料を提示する
11	口腔健康管理の在り方と多職種連携（中島）	他職種連携の視点から口腔健康管理についてディスカッションを行い課題解決策を検討する。	事前：多職種連携の視点から見た口腔健康管理に関する文献検索 事後：討議内容をまとめ提出する	適宜、文献や資料を提示する
12	社会保障制度の変遷と課題 (赤松)	超高齢社会日本における人口動態と社会保障制度の変遷を概観し、現在の課題について議論する。	議論したい内容について説明できるように準備する。	適宜、文献や資料を提示する
13	医療保険制度・介護保険制度の現状と課題（赤松）	医療保険制度・介護保険制度の現状と課題について議論する。	議論したい内容について説明できるように準備する。	適宜、文献や資料を提示する
14	地域包括ケアシステムの現状と課題（赤松）	地域包括システムの現状と課題について議論する。	議論したい内容について説明できるように準備する。	適宜、文献や資料を提示する
15	地域看護型ケアシステムの実装に向けた看護の展開（赤松）	地域看護型ケアシステムの実装に向けた看護の展開について議論する。	議論したい内容について説明できるように準備する。	適宜、文献や資料を提示する
	試験			
教科書・参考文献など				
適時、提示する。また、プリントを配布する。				

最終到達目標	評価方法
①地域で生活するための地域包括ケアシステムの構築について、探究できる。 ②ケアの社会化の意義が分かる。 ③地域ケアの課題が分かる。 ④地域での生活支援、介護予防の視点で、社会保障・社会福祉、他職種連携、継続看護の実践的検証ができる。	課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・
評価基準	
評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)	

授業コード	EDC0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC01				研究教育力	○
授業科目名	基盤看護学開発特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2			
担当教員	河野保子 中島紀子 森田克也					
授業の目的						
看護実践に関する基本的な概念や理論を学修し、看護の対象者にとって看護実践が科学的根拠を持つものであり、かつ健康回復においてより良い変化をもたらすものであることを認識し、看護実践の質向上のためのケア方法を探究することを目的とする。						
授業の概要						
<p>人間の活動性をADLやIADLと自己効力感、及びQOL（生活の質）の観点から教授研究する。ADLやIADLの概念、自己効力感の概念分析、QOLの臨床実践的意義について論究し、その人らしさの生き方について考察するとともに、生活支援学の理論的基礎について研究する。また臨床現場における看護職者のアサーティブ行動や人権意識は、患者の擁護者（アドボケート）として重要な役割をもつことを認識し、ケアの質向上のためのケア方法を検証する。</p> <p>看護実践の中から日常生活行動や感染対策に関する現象、あるいは日常業務における看護提供体体制やキャリア開発に関する研究の動向を国内外の文献を通して文献検索し、最新の知見を得る。さらに看護実践に関する科学的根拠に基づいたケア方法の探究のため、先行研究、および自研究手法などについて詳述する。自身の研究課題の明確化に向けて文献検討を重ね、エビデンスを構築することで研究構想に活用する。</p> <p>高次脳機能（正常な認知・学習機能など）の維持および、筋肉や骨の成長・発達、脂質代謝の調節に重要な機能を果たす、神経栄養因子であるBDNF（脳由来神経栄養因子）、IGF-1（インスリン様成長因子）およびIrisin（運動により骨格筋から産生遊離されるマイオカイン）などは加齢に伴って産生が著しく減少する。これら神経栄養因子の唾液中濃度に焦点をあて、加齢による発現調節・分泌・吸収・代謝の変化や脳への移行、作用様式などについての理論的基礎研究から、加齢による減少を抑えることで「筋肉を鍛え」、「脳を育む」画期的なアンチエイジング法を検証する。</p> <p>（オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	生活支援学としての看護（河野）	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの本質 ・実践の科学としての看護学 ・看護学探究の方向性、方法、プロセス ・ディスカッション 		【事前】参考図書；ケアの本質を読んでおく。【事後】ケアの本質の中で新たな発見について再確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ミルトンメイヤロフ、田村真、向野宣之訳：ケアの本質-生きることの意味、ゆみる出版、1996 ・オリジナル資料配布 	
2	日常生活における活動のアセスメント；ADL、IADL（河野）	<ul style="list-style-type: none"> ・ADLの概念 ・IADLの概念 ・ディスカッション 		【事前】ADLの概念及びIADLの概念について調べ、レジュメを作成し、講義時に発表する。【事後】看護研究におけるADL、IADLの意義について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・土屋弘吉他編集：日常生活活動（動作）—評価と訓練の実際一、医歯薬出版株式会社、1996 ・五島雄一郎他監修：老人診療マニュアル、日本医師会雑誌、生涯教育シリーズ26 	

3	自己効力感の概念分析 (河野)	<ul style="list-style-type: none"> ・自己効力感とは ・効力予期と結果予期との関係 ・効力予期の主要な情報源 ・ディスカッション 	<p>【事前】自己効力感の概念、効力予期と結果予期、及び効力予期の情報源について調べ、レジュメを作成し、講義時に発表する。【事後】看護研究における自己効力感の使われ方について理解を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・梶田叡一著：自己意識心理学への招待—人とその理論—、有斐閣ブックス、1994 ・アルバートバンデューラ著、本明寛、野口京子監訳：激動社会の中の自己効力、金子書房、1997 ・坂野雄二・前田基成編著：セルフエフィカシーの臨床心理学
4	ネガティブケイパビリティの考え方① (河野)	<ul style="list-style-type: none"> ・ネガティブケイパビリティとは ・ネガティブケイパビリティとジョン・キーツ ・ネガティブケイパビリティと医療 ・教育とネガティブケイパビリティ ・共感に寄り添うネガティブケイパビリティ ・ディスカッション 	<p>【事前】ネガティブケイパビリティについて著書を熟読し、レジュメを作成する。講義時に発表してディスカッションをする。【事後】自身の研究課題としてどのように用いることができるか検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・帚木蓬生著：ネガティブケイパビリティ—答えの出ない事態に耐える力—、朝日選書 958、2022
5	ネガティブケイパビリティの考え方② (河野)	<ul style="list-style-type: none"> ・ネガティブケイパビリティに関する文献を講読し、自身の研究課題との関連性についてディスカッションする。 	<p>【事前】ネガティブケイパビリティに関する文献を調べ、一覧表にしておく。その内容を講義で発表する。【事後】自身の研究課題にどのようなリサーチクエストンとして設定できるか検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・松永信夫著：ネガティブケイパビリティ「答えの出ない事態に耐える力」を読む、保健医療経営大学紀要、N09、90-96、2019
6	日常生活行動と健康 (中島)	<ul style="list-style-type: none"> ・看護における健康の概念 ・国内外の健康に関連する実態 ・ディスカッション 	<p>【事前】看護における健康を熟読し、レジュメを作成する。 【事後】国内外の健康に関する実態を整理する</p>	<p>適宜、文献や資料を配布する</p>
7	感染症サーベイランス (中島)	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症サーベイランスに関連する学修と活用状況と課題 ・プレゼンテーション ・ディスカッション 	<p>【事前】感染症サーベイランスについて調べ整理する。 【事後】感染症サーベイランスの現状と課題についてまとめる。</p>	<p>適宜、文献や資料を配布する</p>
8	看護実践能力とクリティカルシンキング (中島)	<ul style="list-style-type: none"> ・看護基礎教育における看護実践能力修得の現状と課題 ・クリティカルシンキングと看護実践 ・ディスカッション 	<p>【事前】厚生労働省が位置づけた看護実践能力を調べる 【事後】看護実践能力とクリティカルシンキングについてまとめる</p>	<p>適宜、文献や資料を配布する</p>
9	看護提供体制と看護方式 (中島)	<ul style="list-style-type: none"> ・看護提供体制と看護方式に関連する研究動向と課題の明確化 ・プレゼンテーション ・ディスカッション 	<p>【事前】看護提供体制と看護方式に関連する文献を調べる 【事後】課題解決についてまとめる</p>	<p>適宜、文献や資料を配布する</p>
10	キャリア開発 (中島)	<ul style="list-style-type: none"> ・継続教育の現状と課題、キャリア開発に関連する研究動向 ・ディスカッション 	<p>【事前】継続看護、キャリア開発に関連する文献検索 【事後】キャリア開発に関連する文献の整理</p>	<p>適宜、文献や資料を配布する</p>
11	脳由来神経栄養	BDNFの高次脳機能の維持・促進	事前学修：BDNFの生理・病態生	適宜適当な文献

	因子 (BDNF) の生理的機能とアンチエイジング (森田)	作用とアンチエイジング (マルチファンクション) について講義とグループ討議で理解を深める。	理作用について予習をしておく。 事後学習: BDNF のアンチエイジングにおける役割を説明できる。	や資料を配布する。
12	インスリン様成長因子 (IGF-1) の生理的機能とアンチエイジング (森田)	IGF-1 の高次脳機能の維持・促進作用とアンチエイジング (マルチファンクション) について講義とグループ討議で理解を深める。	事前学修: IGF-1 の生理・病態生理作用について予習をしておく。 事後学習: IGF-1 のアンチエイジングにおける役割を説明できる。	適宜適当な文献や資料を配布する。
13	運動により骨格筋から遊離される Irisin の生理作用とアンチエイジング (森田)	Irisin の高次脳機能の維持・促進作用とアンチエイジング (マルチファンクション) について講義とグループ討議で理解を深める。	事前学修: Irisin の生理・病態生理作用について予習をしておく。	適宜適当な文献や資料を配布する。
14			事後学習: Irisin の関係する病態やアンチエイジング, 唾液 Irisin の生理的役割を説明できる。	
15	認知機能と BDNF, IGF-1, Irisin の役割 (森田)	認知機能の維持・亢進における唾液 BDNF, IGF-1, Irisin の役割について講義とグループ討議で理解を深める。	事前学修: 11~15 回の授業の復習をしておく。 事後学習: BDNF, IGF-1, Irisin の認知機能に及ぼす影響を説明できる。	適宜適当な文献や資料を配布する。
16	試験			
教科書・参考文献など				
河野: 必要に応じて資料を配布する 中島: 適宜必要な資料を配布する 森田: 適宜適当な文献や資料を配布する。				
最終到達目標			評価方法	
1. 生活支援学の理論的基礎を説明できる 2. 人間の活動性、自己効力、ケイパビリティについて説明できる 3. 健康の概念、感染症サーベイランスの実態、クリティカルシンキング、看護提供方式と看護体制、キャリア開発について説明できる。 4. エクササイズによる BDNF, IGF-1, Irisin を介した認知機能の改善やアンチエイジングについて説明できる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験 (60%)・課題レポート (20%)・プレゼンテーション (20%)	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準: 評価基準: 評価の基準は以下のとおりとする。 A (100~80 点): 到達目標を達成している (Very Good) B (79~70 点): 到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C (69~60 点): 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満): 到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E: 試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F: 出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDC0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC02				研究教育力	○
授業科目名	基盤看護学開発特別演習D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2			
担当教員	河野保子, 中島紀子, 森田克也					
授業の目的						
看護実践開発特論 I D(基礎看護学)を踏まえ、自身の研究課題を明確化するために、臨床研究や看護研究から得ることのできる最新・最善の研究論文を講読するとともに、自身の研究の基盤となる概念枠組み(理論モデル)を創造・検討するために各種文献や理論・概念を考究し、研究に関する具体的アプローチ方法を追究する。						
授業の概要						
<p>(河野) 指導教員の研究成果物(研究論文等)について講読するとともに、看護実践を科学することについて検討・分析を行う。</p> <p>(中島) 看護実践の中から日常生活行動や感染対策に関する臨床における現象や、日常看護活動における看護提供体制やキャリア開発に関する研究の動向を、国内外の文献を通して文献検索をし、最新の知見を得る。また日常生活援助技術に関する実験的研究と看護技術に活用できる看護モデルの構築に関する文献から、技術開発における研究的視点および研究方法について探求する。さらに、自身の研究課題の明確化に向けて文献検討を重ね、エビデンスを構築することで研究構想を行う。</p> <p>(森田) 唾液中に分泌されるBDNF、IGF-1およびIrisinに焦点をあて、これらの分泌を高めるエクササイズの「質」と「量」の組み合わせから、運動機能と認知・精神機能の維持・向上を目指した、効果的な健康増進支援プログラムの策定を目指して、動物実験の成果や文献的知見の検討を行い、研究ストラテジーを構築する。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	看護の実践現場(教育・管理・実践)から見た看護実践—看護研究—看護の理論化の問題・課題(河野)	・学生が所属する専門領域の現状と課題の分析 ・研究ニーズの分析とケアプログラムの検討・改善方法 ・ディスカッション	【事前】自身の所属する看護の実践現場について研究的素材を考えておく。【事後】自身の研究課題を再確認し、研究可能かどうか等を検討しておく。	必要時資料配布		
2	同上	同上	同上	同上		
3	同上	同上	同上	同上		
4	研究論文(1)を教材とした研究成果のクリティーク①研究目的、研究方法、倫理的課題(河野)	論文輪読(1) 河野保子：医療における患者の人權—尊厳死と自己決定権—、愛媛大学法学部法学研究科修士論文、1996	【事前】研究論文を読み、研究目的、研究方法、倫理的課題についてクリティークし、自身の考えを持っておく。【事後】論文クリティークから理解したこと学習したことについて把握する。	必要時資料配布		
5	研究論文(1)；②研究結果、考察、要約、実践へのサジェスチョン、英文サマリー(河野)	同上	【事前】研究論文を読み、研究結果、考察、要約、実践へのサジェスチョン、英文サマリーについてクリティークし、自身の考えを持っておく。【事後】論文クリティークから理解したこと学習したことについて把握する。	同上		
6	研究論文(2)を教材とした研究成果のクリティーク①研究目的、研	論文輪読(2) 魚尾淳子、河野保子著：脳血管障害患者の日常生活活動拡大に関する研究—意欲、自己効力感、自己	【事前】研究論文を読み、研究目的、研究方法、倫理的課題についてクリティークし、自身の考えを持っておく。【事後】論文クリティーク	必要時配布		

	究方法、倫理的課題 (河野)	効力感形成の情報源との関係に焦点をあてて一、日本看護研究学会雑誌、34 (1)、47-59、2011	ークから理解したこと学習したことについて把握する。	
7	研究論文 (2) ; ②研究結果、考察、要約、実践へのサジェスチョン、英文サマリー (河野)	同上	【事前】研究論文を読み、研究結果、考察、要約、実践へのサジェスチョン、英文サマリーについてクリティークし、自身の考えを持っておく。【事後】論文クリティークから理解したこと学習したことについて把握する。	同上
8	研究論文 (3) を教材とした研究成果のクリティーク①研究目的、研究方法、倫理的課題 (河野)	論文輪読 (3) 淳限界集落に居住する高齢者の生活満足度に影響を及ぼす身体・社会・心理的要因の検討—共分散構造分析による因果モデルの構築—、高齢者のケアと行動科学、VOL. 27、21-37、2022	【事前】研究論文を読み、研究目的、研究方法、倫理的課題についてクリティークし、自身の考えを持っておく。【事後】論文クリティークから理解したこと学習したことについて把握する。	必要時配布
9	研究論文 (3) ②研究結果、考察、要約、実践へのサジェスチョン、英文サマリー (河野)	同上	【事前】研究論文を読み、研究結果、考察、要約、実践へのサジェスチョン、英文サマリーについてクリティークし、自身の考えを持っておく。【事後】論文クリティークから理解したこと学習したことについて把握する。	同上
10	総括 (河野)	学生各自の研究課題の一端を発表し、リサーチクエスチョンの検討、研究的アプローチの方法、ケアプログラムの開発やそのアウトカム評価方法等についてディスカッションする。	【事前】自身の研究課題に関して研究的アプローチをイメージ化する。【事後】自身の研究課題に関する概念モデルを考える。	
11	自己の課題に合わせた研究の動向 (中島)	先行研究を選定し、自己の研究課題を踏まえた課題と対策を考察する。 プレゼンテーション、ディスカッション	文献検索、プレゼンテーション準備	適宜提示
12				
13				
14				
15	学会への参加 (自己の研究課題に関する研究者間での意見交換) (中島)	研究課題に関連する学会に参加し、情報収集を行うとともに、自己の研究課題に関連する研究者との意見交換を行う。	学会抄録集を事前に読み、自己の研究課題に類似した研究者との意見交換ができるよう準備する。 学会参加後は、自己の研究課題の再考を行う。	適宜提示
16				
17				
18				
19	自己の研究課題の発展 (中島)	自己の研究課題解決に向けた方策の検討	自己の研究課題の解決に向けた方策を検討する。 意見交換で得られた情報を整理し、今後の研究に活かす。	適宜提示
20				
21	唾液BDNF, IGF-1, Irisin に焦点をあて、これらの分泌を高めるエクササイズ「質」と「量」の組み合わせから、運動機能と認知・精神機能の維持・向上	認知症予防と生活習慣 (運動、食事、サプリメント)、衰えた記憶力は回復できるか?等について講義と演習・ディスカッションから理解を深める。	事前学修:生活習慣と認知機能について予習してくる。 事後学習:授業内容のレポート作成	適宜適当な文献や資料を配布する。
22		認知症予防と脳トレの関係についての講義と演習・ディスカッションから理解を深める。	事前学修:脳トレと認知症予防についての予習 事後学習:授業内容のレポート作成	適宜適当な文献や資料を配布する。
23				
24		脳機能とエクササイズ及び咀嚼運動の関係について講義と演習、ディスカッションから理解を深める。	事前学修:脳機能に及ぼすエクササイズと咀嚼運動についての予習 事後学習:授業内容のレポート作成	適宜適当な文献や資料を配布する。
25				
26				
27		唾液BDNF, IGF-1, Irisin の分泌促	事前学修:発現組織、ターゲット、	適宜適当な文献や

28	を目指した、研究ストラテジーの構築 (森田)	進と脳への輸送、標的器官及び生理機能への役割などを理解する。	合成・分泌を増加させる処置の予習 事後学習：授業内容のレポート作成	資料を配布する。
29		効果的な認知・精神機能の維持・向上、健康増進支援プログラムの策定を目指す。	事前学修：21~28回の授業を復習 事後学習：支援プログラムの策定	適宜適当な文献や資料を配布する。
30				
教科書・参考文献など				
必要に応じて資料を配布する。				
最終到達目標			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生自身は、自身の研究課題に対する研究の進め方が理解できる。 ・自身の研究課題に対するリサーチクエスチョンを明らかにすることができる。 ・自身の研究課題に対する理論モデルを創造することができる。 ・自己の研究課題と課題解決に向けた対策について考察できる。 ・運動機能と認知・精神機能の維持・向上を目指した効果的な健康増進支援プログラムの策定を目指した、研究ストラテジーを構築する。 			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・	
評価基準				
評価の基準は以下のとおりとする。 A(100~80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79~70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDC0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC03				教育・実践力	○
授業科目名	リプロダクティブヘルス看護学 開発特論D	選択・必修	選択		倫理調整力	○
学年/学期	1年/前期	単位数	2		連携力	○
担当教員	高田律美				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、リプロダクティブヘルス・ライツに関する理論を基盤とし、マタニティヘルス、ウイメンズヘルス、等女性のライフサイクル各時期に必要な健康課題、またそれらに伴う家族形成に関わる課題を明確にし、看護実践に基づくリサーチ・クエスチョンから独自の概念枠組みを構築するための準備として各看護理論を学修することを目的とする。概念モデルの作成等理論構築をするための研究手法の前提とし、EBP、システムマティックレビュー、研究方法論を採求することを目的とする。</p>						
<p>周産期の健康・倫理的課題に関する概念分析をおこなう。周産期看護学領域における国内外の研究論文を、EBP、システムマティックレビュー、研究方法論を通して看護実践を開発する。また、リプロダクティブヘルス・ライツについてグローバルな視点で、女性とパートナー、家族を含む生涯発達理論を基盤とし、マタニティヘルス、ウイメンズヘルス、等女性のライフサイクル各時期に必要な健康課題、またそれらに伴う家族形成に関わる課題を明確にする。また、ヘルスプロモーションに関連する各理論を検証する。そのうえで、講義内容に関するテーマについて EBP、システムマティックレビュー、研究方法を文献に基づいた各自の学修を発表し、ディスカッションを通して、さらに多角的な視点で課題を追究する。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。リプロダクティブヘルス/ライツの基本理念と歴史の変遷	リプロダクティブヘルス/ライツのとの基本理念と歴史の変遷知識についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	リプロダクティブヘルス/ライツについて、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学 リプロダクティブ・ライツとリプロダクティブ・ヘルス		
2	グローバルヘルスの視点でのリプロダクティブヘルスの課題	グローバルヘルスの視点でのリプロダクティブヘルスの課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	グローバルヘルスの視点でのリプロダクティブヘルスの課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学		
3	ジェンダー・家族についての社会的課題（LGBTQを含む）	ジェンダー・家族についての社会的課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	ジェンダー・家族についての社会的課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	岩間暁子他 問からは始める社会学、		
4	課題の採求①	①-③の授業に関する課題に関連した各自の興味あるテーマについてレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを15分程度実施し、その後ディスカッションを行える準備をする。			
5	健康行動理論	健康行動理論について講義とグループディスカッション実施。	健康行動理論に関する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	健康行動理論による研究と実践		
6	研究と理論：移行期理論	移行期理論について講義とグループディスカッション実施。	移行期理論に関連する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	移行理論と看護—実践, 研究, 教育—		

7	ヘルスプロモーション	ヘルスプロモーションについて講義とグループディスカッション実施。	ヘルスプロモーションに関連する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	ナッジ×ヘルスリテラシー—ヘルスプロモーションの新たな潮流、
8	課題の探求②	⑤-⑦の授業に関する課題に関連した各自の興味あるテーマについてレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	事前学習：各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを15分程度実施し、その後ディスカッションを行える準備をする。	
9	愛着形成理論①	愛着形成に関連する課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	愛着形成に関連する課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	母子関係の理論(1)
10	愛着形成理論②	愛着形成に関連する課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	愛着形成に関連する課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	母子関係の理論(2)
11	愛着形成理論③	愛着形成に関連する課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	愛着形成に関連する課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	母子関係の理論(3)
12	課題の探求③	⑨-⑪の授業に関する課題に関連した各自の興味あるテーマについてレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	事前学習：各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを15分程度実施し、その後ディスカッションを行える準備をする。	
13	プレコンセプションケアに関連するガイドライン	プレコンセプションケアに関連するガイドラインの課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	マタニティヘルスに関連するガイドラインの課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	妊娠高血圧症候群ガイドライン2021
14	プレコンセプションケアに関連する理論	プレコンセプションケアの課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	プレコンセプションケアの課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	国立成育医療研究センター 新産科実践ガイド、家族看護学：家族のエンパワーメントを支えるケア
15	課題の探求④	⑬-⑭の授業に関する課題に関連した各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする	事前学習：各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを15分程度実施し、その後ディスカッションを行える準備をする。	

教科書・参考文献など

*女性生涯看護学 吉沢豊予子 真興交易(株)医学出版部(2004)、*問からはじめる社会学、岩間暁子他、有斐閣(2015)、*リプロダクティブ・ライツとリプロダクティブ・ヘルス、信山社、谷口真由美(2007)、*移行理論と看護—実践、研究、教育—、アフアフ イブラヒム メレイス 監修、学研(2019)、*ナッジ×ヘルスリテラシー—ヘルスプロモーションの新たな潮流、村山洋史、大修館書店(2022)、*家族看護学：家族のエンパワーメントを支えるケア、中野 綾美ら、メディカ出版(2020)、*Meleis, A. I. (2010). Transitions Theory: Middle-range and situation-specific theories in nursing research and practice. New York: Springer Publishing Company. *Bowlby, J. (1969). Attachment and Loss: Vol. 1, Attachment (Vol. 1). New York: Basic Books. (黒田実郎, 岡田洋子, 吉田恒子訳, 母子関係の理論(1)愛着行動, 岩崎学術出版社, 1976) *Bowlby, J. (1973). Attachment and Loss: Vol. 2, Separation. New York: Basic Books. (黒田実郎, 岡田洋子, 吉田恒子訳, 母子関係の理論(2)分離不安, 岩崎学術出版社, 1977) *Bowlby, J. (1980). Attachment and Loss: Vol. 3, Sadness and Depression. New York: Basic Books. (黒田実郎, 吉田恒子, 横浜恵三子訳, 母子関係の理論(3)対象喪失, 岩崎学術出版社, 1981) *Rubin, R. (1984). Maternal Identity and the Maternal Experience. New York: Springer. (新道幸恵, 後藤桂子訳, 母性論:母性の主観的体験, 医学書院, 1997) *国立成育医療研究センター 新産科実践ガイド、診断と治療社、左合 治彦(2021)

最終到達目標	評価方法
<p>1. リプロダクティブヘルスとの基本理念と歴史的変遷とグローバルヘルスの視点でリプロダクティブヘルスの課題を取り上げ、その内容についてプレゼンテーションし、説明することができる。</p> <p>2. 妊婦とその家族が不安なく快適で健康な妊娠生活を送り、親となる準備や新しい家族を迎える準備が整うよう支援する内容をプレゼンテーションし、説明することができる。</p> <p>3. 健康行動理論、移行期理論、ヘルスプロモーション、愛着形成理論、に関する文献をプレゼンテーションし、説明することができる。</p> <p>4. プレコンセプションケアや現代の母子保健とその家族の健康課題について、関連する最新の知識・技術に関するエビデンスの獲得について取り上げ、その内容及び、課題解決のための文献についてプレゼンテーションし、説明できる。</p>	<p>課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験 (60%) ・ 課題レポート (20%) ・ プレゼンテーション (20%) ・</p>
履修判定指標・評価基準	
<p>履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p>(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>	

授業コード	EDC0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC04				教育・実践力	○
授業科目名	リプロダクティブヘルス看護学 開発特別演習D	選択・必修	選択		倫理調整力	○
学年/学期	1年/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	高田律美				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、現代家族を視野に入れ、母子や家族の健康問題の解決に向けて、実践的なリプロダクティブヘルスケアの構築につながる研究成果から、リプロダクティブヘルス/ライツ、マタニティヘルス、ウイメンズヘルス、等女性のライフサイクル各時期に必要な健康課題、またそれらに伴う家族形成に関わる課題を明確にし、看護実践開発研究における課題探求や研究計画に基づき、関心がある、研究テーマに関してフィールドワークなど調査方法を探求することを目的とする。</p>						
授業の概要						
<p>演習の内容については、(周産期の健康課題について、EBP、システマティック・レビュー、国内外の研究の知見を交え、研究テーマを明確化し、適切な研究方法を用い、フィールドワーク等の調査方法を検証する。さらに、リプロダクティブヘルス・ライツを基盤とし、女性とパートナーのライフサイクル各期の健康課題について、ヘルスプロモーションに関連するアプローチについてフィールドワークを実施し、検証をする。そのうえで、講義内容に関するテーマについてEBP、システマティック・レビュー、研究方法を文献に基づいた各自の学修を発表し、ディスカッションを通して、さらに多角的な視点で課題を追究し、自己のフィールドワークなど調査方法を検討する。</p> <p>オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。 研究と理論①	演習の進め方についてオリエンテーションを行う。 各自が論文作成の際に採用する理論についてグループディスカッション実施。	健康行動理論に関する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	健康行動理論による研究と実践		
2-4	研究と理論②： 理論と研究と実践	健康行動理論の研究と実践について講義とグループディスカッション実施。	健康行動理論の研究と実践に関する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	健康行動理論による研究と実践		
5-8	論文クリティークの方法	クリティークとは何かについて概説する。	事前に該当図書を熟読する。	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版		
9	論文クリティークの方法と実際①	質的研究における文献クリティークに関する講義をする。第7回目の授業後に検索した論文についてクリティークを展開する。	事前に該当図書を熟読する。各自の論文についてクリティークの実際を展開してくる。	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版		
10-12	論文クリティークの方法と実際②	尺度開発研究における文献クリティークに関する講義をする。第8回目の授業後に検索した論文についてクリティークを展開する。	事前に該当図書を熟読する。各自の論文についてクリティークの実際を展開してくる。	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版		
13-15	論文クリティークの方法と実際③	システマティックレビューにおける文献クリティークに関する講義をする。第7回目の授業後に検索した論文についてクリティークを展開する。	事前に該当図書を熟読する。各自のシステマティックレビュー論文を検索してクリティークの実際を展開してくる。	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版		

16、 17	ウイメンズヘル ス・マタニティ ヘルス・リプロ ダクティブヘル ス・ライツに関 連する論文のク リティーク	各自の研究テーマに関連する論文 のクリティークした結果について プレゼンテーションを実施する。	各自の研究テーマに関連する論文 のクリティークした結果をプレゼ ンテーションできる準備をして臨 む。	
18、 19	研究方法：量的 研究（尺度開 発）	尺度開発について講義とループデ スカッション実施。	尺度開発に関する文献を熟読す る。その内容についてグループデ ィスカッションに臨める準備をす る。事後は関心あるテーマにつ いて尺度開発の研究方法を用いて いる原著論文を検索し熟読して おく。	質問紙調査と心 理測定尺度計画 から実施・解析 まで
20、 21	研究方法：アク ションリサーチ	アクションリサーチについて講義 とループデスカッション実施。	アクションリサーチに関する文献 を熟読する。その内容についてグ ループディスカッションに臨める 準備をする。事後は関心あるテ ーマについてアクションリサーチの 研究方法を用いている論文を検索 しておく。	アクションリサ ーチ - 看護研究 の新たなステー ジへ
22	課題の探求	⑨-⑳の授業に関する課題に関連 した各自の興味あるテーマのレジ メを使用してプレゼンテーション しその後ディスカッションを実施	各自が自分の興味あるテーマで プレゼンテーションを実施し、その 後ディスカッションを行える準備を して臨む。	
23	研究テーマに沿 ったシステムテ ィックレビュー （メタアナリシ ス）①	研究テーマに沿ったシステムテ ィックレビュー（メタアナリシス） ク。研究課題の設定と文献検索の 結果を発表し、ディスカッション する。	事前に研究課題の設定と文献検索 しプレゼンテーションの準備をす る。事後はさらに検索結果をまと める。	看護研究のための 文献レビュー—マ トリックス方式、 エビデンスに基 づく看護実践のた めのシステムティ ックレビュー
24、 25	研究テーマに沿 ったシステムテ ィックレビュー （メタアナリシ ス）②	研究テーマに沿ったシステムテ ィックレビュー（メタアナリシス） ク。文献検索とスクリーニング の。結果の整理したものを発表 し、ディスカッションする。	事前に文献検索とスクリーニング の結果を整理しプレゼンテーショ ンの準備をする。事後はさらに献 検索とスクリーニングの結果を整 理する。	看護研究のための 文献レビュー—マ トリックス方式、 エビデンスに基 づく看護実践のた めのシステムティ ックレビュー
26	研究テーマに沿 ったシステムテ ィックレビュー （メタアナリシ ス）③	研究テーマに沿ったシステムテ ィックレビュー（メタアナリシス） ク。文献検索とスクリーニング の。結果の整理し統合したものを 発表し、ディスカッションする。	事前に文献検索とスクリーニング の結果を整理し統合したもののプ レゼンテーションの準備をする。 事後は授業で検討された内容を追 加修正する。	看護研究のための 文献レビュー—マ トリックス方式、 エビデンスに基 づく看護実践のた めのシステムティ ックレビュー
27、 28	研究テーマに沿 ったシステムテ ィックレビュー （メタアナリシ ス）④	研究テーマに沿ったシステムテ ィックレビュー（メタアナリシス） ク。文献検索とスクリーニング の。結果の整理しさらに出版バイ アスの評価を実施する。さらに、 サブグループ解析と感度分析が必 要な時には実施する。それらを発 表し、ディスカッションする。	事前に文献検索とスクリーニング の。結果の整理しさらに出版バイ アスの評価を実施する。さらに、 サブグループ解析と感度分析が必 要な時には実施し発表の準備をす る。事後は授業で検討された内容 を追加修正する。	看護研究のため の文献レビュー —マトリックス 方式、エビデン スに基づく看護 実践のためのシ ステムティック レビュー

29, 30	研究テーマに沿ったシステムティックレビュー（メタアナリシス）の結果のまとめ	各自の研究テーマに関連する論文研究テーマに沿ったシステムティックレビュー（メタアナリシス）のクリティークした結果をまとめ、それらを発表し、ディスカッションする。	各自の研究テーマに関連するシステムティックレビューをまとめ、プレゼンテーションの準備をして臨む。事後は授業で検討された内容を追加修正する。	
教科書・参考文献など				
<p>*健康行動理論による研究と実践、日本健康教育学会、医学書院（2019）、*ナッジ×ヘルスリテラシー—ヘルスプロモーションの新たな潮流、村山洋史、大修館書店（2022）、*ヘルスプロモーション 健康科学 和田雅史ら、聖学院大学出版（2016）、*移行理論と看護—実践、研究、教育—、アフアフ イブラヒム メレイス 監修、学研（2019）*質的研究法：その理論と方法 健康・社会科学分野における展開と展望、プラニー・リアムプットーン 著、メディカル・サイエンス・インターナショナル（2022）*質問紙調査と心理測定尺度計画から実施・解析まで、宇井美代子ら著、サイエンス社（2014）*アクションリサーチ入門 - 看護研究の新たなステージへ、筒井真優美ら著、ライフサポート社、（2010）*よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版 牧本清子ら編著、日本看護協会（2020）、*看護研究のための文献レビュー—マトリックス方式、ジュディス ガラード著、医学書院（2012）、*初めの一步 メタアナリシス—“Review Manager”ガイド、平林由広、克誠堂出版（2014）、*エビデンスに基づく看護実践のためのシステムティックレビュー、牧本清子（2013）</p>				
最終到達目標			評価方法	
<p>1. 研究論文のテーマに関連する理論や概念について文献を用いてプレゼンテーションし、説明することができる。</p> <p>2. 論文をクリティークすることで文献検討を通して、未だ解決されていない看護現象を自己の研究課題として明確化できる。さらに自己の課題にアプローチするための方法論を吟味し、妥当性、信頼性、実現可能性を検討する。</p> <p>3. 各自の興味あるテーマについて文献のシステムティックレビューをして、ウイメンズヘルス・マタニティヘルス・リプロダクティブヘルス/ライツに関連するテーマについて文献をクリティークし、その内容についてプレゼンテーションし、ディスカッションすることができる。</p>			<p>課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験（60%）・課題レポート（20%）・プレゼンテーション（20%）</p>	
履修判定指標・評価基準				
<p>履修判定指標：</p> <p>評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p>(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>				

授業コード	EDC0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC05				研究教育力	○
授業科目名	小児看護学開発特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1前次/前期	単位数	2			
担当教員	三並 めぐる 羽藤 典子					
授業の目的						
<p>本科目は、保健・医療・福祉・教育分野で生起する看護現象に対して、小児看護学の学問的發展に貢献できる研究者として研究の「問い」を原点に、小児看護の専門性と学際性のある独創的・新規的な研究課題に取り組む科目である。各分野の教員自身の研究内容と方法、臨床と教育研究の往還的研究内容から幅広く研究に関する知識と方法、思考を学修することを目的とする。最新の知見、研究の動向などについてプレゼンテーションし、その後ディスカッションをとおして行い学びを深める。</p>						
授業の概要						
<p>日本と世界の小児医療事情と小児看護の現状について、また、小児看護に必要な看護理論活用について探求する。主として、愛着理論（ボウルビイ）、認知発達理論（ピアジェ）、ライフコース理論（グレン H. エルダー）、生涯発達理論（ユング、エリクソン、レビンソン、スーパー）、キャリア発達理論（パーソンズ、ホランド、キンズバーグ、シャイン、など）、及び家族看護理論（構造・機能的アプローチ、家族発達理論、家族システム理論など）の活用について論述するとともに、臨床ケースと往還させて知識を深める。</p> <p>判別分析による若年女性の冷え症を識別する指標の解明と、学童期、思春期女性の冷え性と小児の在宅医療の体制整備に関する研究について論述し、在宅療養児者と家族のためのレスパイトケアの実態と課題と、医療的ケアが必要な子どもと家族への包括的な支援（ケア・コーディネーション）、小児と家族のアセスメントとセルフケアについて先駆的取組みについて探究する。さらに、小児救急医療体制と小児救急看護の現状、小児と家族の養育環境、育児不安・育児困難の現状と背景、子育て支援の現状と家族への支援についても詳述する。さらに小児と家族への多職種連携の現状と課題、及び、児童虐待の防止と早期対策について多角的視点で追究する。家族の養育環境と子どものレジリエンスについて最新の研究を含めて探究する。</p> <p>（オフィスアワー：三並：火曜日 16：40-17：50 羽藤：月曜日 17：00～18：00）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	オリエンテーション 日本と世界の小児医療事情と小児看護の現状 ① ②	日本と世界の小児医療事情についてディスカッション	【事前】 テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う 【事後】 400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成		
2		日本と世界の小児看護の現状についてディスカッション	【事前】 テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う 【事後】 400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成		
3	愛着理論、認知発達理論	愛着理論（ボウルビイ）、認知発達理論（ピアジェ）についてディスカッション	【事前】 テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う 【事後】 400文字で振り返る	学愛着障害は何歳からでも必ず修復できる。 学生が書籍や文献等で資料作成		
4	ライフコース理論	ライフコース理論（グレン H. エルダー）についてディスカッション	【事前】 テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う 【事後】 400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成		
5	生涯発達理論	生涯発達理論（ユング、エリクソン、レビンソン、スーパー）についてディスカッション	【事前】 テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う 【事後】 400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成		
6	キャリア発達理論	キャリア発達理論（パーソンズ、ホランド、キンズバーグ、シャイン）についてディスカッション	【事前】 テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う 【事後】 400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成		
7	家族看護理論	家族看護理論（構造・機能的アプローチ、家族発達理論、家族シス	【事前】 テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う	学生が書籍や文献等で資料作成		

		テム理論など)についてディスカッション	【事後】400文字で振り返る	
8	オリエンテーション・若年女性を対象とした実験研究の内容と方法	講義の進め方の説明および教員自身のこれまでの研究内容と方法についての講義・ディスカッション	事前：これまでの論文について、一部は熟読し講義に臨む。質問も考えておく。 事後：自身の研究に活かせる知識をまとめてレポートを提出する。	学生が書籍や文献等で資料作成
9	在宅療養児者と家族のためのレスパイトケア	在宅療養児者と家族のためのレスパイトケアの実態と課題についての発表・ディスカッション	事前：テーマに関連した文献をまとめ、近年の動向や実態についてスライドもしくはレジュメを準備。 事後：在宅療養児者と家族に必要な支援を考察し、レポート提出。	学生が書籍や文献等で資料作成
10	医療的ケアが必要な子どもと家族	医療的ケアが必要な子どもと家族への包括的な支援についての発表・ディスカッション	事前：テーマに関連した文献をまとめ、近年の動向や実態についてスライドもしくはレジュメを準備。 事後：包括的な支援を考察し、レポートを提出。	学生が書籍や文献等で資料作成
11	小児救急医療体制と小児救急看護の現状	小児救急医療体制と小児救急看護の現状と課題についての発表・ディスカッション	事前：テーマに関連した文献をまとめ、近年の動向や実態についてスライドもしくはレジュメを準備。 事後：小児救急看護の現状と課題を考察し、レポートを提出。	学生が書籍や文献等で資料作成
12	家族の養育環境と子どものレジリエンス	家族（母親・父親）の養育態度が子どもに及ぼす影響、課題についての発表・ディスカッション	事前：テーマに関連した文献をまとめ、近年の動向や実態についてスライドもしくはレジュメを準備。 事後：意見交換の省察より得られた課題についてレポートを提出。	学生が書籍や文献等で資料作成
13	児童虐待の防止と早期対策	児童虐待の防止と早期対策について、日本の動向、対策、課題についての発表・ディスカッション	事前：テーマに関連した文献をまとめ、近年の動向や実態についてスライドもしくはレジュメを準備。 事後：児童虐待に関する課題を考察し、レポートを提出。	学生が書籍や文献等で資料作成
14	被虐待児に対する心理・福祉領域からの支援と協働	子どもの虐待に携わる臨床心理士やソーシャルワーカーが、それぞれの専門職の視点からアセスメントとケアについての発表・ディスカッション	事前：テーマに関連した文献をまとめ、近年の動向や実態についてスライドもしくはレジュメを準備。 事後：児童虐待に関する課題を考察し、レポートを提出。	学生が書籍や文献等で資料作成
15	小児の養育環境と家族のレジリエンス	小児の養育環境と家族のレジリエンスについて最新の研究を含めて探究する。	【事前】テーマについてスライド4~8枚作成と発表準備を行う 【事後】400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成
16	試験			
教科書・参考文献など				
1. 米澤好史著：愛着障害は何歳からでも必ず修復できる（2022） 2. 鵜飼奈津子・服部隆志：虐待を受けた子どものアセスメントとケア、心理・福祉領域からの支援と協働（2021）				
最終到達目標			評価方法	
小児看護の専門性と学際性のある独創的・新規的な研究課題に取り組むことができる。臨床と教育研究の往還的研究内容から幅広く研究に関する知識と方法、思考を学修することができる。最新の知見、研究の動向などについてプレゼンテーションし、その後にディスカッションができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)	
履修判定基準・評価基準				

履修判定基準：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EDC0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC06				研究教育力	○
授業科目名	小児看護学開発特別演習D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2			
担当教員	三並 めぐる 羽藤 典子					
授業の目的						
<p>本科目は、小児と家族を対象とした小児看護学領域で活用されている研究方法を理解し、自己の関心のある現象を探求する上で必要となる研究方法を習得し、研究計画の立案ができることを目的とする。</p> <p>国内外の先行研究レビューから最新の知見、研究の動向などについてプレゼンテーションし、その後ディスカッションを行い自己の研究課題を絞れるよう新規性の研究視点で取り組む。また、学生の研究課題や関心に応じて、関連学会等へ参加をし、そこから得られた新たな知識を踏まえて多角的な視点で自己の臨床現場の課題解決に繋げる、または小児看護の現場としての保育所、子育て支援センター、自立支援センター、病院施設などでのフィードワーク実施し、その結果を報告・討議し、自身の研究課題を深める。</p>						
授業の概要						
<p>ハイリスク新生児とその家族への実践（生命維持、痛みケア、デベロップメンタルケア、愛着、感染症対策）、小児事例に基づいてのコンサルテーション（プロセス、アセスメント、問題の明確化、課題、社会資源の活用、意思決定、倫理的配慮、ケア実践）、先天性疾患や小児慢性特定疾患のある小児と家族の包括的ケアについて、国内外の研究論文から研究的課題と発展的実践について検討する。</p> <p>プレコンセプションケアと世界セクシュアリティ教育について、さらに子どもの人権と倫理的配慮、家族アプローチ、無煙環境実現とその支援のためのプログラム開発などについて探究し、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>判別分析による若年女性の冷え症を識別する指標、および学童期と思春期の女性に焦点をあてた冷え関連症状の緩和について、自研究を踏まえて論述するとともに、小児救急における事例のアセスメントと援助（発熱・呼吸障害・発疹・腹痛・頭痛・痛みなどの症状）については、実践現場のケーススタディにより、実践と研究とを往還的に思考を発展させるよう討議を重ねる。さらに、育児困難や児童虐待の事例への支援、児童相談所における児童虐待防止等の対応、地域における子育て支援などについて多角的に探究する。さらに、関連学会等への参加から得られた新たな知識を踏まえて多角的な視点で自己の臨床現場の課題解決につなげ自身の研究課題を明らかにする。</p> <p>先天性疾患や小児慢性特定疾患のある小児と家族の包括的ケアについて子どもの発達段階における家族支援について、フィードワーク実施し、その結果を報告・討議し、自身の研究課題を明らかにするとともに社会施策への提言を考える。</p> <p>（オフィスアワー 三並：水曜日 15：00～16：30 羽藤：火曜日 17：00～18：00）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1.2	オリエンテーション ハイリスク新生児とその家族への実践	新生児の痛みのケアガイドラインを用いてディスカッション	【事前】テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う【事後】400文字で振り返る	NICU に入院している新生児の痛みのケアガイドライン 2020年（改訂）・実用版		
3.4	小児事例に基づいてのコンサルテーション	小児事例に基づいてのコンサルテーションについてディスカッション	【事前】テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う【事後】400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成		
5.6	先天性疾患や小児慢性特定疾患のある小児と家族の包括的ケア	重篤な疾患を持つ子どもの医療をめぐる話し合いのガイドラインについてディスカッション	【事前】テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う【事後】400文字で振り返る	重篤な疾患を持つ子どもの医療をめぐる話し合いのガイドライン		
7.8	プレコンセプションケアと世界セクシュアリティ教育①	プレコンセプションケアと世界セクシュアリティ教育についてディスカッション	【事前】テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う【事後】400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成		

9.10	プレコンセプションケアと世界セクシュアリティ教育②	子どもの性の健康を守るために1～12についてディスカッション	【事前】テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う【事後】400文字で振り返る	「子どもの性の健康を守るために1～12」事前資料配布
11.12	CRAFT理論による家族アプローチ	CRAFT理論による家族アプローチについてディスカッション	【事前】テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う【事後】400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成
13.14	子どもと家族の無煙環境	子どもと家族の無煙環境についてディスカッション	【事前】テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う【事後】400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成
15.16	小児救急における事例のアセスメント①	小児救急における事例（発熱・呼吸障害）に関連する実践現場のケーススタディを踏まえたディスカッション	事前：発熱・呼吸障害に関連する実践現場のケーススタディの説明の為、パワーポイントで資料を作成。事後：ディスカッションからの振り返りをする。	これまでの実践を踏まえた事例等から資料を作成
17.18	小児救急における事例のアセスメント②	小児救急における事例（発疹・腹痛（嘔気・嘔吐を含む）等）に関連する実践現場のケーススタディを踏まえたディスカッション	事前：発疹・腹痛（嘔気・嘔吐を含む）に関連する実践現場でのケーススタディを説明する為、パワーポイントで資料作成。事後：ディスカッションからの振り返りをする。	これまでの実践を踏まえた事例等から資料を作成
19.20	育児困難や児童虐待の事例への支援	育児困難や児童虐待の事例の理解と対応についてディスカッション	事前：テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う事後：400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成
21.22	児童相談所における児童虐待防止等の対応	児童相談所における児童虐待防止等の対応についての関連文献からの情報収集とディスカッション	事前：テーマについてスライド4～8枚作成と発表準備を行う事後：400文字で振り返る	学生が書籍や文献等で資料作成
23.24	学会への参加（自身の研究課題に関する研究者間との意見交換）	関連学会に参加し、小児看護、自身の研究課題に関連する情報収集を行うとともに、自身の研究課題に関して、研究者と意見交換を行う。	事前：学会抄録集などを事前に熟読し、自身の研究テーマ・課題に類似した研究者と意見交換ができるよう事前準備を行う。事後：学会において研究者との意見交換から自身の研究課題の再考を行う。	
25.26				
27.28	自己の研究課題の小児看護への発展	自身の研究課題に関連した小児看護における課題解決に向けた検討	事前：自己の研究課題について、その解決に向けて研究的思考をし、方向性を検討する。事後：意見交換から得た内容を今後の研究計画に活かす。	学生が資料作成
29.30	先天性疾患や小児慢性特定疾患のある小児と家族の包括的ケアについて	先天性疾患や小児慢性特定疾患のある小児と家族の包括的ケア、家族支援についてフィールドワークし、その結果を報告・討議し、自身の研究課題を明らかにするとともに社会施策への提言を考える。	【事前】フィールドワークの訪問準備を行う。その結果をスライド8枚作成と発表準備を行う【事後】400文字で振り返る	フィールドワーク学生が体験したことを書籍や文献等を加えて資料作成
31	試験			
教科書・参考文献など				
1. 日本新生児看護学会：NICUに入院している新生児の痛みのケアガイドライン（改訂）・実用版（2020） 2. 日本小児科学会：重篤な疾患を持つ子どもの医療をめぐる話し合いのガイドライン（2012） 3. 遠見才希子：子どもの性の健康を守るために、1～12（2020）				

最終到達目標	評価方法
<p>小児と家族を対象とした小児看護学領域で活用されている研究方法を理解し、自己の関心のある現象を探求する上で必要となる研究方法を習得し、研究計画の立案ができる。</p> <p>国内外の先行研究レビューから最新の知見、研究の動向などについてプレゼンテーションし、その後にディスカッションを行い自己の研究課題を絞れる。</p>	<p>課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)</p>
履修判定基準・評価基準	
<p>履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>	

授業コード	EDC0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC07				研究教育力	○
授業科目名	成人看護学開発特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2			
担当教員	本田和男					
授業の目的						
<p>本科目は、社会生活の役割レベル、健康レベルが多種多様である年代を対象とする看護学領域であることを踏まえ、主に心疾患、消化器疾患などの救命救急場面、及びがんを含めて慢性期と終末期医療の場面に対するヘルスケアシステムの構築と最善のケアプログラム開発・検証について、臨床と研究の相互循環型研究に取り組むための科目である。クリティカルケア領域、慢性期ケア領域、周手術期からエンドオブライフケア領域に関する臨床上の課題、及び解決方法を明確化し、自研究遂行上で重要な意味を持つ要因を探究する。看護関連科学である医学的、薬理的、生化学的知識と、臨床推論に必要なアセスメント能力に関する知識と技術を修得し、対象者の生命、生活、自律、尊厳を守り整えることのできる看護の方向性について論述する。</p>						
授業の概要						
<p>病態生理と病気に対する生体反応など、医学的知識を活用し、対象の身体的状態を理解するための臨床推論、重症度判断技術を深める。またがんを含め、慢性的経過をたどる各疾患の臨床判断能力と教育的支援能力の発展、及び生活主体のケアプログラム開発を目指した課題設定を行う。そのため、フィジカルアセスメント、及び得られた情報の解釈分析について、病態に合わせて健康問題解決のための援助法を探究し、自研究課題の明確化と臨床指向型研究への示唆を得る。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 11：00-12：20)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	がん治療中、エンドオブライフの病態と症状	根治術、転移病巣への対応 内視鏡治療、ロボット手術 それぞれの病態と看護について症例報告と検討	人体機能生理学特論Dで学修した知識を確認しさらに深めておく。症例を検討する。	適宜指示		
2						
3						
4						
5	化学療法中の病態と症状	抗癌剤への対応 各病態と看護について症例報告と検討	人体機能生理学特論Dで学修した知識を確認しさらに深めておく。症例を検討する。	適宜指示		
6						
7						
8						
9	免疫療法中の病態と症状	癌免疫の考え方とその発展型 免疫療法と看護について症例報告と検討	人体機能生理学特論Dで学修した知識を確認しさらに深めておく。症例を検討する。	適宜指示		
10						
11						
12						
13	移植後の病態と症状	腎移植、心臓移植、肝移植 それぞれの病態管理の症例報告と検討	人体機能生理学特論Dで学修した知識を確認しさらに深めておく。症例を検討する。	適宜指示		
14						
15	再生医療と遠隔医療と看護	心筋、網膜、脊髄、パーキンソン 遠隔診療 それぞれの病態への対応の症例検討	人体機能生理学特論Dで学修した知識を確認しさらに深めておく。科目全般の看護展開の検討を自研究と実践に活かす。	適宜指示		
16	試験					
教科書・参考文献など						
特に指定しない						

最終到達目標	評価方法
領域に関する臨床上の課題、及び解決方法を明確化する。 看護関連科学である医学的、薬理的、生化学的知識と、臨床推論に必要なアセスメント能力に関する知識を修得する。	課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)
履修判定基準・評価基準	
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)	

授業コード	EDC0801			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC08				研究教育力	○
授業科目名	成人看護学開発特別演習D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2			
担当教員	本田和男					
授業の目的						
<p>多様な年代と健康レベルでのCDU(Clinical Decision Unit)・災害場面、及び療養・生活支援場面における、国内外の研究動向と課題を明確にし、臨床現場で直面する問題を解決するため、シミュレーションとリフレクションを活用し、課題解決に向けた演繹的・帰納的実践能力開発のための技術と救命救急場面におけるケアプログラム開発について論議する科目である。そのため、諸外国の文献レビューと臨床現場の課題を、往還的にシミュレーション教育、リフレクションシンキングにより、直面している課題について解決法を議論する。</p>						
授業の概要						
<p>臨床現場における問題・課題に対して、演繹的、多角的に課題解決に取り組む。また救命救急場面等、及び生活支援場面における多様な課題設定に対し、生命と生活に対して臨床指向型の看護スキルと看護介入について細密に検証を行う。また、多職種連携、多職種協働における看護師の役割機能について論述するとともに、臨床現場で生じる倫理的問題、課題についてその解決法について論じる。自研究課題を明確にするとともに、研究的思考で多様な成長発達レベル、健康レベルの看護実践を探究する。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	クリティカルケアの臨床推論と看護介入 倫理的判断 意思決定支援	救命救急・災害・慢性期・在宅の看護と臨床推論	既修した知識を確認しさらに深めておく。 自研究の看護に展開する。	症例資料 適時提示		
2						
3						
4						
5						
6	がんの診断・治療からエンドオブライフに至る臨床推論と看護介入 倫理的判断 意思決定支援	根治術、転移病巣への対応 内視鏡治療、ロボット手術 それぞれの病態と看護の症例検討	既修した知識を確認しさらに深めておく。 自研究の看護に展開する。	症例資料 適時提示		
7						
8						
9						
10						
11	化学療法における臨床推論と看護介入	抗癌剤への対応 各病態と看護の症例検討	既修した知識を確認しさらに深めておく。 自研究の看護に展開する。	症例資料 適時提示		
12						
13						
14						
15						
16	免疫療法における臨床推論と感が介入	癌免疫の考え方とその発展型 免疫療法と看護の症例検討	既修した知識を確認しさらに深めておく。 自研究の看護に展開する。	症例資料 適時提示		
17						
18						
19						
20						
21	移植医療と看護判断 意思決定支援	移植に関連する病態と症例検討	既修した知識を確認しさらに深めておく。 自研究の看護に展開する。	症例資料 適時提示		
22						
2						

24				
25				
26	再生医療と遠隔医療と看護判断	再生医療と遠隔医療と看護介入	既修した知識を確認しさらに深めておく。 自研究の看護に展開する。	症例資料 適時提示
27				
28				
29				
30				
31	試験			
教科書・参考文献など				
特に指定しない				
最終到達目標			評価方法	
生命と生活に対して臨床指向型の看護スキルと看護介入について検証できる。多職種連携、多職種協働における看護師の役割機能について論述できる。臨床現場で生じる倫理的問題、課題についてその解決法について論じることができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDC0901			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC09				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究 ID	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1 学年・通年	単位数	2			
担当教員	河野保子					
授業の目的						
<p>本科目は、保健医療福祉の場における看護の質を高めるケア実践と往還的な作用効果のある研究により、研究成果から得られたケアプログラムの効果検証を目指すことを目的として、「研究計画」を展開するための科目である。展開される授業は、文献レビューによる課題整理と最新の研究テーマに基づく課題の明確化、研究課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い倫理審査を受ける。</p>						
授業の概要						
<p>学生自身の個別テーマに合わせて研究指導を実施する。担当教員のこれまでの研究テーマは、①日常生活活動（ADL）がQOLに及ぼす影響の検証、②健康回復と自己効力感との関連性の検証、③看護職者のアサーションに関する開発、④医療における患者の人権保障と自己決定支援の開発、⑤看護実践と倫理的意思決定支援の開発等である。</p> <p>看護の課題解決に向けて学術的に意義のある博士論文を作成するために、科学的・創造的・新規的な研究取り組みを必要とし、国内外の文献検討、正確で必要かつ十分なデータ収集やデータ分析、論理的・客観的な論文の作成が求められる。</p> <p>（オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> 研究指導教員のガイダンス、及び副指導教員の紹介 研究課題の確認、イメージのさらなる検討 研究スケジュールの検討 	【事前】ガイダンスを受け自身の研究の進め方を調整する。【事後】ガイダンス後に、自身の研究スケジュールを再調整する。	関連文献		
2	研究動機の明確化	<ul style="list-style-type: none"> 研究課題に対する「問い」とその背景を明確化する。 	【事前】研究課題のイメージの深化、国内外の文献検索。【事後】研究指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献		
3	研究課題に関連した国内外の文献検索と文献クリティーク	<ul style="list-style-type: none"> 国内外の文献検索の方法 文献のクリティークにより、自身の研究課題への応用性の分析 	【事前】関連する文献を集める。【事後】文献クリティークにより、研究テーマの新規性・斬新さ、研究方法の妥当性、データの収集法、データの客観性・信頼性、結果・考察の論理性・新規性・妥当性等を理解する。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献		
4	同上	同上	同上	同上		
5	同上	同上	同上	同上		
6	同上	同上	同上	同上		
7	同上	同上	同上	同上		
8	研究課題の焦点化	<ul style="list-style-type: none"> 国内外の文献検索、文献クリティークから自身の研究課題を焦点化する。 	【事前】自身の研究テーマを絞り込む。【事後】研究テーマの決定後は、特に関連する文献を精査する。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献		
9	研究の概念モデルの構築（用いる	<ul style="list-style-type: none"> 研究目的、研究の概要から研究の概念モデル、あるいは用いる理 	【事前】自身の研究テーマ、研究の問い、研究で明らかにしたいこ	関連文献		

	理論の決定)	論を検討する。	とを踏まえて、概念モデルの構築、あるいは用いる理論を検討する。 【事後】指導教員とのディスカッションをノートに書く。	
10	研究テーマ、研究目的の決定	・研究テーマを決定する。 ・研究目的を文章化する。	【事前】研究テーマ、研究目的を文書化する。【事後】研究テーマ、研究目的を確実なものとする。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
11	論文を形成する複数のリサーチクエスションの検討	・博士論文の基本構造の作成。 ・小RQの位置づけ・内容の検討 ・博士論文で明らかにする内容と小RQを関連させて、かつ俯瞰的に検討・分析する。	【事前】博士論文の基本構造について再確認する。【事後】自身の研究の進め方を再確認する。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
12	研究計画書の作製	・研究デザイン、研究方法、倫理的配慮等の記載 ・研究計画書の記載マニュアルに従って書く。	【事前】研究計画書の記載マニュアルを読む。【事後】研究計画書を作成する。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
13	博士論文計画発表会	・研究発表会に向けて、研究要旨の作成 ・パワーポイントの作成	【事前】自身が主張したい内容について把握する。発表要旨の作成、パワーポイントの作成をする。【事後】発表会で指摘されたことを検討する。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
14	研究計画書の修正・完成	・発表会で指摘を受けたことに対する修正 ・研究計画書を完成させる。 ・研究計画書の審査で合格する。	【事前】発表会での指摘を真摯に受け止め表現する。【事後】研究計画書を完成させる。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
15	倫理申請書の作成・提出	・倫理申請書の内容に従って作成する。 ・研究内容に即した倫理申請書を作成する。	【事前】倫理的配慮について熟考する。【事後】審査結果に応じた修正・加筆する。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
16	試験			
教科書・参考文献など				
研究課題に必要な文献等は学生自身で検索する。				
最終到達目標			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の文献検討を通して、看護実践開発の構築に必要な研究課題を設定できる。 ・研究テーマに基づき研究目的が設定できる。 ・研究目的に応じた複数のリサーチクエスションが設定できる。 ・複数のリサーチクエスションは、それらの目的に応じて研究方法等を設定できる。 ・研究目的に応じた研究デザインを作成できる ・研究テーマ、目的、研究方法が内包された研究計画書が作成できる。 ・研究計画書に基づき研究構想発表ができる。 ・倫理審査委員会に申請書を提出・承認を受ける。 			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)	
履修判定基準・評価基準				

履修判定基準：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EDC0902			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC09				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究 ID	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	森田克也					
授業の目的						
<p>保健医療福祉の場における看護の質を高めるケア実践と往還的な作用効果のある研究により、研究成果から得られたケアプログラムの効果検証を目指すことを目的として「研究計画」を展開するための科目である。各担当教員により展開される授業は、文献レビューによる課題整理と最新の研究テーマに基づく課題の明確化、研究課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い、倫理審査を受ける。</p>						
授業の概要						
<p>担当教員の指導可能な研究テーマは次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 痛みの慢性化（難治化）と下行性疼痛調節系変調に関する研究、 2. 緩和ケアにおけるクリニカル・オーディットを活用した看護ケアのあり方に関する研究、 3. 唾液中神経栄養因子を指標とした認知症予防戦略の構築、 4. フレイル予防と咀嚼機能に関する検証、 5. 健康長寿のための健康自律のメカニズムの解明 <p>課題解決に向けた自主的な探求と、収集した資料の分析・論理的な文章の作成等、論理的思考法と分析的思考法を含めた研究・学修ができる様に指導する。 （オフィスアワー：授業終了後 ～ 30 分間）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	科目オリエンテーション（森田） 文献・論文を客観的に精査・分析し、研究課題を見つける	自身の研究に関連する文献の検索を行い、文献レビューによる研究課題周辺の様々な知見を整理・分析し、研究課題を絞る。		先行研究を検索し、研究課題の周辺テーマについて情報を集約する。文献を客観的に精査し、課題の周辺の研究の整理・分析を行う。研究課題を明確化していく。	関連文献は自身で検索する。 山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版：研究手法別のチェックシートで学ぶ、日本看護協会出版会、2020.	
2						
3						
4						
5						
6	研究目的を明確にし、研究計画書を作成する	文献を分析し、課題を論理的に説明。研究の目的と目標を設定して、研究に見合う研究方法を選択し、研究の意義と社会的価値について吟味する。		研究計画書を作成する。いくつかの研究で構成されるように研究を構築し、往還的な研究に深化させる。	研究計画書案	
7						
8						
9						
10	研究論文の中間発表として、研究計画発表を行う	研究計画を立て、中間発表の資料を作成する。発表によって矛盾や疑問点を解決して研究計画書を完成させる。		計画書の文章を何度も読み返し、完成度を高める。発表準備を綿密に行う。発表後の指摘事項を加味して計画書を修正する。	先行研究論文は自身で検索	
11						
12						
13	1年次の内に研究倫理申請を行う	研究倫理審査申請書を作成し、各書類を整えて申請する。		倫理審査申請書の様式を事前に取り寄せる。倫理審査の結果を受けて修正する。		
14						
15	研究調査を開始する	倫理審査で指摘部分を改善する。研究倫理が承認されたら、研究調査を開始する。		倫理審査と計画書を読みかえし、指摘があれば改善する。	倫理申請書案	

教科書・参考文献など	
山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版：研究手法別のチェックシートで学ぶ、日本看護協会出版会、2020。その他、研究課題・研究方法に沿った参考書・参考文献	
最終到達目標	評価方法
自己の研究課題解決に向けた独創的な研究計画書が完成する。 研究倫理委員会に申請書を提出し、承認を受ける。 博士論文に関連する副論文作成の準備をする。	課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(90%)・プレゼンテーション(10%)・
履修判定指標・評価基準	
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)	

授業コード	EDC0903			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC09				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究 ID	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	三並めぐる					
授業の目的						
<p>本科目は、本科目は、保健医療福祉の場における看護の質を高めるケア実践と往還的な作用効果のある研究により、研究成果から得られたケアプログラムの効果検証を目指すことを目的として「研究計画」を展開するための科目である。各担当教員により展開される授業は、文献レビューによる課題整理と最新の研究テーマに基づく課題の明確化、研究課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い、倫理審査を受ける。保健医療福祉の場における看護の質を高めるケア実践と、臨床志向で、臨床と教育の往還的な作用効果のある研究とにより、ケアプログラムの効果検証を目指し、研究計画を展開するための科目である。</p>						
授業の概要						
<p>担当教員が展開する授業は、文献レビューによる課題整理と最新の研究テーマに関する課題の明確化、研究課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い、倫理審査を受ける。</p> <p>担当教員の指導可能な研究テーマは以下の通りである。</p> <p>1. 子どもの発達段階におけると家族の意思を尊重した支援、2. 子どもの養育環境における子どもの QOL 向上と家族支援、3. 養護教諭の危機管理能力と健康教育プログラム開発の実施・検証、4. 学校保健における健康課題のケアプロセスと養護教諭のコンピテンシー、5. タバコフリー社会実現にむけて小児と家族支援プログラム開発と効果検証など</p> <p>(オフィスアワー：水曜日 15:00-16:30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目刈込エントリ	自研究に関連する文献の検索を行い、文献レビューによる研究課題周辺の様々な知見を整理・分析し、研究課題を絞る。	先行研究を検索し、自己の研究課題の周辺テーマについて情報を集める。文献をクリティークし、課題の周辺の研究に整理・分析を行う。研究課題を明確化していく。	関連文献は自身で検索 黒田裕子著：看護研究 step by step 第6版、医学書院、2,970円 (2023) 2 牧本清子・山川みやえ編著：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版、日本看護協会出版会		
2						
3						
4						
5						
6	研究目的を明確にし、研究計画書を作成する。	文献を分析し、課題を論理的に説明。研究の目的と目標を設定し、それに合う研究方法を選択し、研究の意義と価値を示す。	研究計画書を記載していく。いくつかの研究で構成されるように研究を設計し、往還的な研究であることを確認する。	研究計画書案		
7						
8						
9						
10	1年次 11月に研究論文の中間発表として、研究計画発表を行う	研究計画を立て、中間発表の資料を作成する。発表によって矛盾や疑問点を解決して研究計画書を完成させる	計画書の文章を何度も読み返し、完成度を高める。発表準備を行う。発表後に質疑応答の内容を加味して計画書を修正する。	先行研究論文は自身で検索		
11						
12						

13	1 年次以内に研究倫理申請を行う	倫理審査申請書を作成し、各書類を整えて、申請する。	倫理審査申請書の様式を事前に取り寄せる。倫理審査の結果を受けて修正する	D.F. ポーリット他：看護研究, 原理と方法, 医学書院, 2010.
14				
15	研究調査を開始する	倫理審査で指摘部分を改善する。承認が下りたら、調査を開始する	倫理審査と計画書を読みかえし、指摘があれば改善する。	倫理申請書案
教科書・参考文献など				
1 黒田裕子著：看護研究 step by step 第6版、医学書院、2,970円（2023） 2 牧本清子・山川みやえ編著：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版、日本看護協会出版会、3,520円（2020） 3 D.F. ポーリット他：看護研究 原理と方法、医学書院、10,450円（2010） 4 その他、研究方法に沿った参考書				
最終到達目標			評価方法	
1 自己の研究課題解決に向けた独創的な研究計画書が完成する。 2 倫理委員会に申請書を提出する。 3 博士論文に関連する副論文作成の準備をする。			課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(90%)・プレゼンテーション(10%)	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDC0905			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC09				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究 ID	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年/通年	単位数	2			
担当教員	高田律美					
授業の目的						
<p>本科目は、保健医療福祉の場における看護の質を高めるケア実践と往還的な作用効果のある研究により、研究成果から得られたケアプログラムの効果検証を目指すことを目的として「研究計画」を展開するための科目である。各担当教員により展開される授業は、文献レビューによる課題整理と最新の研究テーマに基づく課題の明確化、研課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い、倫理審査を受けることを目的とする。</p>						
授業の概要						
<p>本科目は、各自の研究テーマについては院生の関心あるテーマを探求するが、担当教員の研究テーマを参考にしてテーマを探求してもよい。それらは以下の通りである。1. 思春期前期からのプレコンセプションケアの研究、2. 睡眠研究及び乳幼児突然死に関連する研究、3. リプロダクティブヘルス・ライツに関する研究、4. 出産直後の子育て（母乳育児等）の子どもの成長要因に及ぼす影響、5. 子育て期にある夫婦の社会関係に関連するコンストラクト要因の研究、6. 母子を一体とした領域・時系列横断的な研究、途上国の母子調査研究</p> <p>本科目の展開は1年次の11月に研究計画書発表後、1月に研究計画書完成し、3月の倫理審査委員会へ提出審査を受けることを念頭に進めていく。授業はゼミ式でディスカッションを行う。[^]</p> <p>（オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。研究課題の検討	科目の進め方についてオリエンテーションを実施。関心あるテーマについてグループディスカッションを行う。	事前にシラバスを読み、年間スケジュールを把握する。事後には関心あるテーマについて授業中にレポート課題を指示すので文章化する。	大学院要覧 適宜提示		
2	研究課題の明確化：文献検討	各自の持参した論文とレポート課題を発表し、グループディスカッションしつつ研究課題を明確化する。	事前に第1回目の事後レポートを参考にキーワードに沿って文献検索し、授業中に提示できるようにする。事後は文献を検討し研究課題を明確化しレポートする。	適宜提示		
3	研究テーマと研究枠組みの決定：文献検討	研究課題に関連した国内外の文献をレビューしてグループディスカッションしつつ研究テーマを決定する。	事前に研究課題に関連した文献を検索し、文献一覧にするとともにその内容をクリテイクしておく。事後は研究テーマを明確化しレポートする。	適宜提示		
4	研究枠組み等の発表	②-⑥の授業を参考に各自のテーマ、リサーチクエッション、研究枠組みを文献の挿入されたレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	事前に各自のテーマ、リサーチクエッション、研究枠組みを文献の挿入されたレジメを準備する。事後は研究計画書の内容を確認して発表の内容を記載しておく。			
5	研究計画書の作成	研究計画書の発表とグループディスカッションし修正箇所を検討する。	事前に文献をさらに検索し一覧表にして研究計画書を作成および修正しプレゼンテーションの準備をする。事後は授業での検討内容について計画書を修正する。	適宜提示		
6	調査対象の選択・調査現場の連絡調整等の準備	研究計画に従い、調査対象を確定し、依頼文を検討し、具体的に連絡しておく。	事前・事後に調査対象や調査内容を検討し、依頼文を作成する。	適宜提示		

7, 8	研究計画書の修正	研究計画書の発表とループディスカッションし修正箇所を検討する。	事前に文献をさらに検索し一覧表にして研究計画書を作成および修正しプレゼンテーションの準備をする。事後は授業での検討内容について計画書を修正する。	適宜提示
9	研究計画書発表会の準備	発表会に向けての準備をする	発表会に向けてのパワーポイントとレジメの作成、発表の練習	適宜提示
10	研究計画書発表会	研究計画書の発表	事前に指摘される点について検討しておく。事後は指摘された点のまとめをしておく。	
11	研究計画書の完成	発表会で指摘を受けた内容について再検討し、研究計画書を完成させる。	事前には指摘された内容について検討修正し授業に臨む。	適宜提示
12, 13	倫理申請書の作成提出	倫理委員会の書類について検討し、完成後に提出する。	事前に倫理委員会の書類を作成し、授業で検討できる準備をする。事後に授業での検討に沿って修正する。	適宜提示
14	研究計画書の修正	倫理委員会の審査決定後に必要な書類や研究計画書の修正をする。	倫理委員会の決定に沿って事前・事後に書類や研究計画書の修正をする。	適宜提示
15	調査対象や確定、調査依頼の準備	研究計画に従い、調査対象を確定し、調査の依頼文の修正等書類を完成させ、連絡をする。	事前・事後に調査対象や調査内容を検討し、依頼文等の書類を作成する。	適宜提示
教科書・参考文献など				
*看護研究原理と方法 第2版、ポーリット&ハングレー著、医学書院、(2014)、*バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版、Suzan K. Groveら著、ELSEVIER (23015)、適宜提示する。				
最終到達目標			評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献検討及び研究テーマの決定、研究方法論の決定ができる。 2. 研究計画書を作成し、研究発表会に臨める。 3. 研究計画書を修正し、完成できる。 4. 倫理審査委員会に申請書を提出でき、適宜修正箇所を修正し審査を通ることができる。 			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDC1002			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC10				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究ⅡD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	2			
担当教員	森田克也					
授業の目的						
本科目は、看護実践開発特別研究ⅡDで作成した研究計画に沿って、研究目的を達成するように各種研究方法（調査、実験、質的研究）を用い、研究活動を遂行することを目的とする。						
授業の概要						
研究実施の依頼と同意の確認、妥当性のある研究データの収集、正確で信頼性・信憑性、妥当性のある手法を用いた分析、整合性と一貫性のある結果と考察が展開された原著論文を作成し、新規性、独創性、社会的意義のある研究論文を学術誌に投稿する。 (オフィスアワー：授業終了後～30分間)						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	研究活動を推進し、調査を実施する	研究計画に沿って研究データの収集を行う。研究倫理に則り、丁寧なデータ、質の良い信頼できるデータが収集できるための計画を綿密に行う。	研究倫理申請書に則り、各種の書類を準備する。研究・調査を実施する。データを解析・分析する。	各種のデータ解析法関連の著書		
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9	2年次11月に中間発表としてデータ解析の結果と考察を発表する	第1段階の調査データを集計・分析し、結果を出す。考察・結論までを発表する。中間発表の資料を作成し、プレゼンテーションする。質疑に適切に対応する。	データの分析・解析を行う。結果を出し、考察を加え、結論を導き、発表の準備をする。質疑の内容・指摘事項を加味し、研究論文に活かす。次の調査・研究の準備を始める。	中間発表資料		
10						
11						
12	学術雑誌に副論文を投稿する	副論文の内容を学会発表及び論文を投稿する。	副論文のデータを分析し、結果・考察・結論を整えて、学会発表および学術雑誌への投稿準備を行う。	副論文		
13						
14						
15	副論文を投稿し掲載が決まる	当該雑誌の執筆要領と論文審査のコメントに則って、論文を完成し掲載がきまる。	第1段階から第2段階の調査・研究へ移行し、準備を始める。	副論文		
16						
教科書・参考文献など						
D.F. ポーリット他：看護研究，原理と方法，医学書院，2010. 山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版：研究手法別のチェックシートで学ぶ，日本看護協会出版会，2020. その他，研究方法に沿った参考書，参考文献						
最終到達目標				評価方法		
自己の研究計画に追って、調査研究を実施し、倫理的配慮を徹底したうえで適切なデータの収集ができる。 収集したデータを集計、分析し、一つの研究として結果と結論を導き出し、中間発表会で報告できる。 副論文を作成し、学術雑誌に投稿できる。				課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・		

履修判定指標・評価基準

履修判定指標：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EDC1003			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発猟奇 EDC10				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究 II D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	2 年次/通年	単位数	2			
担当教員	三並めぐる					
授業の目的						
<p>本科目は、本科目は、看護実践開発特別研究 ID で作成した研究計画に沿って、研究目的を達成するように各種研究手法（調査、実験、質的研究）を用い、研究活動を遂行することを目的とする。研究実施の依頼と同意の確認、妥当性のある研究データの収集、正確で信頼性・信憑性・妥当性のある手法を用いた分析、整合性と一貫性のある結果と考察が展開された原著論文（新規性、独創性、社会的意義）を作成するとともに学術誌の投稿を指導する。</p>						
授業の概要						
<p>研究実施の依頼と同意の確認、妥当性のある研究データの収集、正確で信頼性・信憑性、妥当性のある手法を用いた分析、整合性と一貫性のある結果と考察が展開された原著論文を作成し、新規性、独創性のある研究論文を学術誌に投稿する。</p> <p>担当教員の指導可能な研究テーマは以下の通りである。</p> <p>1. 子どもの発達段階におけると家族の意思を尊重した支援、2. 子どもの養育環境における子どもの QOL 向上と家族支援、3. 養護教諭の危機管理能力と健康教育プログラム開発の実施・検証、4. 学校保健における健康課題のケアプロセスと養護教諭のコンピテンシー、5. タバコフリー社会実現にむけて小児と家族支援プログラム開発と効果検証など</p> <p>（オフィスアワー：水曜日 15：00-16：30）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション（三並） 研究活動を推進し、調査を実施する。	研究計画に沿って研究データの収集を行う。研究倫理原則に則り、丁寧なデータ、質の良いデータが収集できるための計画を綿密に行う。	研究倫理申請書に則り、各種の書類を準備する。調査を実施する。データを解析・分析する。	各種のデータ解析法関連の著書		
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9	2 年次 11 月に中間発表としてデータ解析の結果と考察を発表する。	1 段階の調査を集計・分析し、結果を出す。考察・結論までを発表する。中間発表の資料を作成し、プレゼンテーションする。質疑に適切にする。	データの分析を行う。結果を出し、考察し、結論を導き、発表する準備をする。質疑の内容を加味し、論文に活かす。次の調査の準備を始める。	中間発表資料		
10						
11						
12	学会に副論文を投稿する。	学会発表及び論文を投稿する。	データを分析し、	副論文		
13						
14						
15	副論文を投稿し掲載が決まる。	各雑誌の執筆要領と論文審査に則って、論文の完成度を挙げて掲載が決まる。	第 1 段階から次段階の調査へ移行し、調査を始める。	副論文		
教科書・参考文献など						
1 黒田裕子著：看護研究 step by step 第 6 版、医学書院、2,970 円（2023）						
2 牧本清子・山川みやえ編著：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第 2 版、日本看護協会出版会、3,520 円（2020）						

3 D.F. ポーリット他：看護研究 原理と方法、医学書院、10,450円 (2010)	
4 その他、研究方法に沿った参考書	
最終到達目標	評価方法
<p>自己の研究計画に追って、調査を実施し、倫理的配慮を徹底して実施したうえでデータの収集ができる。</p> <p>収集したデータを集計、分析し、一つの研究として結果と結論を導き出し、中間発表会で報告できる。</p> <p>副論文投稿できる。</p>	<p>課題達成度を以下の方法で評価する</p> <p>課題レポート(90%)・プレゼンテーション(10%)</p>
履修判定基準・評価基準	
<p>履修判定基準：</p> <p>評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p>(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>	

授業コード	EDC1102			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC11				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究ⅢD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	3年 通年	単位数	2			
担当教員	森田克也					
授業の目的						
<p>本科目は、看護実践開発特別研究ⅠD、ⅡDで遂行してきた研究を博士論文として完成させることを目的とする科目である、一つひとつの研究の「問い（リサーチクエスチョン）」に対して、信頼性と妥当性のある研究結果を導き出すとともに、いくつかの研究成果としてまとめ、研究の「問い」を構造化しながら執筆要領に沿って論文を執筆することを目的とする。</p>						
授業の概要						
<p>一つひとつの研究は信頼性と妥当性のある研究結果を導き出すとともに、いくつかの研究成果としてまとめ、総合的考察と臨床研究へのサジェスチョンで展開された研究論文は、新規性と独創性があり、実践に展開可能であること、今後の看護学の発展に貢献することが可能であることなどを重要視して論旨を展開する。 (オフィスアワー：授業終了後～30分間)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	研究活動（データ収集・分析・考察）と論文の作成	調査・分析が終了し、本格的に博士論文作成に取り組む。 11月までに博士論文を完成し、予備審査関連書類とともに論文を提出する。副論文の提出も必要となる（掲載が決定している場合は証明書でも可）。	調査の分析と考察、博士論文の執筆、各種書類の準備を整える。提出後は、3年次中間発表の準備を行う。同時に論文の内容を確認し、質疑に対応できるよう必要なデータは手元に置けるように準備する。論文は執筆要領と審査基準を確認し、内容が基準を満たすように記述する。	必要な資料は配布 松山看護学研究所2023年度大学院要覧、p32-41		
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9	3年次11月に予備審査願を提出し、審査を受ける	必要な書類を整えて、審査願を提出した後に、11月～12月に主査1名と副査2名の合計3名が審査を行う。研究の概要を15分程度（主査の指示による）で説明し、1時間程度の質疑に対応する。指摘事項などは筆記しておき、再提出などの指示があれば、指定された期日までに論文を修正し、提出する。	予備審査の質疑に対応できるように、準備をする。審査結果を受け、修正が必要な場合は指定の期日までに修正を行う。その際、質疑や指摘事項に対する修正について、対応表を作成する等、審査者が分かりやすいよう提示する。不合格となった場合は、次年度の提出に向けて論文内容を吟味し、追加・修正する。 中間発表の準備をする。	必要な資料は配布 松山看護学研究所2023年度大学院要覧、p32-41		
10						
11						
12	3年次1月に学位論文審査書類を提出し、審査を受ける。	予備審査に合格すると論文審査（本審査）の提出を行う。本審査は原則、予備審査と同じ3名の審査者で行われる。審査者からの修正事項、追加事項を15分程度で説明し、1時間程度の質疑に回答する。修正が必要な場合は、指定された期日に提出し、再度論文審査を受ける。	質疑に対応できるよう準備する。論文の概要と、予備審査後修正した点を15分程度で説明できるよう準備する。修正後再提出が必要な場合は、指定された期日に提出する（指摘内容と修正箇所が示された対応表も必要）。再度審査を受ける。不合格となった場合は、次年度の提出までに見直す。 最終発表の準備をする。	必要な資料は配布 松山看護学研究所2023年度大学院要覧、p32-41		
13						
14						
15						
	2月博士論文最終発表を行う（研究科の審査の一環）	博士論文最終発表会で発表を行う。				

16	最終論文審査と 口頭試験を受ける			
教科書・参考文献など				
2023 年度大学院要覧				
最終到達目標			評価方法	
博士論文を執筆し、予備審査・本審査を受けることができる。各審査で質疑に対応できる。助言及び指摘に基づいて、論文を適切に修正して提出できる。中間発表と最終発表で、自己の研究を報告でき、審査を終えることができる。最終的には論文審査に合格する。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDC1103			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC11				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究ⅢD	選択・必修	必修		社会発展力	○
配当学年/学期	3年次/通年	単位数	2			
担当教員	三並めぐる					
授業の目的						
<p>本科目は、看護実践開発特別研究ⅠD、ⅡDで遂行してきた研究を博士論文として完成させることを目的とする科目である。一つひとつの研究の「問い（リサーチクエスション）」に対して、信頼性と妥当性のある研究結果を導き出すとともに、いくつかの研究結果としてまとめ、研究の「問い」を構造化しながら執筆要領に沿って論文を執筆することを目的とする。そして総合的考察と臨床への研究的サジェスションで展開する研究論文は、新規性と独創性があること、実践に応用可能であること、今後、各領域の看護学の発展に貢献することが可能であることなどを重要視して論旨を展開する。</p>						
授業の概要						
<p>一つ一つの研究は信頼性と妥当性のある研究結果を導き、いくつかの研究結果をまとめ、総合的考察と臨床と研究へのサジェスションで展開された研究論文は、新規性と独創性があり、実践に展開可能であること、今後の各領域の看護学に発展的に貢献することが可能であることを重要視して、論旨を展開する。</p> <p>担当教員の指導可能な研究テーマは以下の通りである。</p> <p>1. 子どもの発達段階におけると家族の意思を尊重した支援、2. 子どもの養育環境における子どものQOL向上と家族支援、3. 養護教諭の危機管理能力と健康教育プログラム開発の実施・検証、4. 学校保健における健康課題のケアプロセスと養護教諭のコンピテンシー、5. タバコフリー社会実現にむけて小児と家族支援プログラム開発と効果検証など</p> <p>(オフィスアワー：水曜日 15:00-16:30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション (三並)	各調査と分析が終了し、本格的に博士論文作成に取り組む。 11月までに博士論文を完成し、予備審査関連書類とともに論文を提出する。副論文提出も必要となる(掲載が決定している場合は証明書でも可)	調査の分析と考察、博士論文の執筆、各種書類の準備を整える。提出後は、3年次中間発表の準備を行う。同時に論文の内容を確認し、質疑に対応できるよう必要なデータは手元に置けるように準備する。論文は執筆要領と審査基準を確認し、内容が基準を満たすように記述する。	必要な資料は配布 松山看護学研究科2023年度大学院要覧、p32-41		
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9	3年次11月に予備審査願を提出し、審査を受ける	必要な書類を整えて、審査願を提出した後に、11月-12月に主査1名と副査2名の合計3名が審査を行う。研究の概要を15分程度(主査の指示による)で説明し、1時間程度の質疑に対応する。指摘事項などは筆記しておき、再提出などの指示があれば、指定された期日までに論文を修正する。 博士論文の中間発表を行う	審査時の質疑に答えられるよう、準備をする。審査結果を受け、修正が必要な場合は、指定の期日までに修正を行う。その際、質疑や指摘事項に対する修正について、対応表を作成する等、審査者が分かりやすいよう提示する。不合格となった場合は、次年度の提出に向けて論文内容を吟味し、追加・修正する。 中間発表の準備をする	必要な資料は配布 松山看護学研究科2023年度大学院要覧、p32-41		
10						
11						
12	3年次1月に学位論文審査書類を提出し、審査を受	予備審査に合格すると論文審査(本審査)の提出を行う。本審査は、原則、予備審査と同じ3名の	質疑に対応できるよう、準備しておく。論文の概要と、予備審査後修正した点を15分程度で説明で	必要な資料は配布 松山看護学研究		

13	ける。	審査者で行われる。審査者からの修正事項、追加事項を15分程度で説明し、1時間程度の質疑に回答する。修正が必要な場合は、指定された期日に提出し、再度論文審査を受ける。	きるよう準備する。修正後再提出が必要な場合は、指定された期日に提出する（指摘内容と修正箇所が示された表も必要）。再度審議を受ける。不合格となった場合は、次年度の提出までに見直す。最終発表の準備をする。	科2023年度大学院要覧、p32-41
14	2月博士論文最終発表を行う（研究科の審査の一環）	最終発表を行う。		
15				
16	最終論文審査と口頭試験を受ける			

教科書・参考文献など

2023年度大学院要覧

最終到達目標

評価方法

1. 博士論文を執筆し、予備審査・本審査を受けることができる。
2. 各審査で質疑に対応できる。助言及び指摘について、論文を適切に修正して提出できる。
3. 中間発表と最終発表で、自己の研究を報告でき、審査を終えることができる。
4. 最終的には論文審査に合格する。

課題達成度を以下の方法で評価する
博士論文執筆(90%)・プレゼンテーション(10%)

履修判定基準・評価基準

履修判定基準：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EDC1105			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	自立研究力	○
科目区分	専門科目 看護実践開発領域 EDC11				研究教育力	○
授業科目名	看護実践開発特別研究ⅢD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	3年/通年	単位数	2			
担当教員	高田律美					
授業の目的						
<p>本科目は、看護実践開発特別研究ⅠD、ⅡDで遂行してきた研究を博士論文として完成させることを目的とする科目である。一つひとつの研究の「問い（リサーチクエスト）」に対して、信頼性と妥当性のある研究結果を導き出すとともに、いくつかの研究成果としてまとめ、研究の「問い」を構造化しながら執筆要領に沿って論文を執筆することを目的とする。そして総合的考察と臨床への研究的サジェスチョンで展開する研究論文は、新規性と独創性があること、実践に応用可能であること、今後、各領域の看護学の発展に貢献することが可能であることなどを重要視して論旨を展開することも目的とする。</p>						
授業の概要						
<p>本科目は、各自の研究テーマについては院生の関心あるテーマを探求するが、担当教員の研究テーマを参考にしながらテーマを探求してもよい。それらは以下の通りである。1. 思春期前期からのプレコンセプションケアの研究、2. 睡眠研究及び乳幼児突然死に関連する研究、3. リプロダクティブヘルス・ライツに関する研究、4. 出産直後の子育て（母乳育児等）の子どもの成長要因に及ぼす影響、5. 子育て期にある夫婦の社会関係に関連するコンストラクト要因の研究、6. 母子を一体とした領域・時系列横断的な研究、途上国の母子調査研究</p> <p>本科目の展開は3年次の10月に博士論文予備審査書類提出、11月博士論文中間発表、1月博士論文本提出・本審査、2月博士論文最終発表、最終審査、最終試験があることを念頭に進めていく。授業はゼミ式でディスカッションを行う。 （オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。第2段階の調査の実施を行う。	各調査と分析が終了し、博士論文の執筆を行う。副論文の投稿が必要な際は投稿する。	調査と分析を行う。副論文の投稿が必要な際は投稿する。	大学院要覧 適宜提示		
2、3	データ収集とデータ分析	必要時追加のデータ収集を行う。データの分析を行う。分析結果について論文を追加する。それらの内容をディスカッションする。	事前にデータ入力と分析し結果を執筆する。分析の適切な処理を確認する。事後はディスカッションの内容について論文に盛り込んでいく。	適宜提示		
4、5	研究論文予備審査提出の準備	10月までに論文を完成し、予備審査書類と副論文を提出できるように準備をする。（掲載が決定している場合は証明書でも可）	博士論文の執筆をおこなう。各種書類の準備を整える。	大学院要覧 適宜提示		
6-9	研究論文の審査提出後の中間発表の準備	11月までに必要な書類を整えて、審査願を提出する。その後、11月から12月に主査1名と副査2名の合計3名が審査を行う。研究の概要を15分程度（主査の指示による）で説明し、1時間程度の質疑に対応する。指摘事項などは筆記しておいき、再提出などの指示があれば、指定された期日までに論文を修正する。論文追加修正し中間発表の準備をする。	審査時の質疑にこたえられるよう、準備をする。市KK差結果を受け、修正が必要な場合は、指定の期日までに修正を行う。その際、質疑やしていき事項に対する等、審査者がわかりやすいよう提示する。不合格になった場合は、次年度の提出に向けて論文の内容を無吟味し、追加・修正する。	大学院要覧 適宜提示		
10	中間発表の直前の準備	11月の中間発表会の準備を行う。	中間発表会の最終準備を行う。	大学院要覧 適宜提示		

11-14	博士論文審査書類を提出し審査を受ける準備	1月に博士論文審査書類を提出し審査を受ける準備ができる。予備審査に合格すると論文審査(本審査)の提出を行う。本審査は、原則、予備審査と同じ3名の審査者で行われる、審査者からの修正事項、追加事項を15分程度で説明し、1時間程度の質疑に回答する。修正が必要な場合は指定された期日に提出し、再度論文審査を受ける。	質疑に対応できるよう、準備しておく。論文の概要と、予備審査後修正した点を15分程度で説明できるよう準備する。修正後再提出が必要な場合は、指定された期日に提出する(指摘内容と修正箇所が示された表も必要)。再度審査を受ける。不合格になった場合は、次年度の提出までに見直す。	大学院要覧 適宜提示
15	博士論文最終発表(研究家の審査の一環)の準備	2月の博士論文の最終発表の準備を行う。	最終発表の準備を行う。	大学院要覧 適宜提示
	最終論文審査と口頭試験			

教科書・参考文献など

*看護研究原理と方法 第2版、ポーリット&ハングラ著、医学書院、(2014)、*バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版、Suzan K. Groveら著、ELSEVIER (23015)、適宜提示する。

最終到達目標

1. 博士論文を執筆し、予備審査・本審査をうけることができる。
2. 各審査で質疑応答に対応でき、各審査の助言および指摘について、論文を適切に修正し提出できる。
3. 中間発表・最終発表で自己の研究の報告ができる。最終的に論文審査に合格ができる。
4. 専門領域のオリジナリティのある論文が投稿できる。
5. 教育研究者・実践者としての倫理観や倫理的態度を身につけることができる。

評価方法

課題達成度を以下の方法で評価する
筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)

履修判定基準・評価基準

履修判定基準：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100~80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79~70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69~60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EDD0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD01				研究教育力	○
授業科目名	地域包括高齢者看護学特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2			
担当教員	讃井真理 赤松公子					
授業の目的						
本研究は、高齢者看護学の研究動向を踏まえ、高齢者の身体的健康レベルを高めるための介護予防の支援と、QOLを高め、尊厳を守ることを目標とした先駆的看護介入、及び先進的技術開発と検証を目指すための科目である。諸外国の保健医療福祉介護の制度の現状と、日本の超高齢多死社会の課題を分析するとともに、自己が展開する看護の場における課題を分析し、ケアの展開方法論、評価法、管理法などに関する自己の研究課題遂行への示唆を得る。						
授業の概要						
<p>(讃井真理/7回) 日本の超高齢社会の現状と高齢者の健康、QOLについて考察し、諸外国の高齢者保険医療福祉制度と、日本の制度に関する研究実態から高齢者看護の課題を分析する。高齢者の尊厳を維持するための社会的課題と権利擁護に関する制度、及びその研究について諸外国の動向を考察する。</p> <p>(赤松公子/7回) 介護予防の視点から最新の研究をもとに健康維持のためのエビデンスを探究する。日常生活維持の視点から身体的、心理的、社会的側面を的確に評価する方法を探究する。認知症看護に関連した研究の動向から、課題と解決方法について考察する。高齢者看護における家族支援と、住み慣れた街で生活し続けるための社会資源の実情と課題、サービス開発について議論する。</p> <p>(讃井真理 赤松公子/1回) 文献を中心に最新の高齢者研究、高齢者ケア研究、高齢者施策研究、及び高齢者の倫理に関連した研究の動向について、さらに介護予防と認知症看護・ケアと家族看護に関連したテーマで社会的課題と対策をまとめて発表する。ディスカッションを通して多角的に課題と対策を探究する。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目初エンゲージメント	本科目の進め方・国内外における高齢者の考え方と現状、及び健康関連実態＝講義とディスカッション	高齢者の健康・QOL・心理について調べておく。	資料は配布 高齢社会白書、2022.		
2	高齢者に関連する制度 (讃井)		高齢者看護の実態の整理			
3	高齢者に関連する保健医療福祉の制度 (讃井)	国内外の高齢者の保健医療福祉に関連した制度＝プレゼンテーション・ディスカッション	自分の一番身近な高齢者関連の法制度を確認してくる。海外の各種制度を調べてくる。違いを整理し、日本の課題を考察する	二本泉：第7回 COVID-19 オンタリオ州の死亡者の7割が施設入所者！全ての入所施設でPCR検査実施 最新！カナダの施設の感染防止策、ケアマネジメント、31(6)、27-29、2020.		
4				大井玄：認知症の人との共生社会とはー認知症高齢者は私であるー、老年精神医学雑誌、32(2)、2021.		
5	高齢者看護の倫理、高齢者の権利擁護に関連する制度、実態 (讃井)	高齢者の倫理関連の法制度の現状と課題、認知症とCovid-19の影響とケースレポート＝プレゼンテーション・ディスカッション	高齢者の倫理に関連する法制度を調べ、またケースレポートしておく。交換した情報の整理と高齢者の人権や尊厳に関連した先行研究をまとめておく。高齢者の権利に関してレポートにまとめる。			
6						
7	日本の制度の課題と地域包括ケア (讃井)	地域包括ケア、加えて高齢者の権利擁護に関連した研究動向＝プレゼンテーション・ディスカッション	地域包括ケアの研究について調べておく。地域包括ケアにおける高齢者看護の役割と機能の整理			
8	介護予防のための健康維持に関する研究の動向 (赤松)	介護予防の視点から最新の研究をもとに健康維持のためのエビデンスに関する議論	介護予防のための健康維持に関する論文の検索と論文要約	適時提示		
9						
10	生活評価に関する研究の動向 (赤松)	身体・心理・社会的側面から生活の評価に関する議論	身体・心理・社会的側面から生活を評価している論文の検索と論文要約	適時提示		
11						

12	認知症看護の課題と解決方法（赤松）	認知症看護に関連した研究の動向から課題と解決方法の議論	認知症看護に関する論文の検索と論文要約	適時提示
13				
14	高齢者看護における家族支援（赤松）	高齢者看護における家族支援と社会資源の実情と課題、サービス開発の議論	高齢者看護における家族支援と社会資源の課題を論じた論文の検索と論文要約	適時提示
15	課題発表（讃井、赤松）	地域包括ケアにおける高齢者看護の課題＝発表とディスカッション	課題をまとめて発表できるよう準備する。考察を深める。	発表資料
16	試験			
教科書・参考文献など				
参考文献 高齢社会白書： https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2022/zenbun/04pdf_index.html 、桜美林大学大学院・老年学学位プログラム監修：老年学を学ぶ、高齢社会の学際的研究、桜美林大学出版会、2021. 3, 200円+税、会田薫子：長寿時代の医療・ケア エンドオブライフの論理と倫理、ちくま新書、2019. 900円+税、朝田隆：ポストコロナ時代の高齢者ケア、第一法規、2021. 2, 700円				
最終到達目標			評価方法	
日本の超高齢社会の現状と高齢者の健康、QOL について省察し、諸外国の各種法制度から日本の高齢者看護の課題を考察できる。高齢者の尊厳を維持するための社会的課題と権利擁護に関する制度、及びその研究について諸外国の動向から日本の高齢者医療・看護の課題を考察できる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準： 評価基準： 評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDD0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○			
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD02				研究教育力	○			
授業科目名	地域包括高齢者看護学 特別演習D	選択・必修	選択		社会発展力	○			
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2						
担当教員	赤松公子 讃井真理								
授業の目的									
<p>高齢者保健医療福祉介護の先進的介入方法について、諸外国と日本の現状から新たな技術を取り入れた取り組みについて、知識と技術の発展と、高齢者の QOL を高めるために、質の高い高齢者看護実践の探究を目的とした科目である。高齢者の日常生活を支援するための、新たな取り組み、技術開発について、研究的視点でケアプログラム、およびケア関連学会参加等により、得られた新たな知識を踏まえて多角的な視点で自己の臨床現場の課題解決、自己の研究課題の明確化への示唆を得る。</p>									
授業の概要									
<p>(赤松公子/14回) 高齢者の日常生活援助方法、高齢者サポートシステムの開発に関する研究的探究と、超高齢社会の介護支援、高齢者アセスメント法、家族看護・社会資源の課題と開発、他職種連携に関する先駆的実践と研究などに関する、学生の研究テーマに沿って、先駆的実践から自己の展開する臨床現場、及び研究フィールドの課題と対策・解決に向けた戦略を明確にする。</p> <p>(讃井真理/14回) 看護の質評価と管理法、先端技術を活用した看護ケア開発、エンドオブライフケアの支援法の開発、各種制度の課題と制度構築などに関する、学生の研究テーマに沿って、先駆的実践から自己の展開する臨床現場、及び研究フィールドの課題と対策・解決に向けた戦略を明確にする。</p> <p>(讃井真理 赤松公子/2回) 前述を文献およびフィールドワークから検討したうえで、高齢者の生活課題、身体的介入、セルフケア、介護予防、認知症ケア、各施設でのケア実践、認知症看護管理、看取りケア、家族看護、看護システムなどの研究的課題とケア開発について発表し、自己の臨床的・研究的課題を深く追究する。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>									
授業の計画及び展開方法									
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献					
1	科目オリエンテーション (赤松)	前半 15 回の授業設計	取り組み課題の準備	適時提示					
2									
3	自己の課題に合わせた研究の動向調査 (赤松)	自己の課題に合わせた書籍や論文による研究の動向調査	動向調査の実施						
4									
5									
6							発表資料作成		
7	動向調査成果発表 (赤松)	成果発表							
8	自己の課題の合わせたフィールドワーク計画立案 (赤松)	フィールドワークの計画に関する議論	フィールドワークの計画立案						
9									
10	自己の課題の合わせたフィールドワーク (赤松)	フィールドワーク	フィールドワーク						
11									
12									
13									
14							発表資料作成		
15	フィールドワーク成果発表	成果発表							
16	後半オリエンテーション (讃井)	15 回の取り組み設計	シラバスを確認して課題取り組みの準備をする				資料は配布		
17									

18	自己の課題に合わせた高齢者看護ケアの研究の動向(讃井)	先行研究を2編以上選定し、それぞれの高齢者看護に関連した課題と対策を考察＝資料作成と発表、ディスカッション	発表資料の作成、発表準備、議題提案などを考えておく。高齢者看護に関連した課題についてさらに追究するための設計を考える。
19			
20			
21			
22	学会に参加し、自課題に関する研究者間のディスカッション(12/9-10 看護科学学会、or 11/-健康心理学会等)(讃井)	学会に参加し、高齢者看護、自己の研究課題に関連する情報収集と、自己研究課題に関連する研究に対する意見交換を行う。	抄録集及び学術集會集録などを事前に読み、意見交換に必要な知識を収集しておく。自己の研究課題、あるいは、高齢者看護関連の倫理・教育に関連する研究についての疑問などをまとめておく。
23			
24			
25			
26	自己の課題に合わせた高齢者研究への発展(讃井)	自己の課題に関連する高齢者の看護ケア、高齢者の倫理における課題解決法の検討＝資料作成、発表、ディスカッション	自己の研究課題について、高齢者研究から考察して得た知見をまとめ、自己の研究的思考・方向性をまとめておく。さらに深める。
27			
28			
29			
30	課題に対する解決法の明確化(赤松・讃井)	自己の課題に関連する、高齢者看護の研究的問題解決法について、研究的思考で発表、ディスカッションする	
31			試験
教科書・参考文献など			
<p>参考図書： 適宜提示 瀬口昌久：「完熟」の老いの探究，さくら社，2021. 1, 600 円+税、村上晴彦；ケアとは何か 看護・福祉で大事なこと，中公新書，840 円+税、B. ドゥ・フリース監，野村豊子他訳：人生の終焉，北大路書房，2005. 3, 500 円+税、鶴見哲也他：幸福の測定，中央経済，2021. 2, 600 円+税</p>			
最終到達目標		評価方法	
(1) (2) 先駆的实践から自己の展開する臨床現場、及び研究フィールドの課題と対策・解決に向けた戦略について考察できる。		課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)	
履修判定基準・評価基準			
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)			

授業コード	EDD0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD05				研究教育力	○
授業科目名	地域包括在宅ケア特論D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	1			
担当教員	田中正子 宮崎博子					
授業の目的						
<p>本科目は、あらゆる世代の個人・家族・集団を対象とした地域における看護活動実践者・研究者として、地域アセスメントに関する知識と技術をより深く学び、家族関係に関する理論、地域の社会資源としての組織と人材づくりにおける課題について論述することを目的とする。また、あらゆる健康レベルの個人・家族・集団保健医療福祉の連携と、住み慣れた地域で生き残るために必要な支援、仕組み、人づくりについて言及し、それらの質を高めるための人材育成についても論述する。健康管理と地域づくりの視点から、社会の仕組みと地域包括ケアの意義と役割、課題について詳述する。</p>						
授業の概要						
<p>田中は臨床看護および訪問看護の経験を生かして授業を展開する。保健医療福祉専門職などの多職種連携が、人々の生涯を通じた生活支援に及ぼす成果と課題を、以下の視点から検証・学修する。</p> <p>宮崎は、行政保健師としての経験を生かして授業を展開する。地域における高齢者、身体障がい者、精神障がい者などの保健医療福祉の現状について論じる。また、各発達レベル、健康レベルで抱える身体的、心理社会的課題について実践の場から、あるいは既存の文献を活用し、地域看護管理について論述する。またリスクマネジメントとデータマネジメントについて、さらに危機管理に関する一体的活動についても学修する。さらに地域の健康を維持し、今後の多死社会に必要な地域での看取りについても論述する。そして、地域社会全体の健康を維持するための管理の在り方と人づくりについても言及し、地域を包括することの意味について論じる。</p> <p>(オフィスアワー：田中；水曜日 13：20-14：50 宮崎；月曜日 12:20~13:00)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目ガイダンス 地域の現状 (田中)	日本の人口と社会保障の概要	シラバスを読み、社会保障制度の最近の話題について調べておく。 社会保障制度の課題をまとめておく	適時提示		
2	地域保健活動に関連する法制度制定の現状(田中)	地域保健活動の基盤となる法・制度制定までのしくみ 看護学上の課題と対策を検討する	地域保健活動の基盤となる法制度の改正の動きと、看護職能団体としての活動を調べておく。	適時提示		
3	サービス提供システムの実情(田中)	医療保健サービスの提供システム 看護学上の課題と対策を検討する。				
4	医療依存状況になる高齢者・障がい者のケアシステム(田中)	介護保険サービスの提供及び医療依存状況にある高齢者のケアとシステムの課題	介護保険法、介護保険サービス利用上の課題をまとめておく。 ケアシステムの構造を確認しておく。	適時提示する。		
5	介護保険制度による地域保活システムの整備と課題(田中)	介護保険法・地域医療介護総合確保促進法による地域包括ケアシステムの整備の現状	地域医療介護総合確保促進法による包括システムについて調べておく。	適時提示する。		
6	地域包括ケアの構造(田中)	地域包括ケアの構造と実際	地域包括ケアの諸外国の現状を調べておく。日本との相違点を確認しておく。	適時提示する。		
7	地域の健康管理、予防活動の実態と課題(宮崎)	地域の健康管理活動・生活習慣病予防活動に関する地区踏査・ICT活用による地域ストレンクス・ウイークネスの分析	地域の健康情報を確認しておく。 成功している ICT 活用、これから活用を予定している AI, DX のシステム展開を調べておく。 今後の看護の方向性を考察	適時提示する。		

8	QOL を高めあえる地域での暮らしに向けた看護の役割とネットワーク構築・強化にむけた課題 (田中)	多様な地域生活者の QOL を高める地域包括ケアシステム・ネットワークの検証と看護の役割に関する考察	QOL を高めるためのケアシステム、ネットワーク構築に関する研究等を調べておく。 自研究テーマと照合し、打開策を考察する。	適時提示する。
9	保健医療福祉の現状 (宮崎)	地域における、高齢者・身体障がい者・精神障がい者などの保健医療福祉の現状・課題 講義と討議を行う。	関連する文献や国民衛生の動向などを熟読しておくこと。 事後学修は、レポートを課す。	適時提示する。
10	身体的、心理社会的課題 (宮崎)	各発達レベル、健康レベルにおける身体的、心理社会的課題と地域看護管理 講義と討議を行う。	関連する文献の検索や、これ迄学修したテキストを復習しておく。 事後学修は、レポートを課す。	適時提示する
11	にも包括ケアシステム (宮崎)	にも包括ケアシステムの強化推進 講義と討議を行う。	にも包括ケアシステムに関する報告書を読んでおく。 事後学修は、レポートを課す。	適時提示する
12	リスクマネジメント、データマネジメント、健康危機管理 (宮崎)	健康危機管理と地域ヘルスケアシステム 講義と討議を行う。	健康危機管理に関する文献を複数検索、熟読し、資料化しておく。 事後学修は、レポートを課す。	適時提示する
13	健康危機管理 (宮崎)	感染症を中心とした危機管理活動 講義と討議を行う。	感染症に対する公衆衛生看護活動に関する文献を複数検索、熟読し、資料化しておく。 事後学修は、レポートを課す。	適時提示する
14	看取り、ケアシステム (田中)	最後まで地域に住み続けるためのケアシステム 講義と討議を行う。	関連する文献を複数検索、熟読し、資料化しておく。 事後学修は、レポートを課す。	適時提示する
15	地域包括ケア (宮崎)	住民の健康の保持増進のための管理・地域包括ケア 講義と討議を行う。 まとめを行う。	関連する文献を複数検索、熟読し、資料化しておく。 事後学修は、レポートを課す。	適時提示する
16	試験			

教科書・参考文献など

教科書は指定しない。適時、提示、または配布する。参考図書：国民衛生の動向 2022/2023

最終到達目標

- ①高齢者及び障がい者の保健医療福祉介護の制度の現状が分かる。
- ②地域看護管理の意義が分かる。
- ③地域における看取りおよびケアシステムについて、自分の考えを述べることができる。
- ④にも包括について、理解でき、自分の考えを述べることができる。
- ⑤地域における健康危機管理活動について述べるができる。

評価方法

課題達成度を以下の方法で評価する
筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・
プレゼンテーション(20%)・

評価基準

評価の基準は以下のとおりとする。

- A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)
- B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)
- C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EDD0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD06				研究教育力	○
授業科目名	地域包括在宅ケア特別演習 D	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2			
担当教員	田中正子・宮崎博子					
授業の目的						
<p>本科目は、地域・在宅看護領域における看護活動実践者・研究者としての視点で、地域の持つ課題を明らかにし、その課題解決のための実践的展開の質向上を目指すための科目である。あらゆる世代において存在する、地域のストレンクスとウィークネスを分析し、健康関連の問題解決のための戦略を検討する。</p>						
授業の概要						
<p>健康関連の問題解決のための戦略を検討するために、保健医療福祉の制度に関する国、県、市町など行政の動向と、制度づくり、システムづくりの場のフィールドワーク、及び既存の報告書などから理解し、地域における看護活動研究への示唆が得られるよう授業展開する。</p> <p>科目担当者は、臨床看護及び訪問看護の実務経験をもつ教員と、行政保健師の実務経験をもつ教員2名で担当する。授業は、文献検索・教員の実務経験を活かした講義と討議、先駆的事例のフィールドワーク及び情報収集、プレゼンテーションで展開する。</p> <p>多様な対象に改革的な地域包括ケアを提供する保健医療福祉の高度な専門性が問われる中、地域住民の生涯を通じた生活支援の課題を、授業計画に示した研究的視点から検証・学修する。</p> <p>(オフィスアワー：田中正子 水曜日 12:20～13:00 宮崎博子 月曜日 12:20～13:00)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション (田中)	①人口・経済・社会保障の構成及び関係法規	配付された資料を読んでおく。事後学修は、レポートを課す。	適時提示する。		
2	ソーシャルキャピタル (田中)	②地域在宅を支えるソーシャルキャピタル 講義と討議	複数の文献を検索し、読み込んでおく。事後学修は、レポートを課す。	適時提示する。		
3	医療・介護サービス、社会資源 (田中)	③医療・介護・公共サービスと民間活動 講義と討議	文献を複数、検索の上熟読しておく。事後学修は、レポートを課す。	適時提示する。		
4	介護保険制度 地域包括ケアシステム (田中)	④介護保険と地域包括ケアシステム (ネットワーク) の新しい潮流 講義と討議	文献を複数検索の上熟読しておく。事後学修は、レポートを課す。	適時提示する。		
5	地域ストレンクス (田中) ウィークネス	⑤ICT活用による地域ストレンクス・ウィークネスの分析 講義と討議	文献を複数検索の上熟読しておく。事後学修は、レポートを課す。	適時提示する。		
6	医療依存状況下にある人のQOL追究 (田中)	⑥医療依存状況にある高齢者の生活支援 講義と討議	文献を複数検索の上熟読しておく。事後学修は、レポートを課す。	適時提示する。		

7	健康寿命の延伸 (田中)	⑦健康増進・健康寿命伸展活動 講義と討議	文献を複数検索の上熟読しておく。 事後学修はレポートを課す。	適時提示する。
8	QOL 地域生活支援ネットワーク (田中)	⑧憲法に則った QOL を高める地域生活支援ネットワークの検証 講義と討議	文献を複数検索の上熟読しておく。 事後学修は、レポートを課す。	適時提示する。
9	先駆的活動事例 (田中)	これまでの、文献研究と講義・討議により、研究テーマを選び、先駆的事例を検討・決定。フィールドワークの計画を立て、発表する。	文献を複数検索の上熟読しておく。 事後学修は、レポートを課す。フィールドワークの計画を立案する。	適時提示する。
10	フィールドワーク (田中)	計画の発表。フィールドワーク先の組織・情報を収集する。調査内容を検討・決定する。	計画発表の準備。 決定した調査内容を実施するにあたり、進め方を熟考。	適時提示する。
11	先駆的活動 (田中)	フィールドワーク 先駆的な取り組みを行うリーダーの特性。契機。訪問先の組織・マネジメントを知る。	当日の現地での調査がスムーズに進められるよう準備しておく。 事後学修では、調査結果を整理し、記録しておく。	適時提示する。
12	リーダーシップ (田中)	フィールドワーク トップリーダーのマネジメント・リーダーシップを知る。	当日の現地での調査がスムーズに進められるよう準備しておく。 事後学修では、調査結果を整理し、記録しておく	適時提示する。
13	評価方法 (田中)	フィールドワーク 先駆的な取り組みに関する分析・評価（活動のリーダー及び活動に関わる住民・職員からも意見を聞く。）	調査内容を正確に文字化し、項目ごとに整理しておく。 事後学修では、プレゼンテーションの内容を吟味し、検討する。	適時提示する。
14	フィールドワーク分析・評価 (田中)	プレゼンテーションの準備 フィールドワークの結果を分析・評価し、プレゼンテーションできるよう準備する。	プレゼンテーションの案を資料化しておく。 プレゼンテーションの準備を行う。	適時提示する。
15	フィールドワーク評価・発表 (田中)	プレゼンテーション・発表・評価 発表し、振り返りを行う。	プレゼンテーション準備・レポート課題を課す。	適時提示する。
16	後半オリエンテーション(宮崎) 成人期の保健医療福祉制度	本講義の目標や概要を説明する 地域で生活する成人期の保健医療福祉制度の現状と課題・対応 討議・先駆的事例の検討	事前学修：左記の視点から、文献を複数検索。資料化しておく。 事後学修：授業後は、レポートにまとめ提出する。	適時提示する。

17	障がい者の保健医療福祉制度 (宮崎)	地域で生活する障がい者の保健医療福祉制度の現状と課題・対応 討議・先駆的事例の検討	事前学修：文献を検索し、資料化する。 事後学修：討議後、レポートを課す。	適時提示する。
18	地域生活する障がい者の生活と人々の心理に影響を与える要因と地域看護 (宮崎)	障がい者の生活と、人と人との集団心理状態、孤立による心理、感染症に関する心理変化等を含め 地域看護の在り方を論じる。 討議・先駆的事例の検討	事前学修：文献を検索し、資料化する。 事後学修：討議後、レポートを課す。	適時提示する。
19	健康危機管理リスクマネジメント (宮崎)	地域における健康危機管理とリスクマネジメント 健康危機管理と課題、問題解決について多角的な観点から議論 討議・先駆的事例の検討	事前学修：文献を検索し、資料化する。 健康危機管理と課題、問題解決について多角的な観点から議論 事後学修：授業で学修した課題を整理し、そのうえで、地域の看護活動研究に繋がる実践事例を選択。フィールドワークの計画を立案する。	適時提示する。
20	フィールドワーク計画 (宮崎) 健康課題の発見	フィールドワークの計画発表・評価 フィールドワーク先の組織・地域の健康課題を情報収集・分析	事前学修：計画案を作成、配布用に資料化しておく。 事後学修：地域の情報を検索し資料化しておく。 フィールドワーク調査内容の検討	適時提示する。
21	フィールドワーク (宮崎) 先駆的事例の確定	フィールドワーク先決定・調査内容の確認・討議、決定	事前学修：フィールドワーク先の地域の健康課題や情報及び文献を検索し、資料化する。 事後学修：調査内容を修正、準備する。	適時提示する。
22	フィールドワーク (宮崎) 現地訪問による調査	①フィールドワーク：先駆的取り組みの契機・トップリーダーの特性を知る。 ②フィールドワーク：訪問調査先の組織・マネジメントを知る。 ③フィールドワーク：トップリーダーのマネジメント・リーダーシップを知る。 ④フィールドワーク：先駆的取り組みについてリーダー及び活動に関わる住民・職員からも意見を聞く。	事前学修：フィールドワークに向けて準備を行う。 当日の現地での調査がスムーズに進められるよう準備しておく。 事後学修：調査結果を整理し、記録しておく。調査内容を正確に文字化し、項目ごとに整理しておく。	適時提示する。
23				
24				
25				

26	フィールドワーク分析（宮崎）	フィールドワーク：先駆的取り組みについて分析・討議	事前学修：調査内容を整理し、資料化する。 事後学修：討議した内容を更に熟考する。	適時提示する。
27	フィールドワーク分析・評価（宮崎）	フィールドワーク：先駆的取り組みについて分析・評価	事前学修：分析結果を資料化しておく。 事後学修：プレゼンテーション内容の計画案を作成する。	適時提示する。
28	プレゼンテーション媒体作成（宮崎）	プレゼンテーション内容検討・媒体を作成する	事前学修：プレゼンテーション内容を資料化しておく。	適時提示する。
29			事後学修：発表準備を進める。	
30	結果発表（宮崎）	プレゼンテーション（結果発表）・まとめと評価	事前学修：プレゼンテーション・評価 事後学修：レポートにまとめ提出する。	適時提示する。
教科書・参考文献など				
教科書については、プリント資料を配布予定。参考文献は、適時、提示する。				
最終到達目標			評価方法	
1) 地域包括ケアの組織的課題へのアプローチに参考となる、先駆的な取り組みをしている事例を広い視野をもち見つけ出すことができる。 2) 先駆的な活動事例について、成功の要因、重要な事柄・実践者の能力などについて、論理的に分析、説明できる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・	
評価基準				
評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EDD0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD07				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究 ID	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	讃井真理					
授業の目的						
本科目は、保健医療福祉の場における看護の質を高めるケア実践と、臨床志向で、臨床と教育の往還的な作用効果のある研究とにより、ケアプログラムの効果検証を目指し、研究計画を展開するための科目である。						
授業の概要						
担当教員が展開する授業は、文献レビューによる課題整理と最新の研究テーマに関する課題の明確化、研究課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い、倫理審査を受ける。各担当教員の指導可能な研究テーマは以下の通りである。 (オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション (讃井) 文献のクリティークを行い、研究課題を見つける。	自研究に関連する文献の検索を行い、文献レビューによる研究課題周辺の様々な知見を整理・分析し、研究課題を絞る。	先行研究を検索し、自己の研究課題の周辺テーマについて情報を集める。文献をクリティークし、課題の周辺の研究に整理・分析を行う。研究課題を明確化していく。	関連文献は自身で検索 山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版：研究手法別のチェックシートで学ぶ、日本看護協会出版会、2020.		
2						
3						
4						
5						
6	研究目的を明確にし、研究計画書を作成する。	文献を分析し、課題を論理的に説明。研究の目的と目標を設定し、それに合う研究方法を選択し、研究の意義と価値を示す。	研究計画書を記載していく。いくつかの研究で構成されるように研究を設計し、往還的な研究であることを確認する。	研究計画書案		
7						
8						
9						
10	1年次11月に研究論文の中間発表として、研究計画発表を行う	研究計画を立て、中間発表の資料を作成する。発表によって矛盾や疑問点を解決して研究計画書を完成させる	計画書の文章を何度も読み返し、完成度を高める。発表準備を行う。発表後に質疑応答の内容を加味して計画書を修正する。	先行研究論文は自身で検索		
11						
12						
13	1年次以内に研究倫理申請を行う	倫理審査申請書を作成し、各書類を整えて、申請する。	倫理審査申請書の様式を事前に取り寄せる。倫理審査の結果を受けて修正する	D.F. ポーリット他：看護研究、原理と方法、医学書院、2010.		
14						
15	研究調査を開始する	倫理審査で指摘部分を改善する。承認が下りたら、調査を開始する	倫理審査と計画書を読みかえし、指摘があれば改善する。	倫理申請書案		
16						
教科書・参考文献など						
D.F. ポーリット他：看護研究、原理と方法、医学書院、2010. 10,450円 山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版：研究手法別のチェックシートで学ぶ、日本看護協会出版会、2020. 3,520円 その他、研究方法に沿った参考書						
最終到達目標				評価方法		
自己の研究課題解決に向けた独創的な研究計画書が完成する。 倫理委員会に申請書を提出する。 博士論文に関連する副論文作成の準備をする。				課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(90%)・プレゼンテーション(10%)		

履修判定基準・評価基準

履修判定基準：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EDD0702			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD07				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究 ID	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	2			
担当教員	赤松公子					
授業の目的						
本科目は、保健医療福祉の場における看護の質を高めるケア実践と、臨床志向で、臨床と教育の往還的な作用効果のある研究とにより、ケアプログラムの効果検証を目指し、研究計画を展開するための科目である。						
授業の概要						
担当教員が展開する授業は、文献レビューによる課題整理と最新の研究テーマに関する課題の明確化、研究課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い、倫理審査を受ける。 (オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	研究課題の 焦点化	自らが取り組むことを目指す研究課題について既存の文献を検索し、研究としての意義を視野に入れて、研究課題を焦点化する。	学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示		
2						
3						
4						
5	研究デザインの 選定	焦点を当てる現象を明らかにして、適切な研究デザインを選定する。	学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示		
6						
7						
8	研究デザインの 選定	焦点を当てる現象を明らかにして、適切な研究デザインを選定する。	学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示		
9						
10						
11	研究方法の検討	対象者、データ収集方法、データ収集期間の検討を行う。	学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示		
12						
13	倫理的配慮の検討	研究課題を遂行するにあたり必要な倫理的配慮法を検討する。	学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示		
14	研究計画書の作成	中間発表会で計画を発表できるように作成を目指す。	学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示		
15	倫理審査申請書の作成	倫理審査申請書の作成を目指す	学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示		
教科書・参考文献など						
適時提示						
最終到達目標				評価方法		
研究計画書と倫理審査申請書の作成ができる。				課題達成度を以下の方法で評価する 計画書(70%)・申請書(20%)・ プレゼンテーション(10%)		

履修判定基準・評価基準

履修判定基準：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EDD0801			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD08				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究ⅡD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	2			
担当教員	讃井真理					
授業の目的						
本科目は、地域包括ケア特別研究ⅡDで作成した研究計画に沿って、研究目的を達成するように調査を遂行することを目的とする。						
授業の概要						
研究実施の依頼と同意の確認、妥当性のある研究データの収集、正確で信頼性・信憑性、妥当性のある手法を用いた分析、整合性と一貫性のある結果と考察が展開された原著論文を作成し、新規性、独創性のある研究論文を学術誌に投稿する。 (オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション(讃井) 研究活動を推進し、調査を実施する。	研究計画に沿って研究データの収集を行う。研究倫理原則に則り、丁寧なデータ、質の良いデータが収集できるための計画を綿密に行う。	研究倫理申請書に則り、各種の書類を準備する。調査を実施する。データを解析・分析する。	各種のデータ解析法関連の著書		
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9	2年次11月に中間発表としてデータ解析の結果と考察を発表する。	1段階の調査を集計・分析し、結果を出す。考察・結論までを発表する。中間発表の資料を作成し、プレゼンテーションする。質疑に適切にする。	データの分析を行う。結果を出し、考察し、結論を導き、発表する準備をする。質疑の内容を加味し、論文に活かす。次の調査の準備を始める。	中間発表資料		
10						
11						
12	学会に副論文を投稿する。	学会発表及び論文を投稿する。	データを分析し、	副論文		
13						
14						
15	副論文を投稿し掲載が決まる。	各雑誌の執筆要領と論文審査に則って、論文の完成度を挙げて掲載が決まる。	第1段階から次段階の調査へ移行し、調査を始める。	副論文		
16						
教科書・参考文献など						
D.F. ポーリット他：看護研究，原理と方法，医学書院，2010. 10, 450円 山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版：研究手法別のチェックシートで学ぶ，日本看護協会出版会，2020. 3, 520円 その他、研究方法に沿った参考書						
最終到達目標				評価方法		
自己の研究計画に追って、調査を実施し、倫理的配慮を徹底して実施したうえでデータの収集ができる。 収集したデータを集計、分析し、一つの研究として結果と結論を導き出し、中間発表会で報告できる。 副論文投稿できる。				課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(90%)・プレゼンテーション(10%)		

履修判定基準・評価基準

履修判定基準：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EDD0802			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD08				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究ⅡD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	2			
担当教員	赤松公子					
授業の目的						
本科目は、地域包括ケア特別研究ⅡDで作成した研究計画に沿って、研究目的を達成するように調査を遂行することを目的とする。						
授業の概要						
研究実施の依頼と同意の確認、妥当性のある研究データの収集、正確で信頼性・信憑性、妥当性のある手法を用いた分析、整合性と一貫性のある結果と考察が展開された原著論文を作成し、新規性、独創性のある研究論文を学術誌に投稿する。 (オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1～5	データ収集	研究計画書に沿って倫理的配慮を行いながら、第1段階の調査を行う。	学修課題に沿った準備	適時提示		
6～10	データ入力と分析	計画書に沿ったデータの整理と分析を行う。	学修課題に沿った準備	適時提示		
11	結果のまとめ	計画書に沿った適切な方法で結果を整理する。	学修課題に沿った準備	適時提示		
12 13	考察	論理性、整合性、一貫性を維持しながら考察を記載する。	学修課題に沿った準備	適時提示		
14	学内発表	中間発表の資料を作成し、発表会に臨む。	学修課題に沿った準備	適時提示		
15	副論文の投稿	学会発表及び論文の投稿を行う。	学修課題に沿った準備	適時提示		
教科書・参考文献など						
適時提示						
最終到達目標				評価方法		
研究課題の一部を副論文として投稿できる。				課題達成度を以下の方法で評価する 副論文完成度(90%)・プレゼンテーション(10%)		
履修判定基準・評価基準						
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)						

授業コード	EDD0901			ディプロマポリシーに定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD09				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究ⅢD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	3年次/通年	単位数	2			
担当教員	讃井真理					
授業の目的						
本科目は、特別研究ⅠD・ⅡDで遂行してきた研究を博士論文として完成させることを目的とする科目である。						
授業の概要						
<p>一つ一つの研究は信頼性と妥当性のある研究結果を導き、いくつかの研究成果をまとめ、総合的考察と臨床と研究へのサジェスションで展開された研究論文は、新規性と独創性があり、実践に展開可能であること、今後の各領域の看護学に発展的に貢献することが可能であることを重要視して、論旨を展開する。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	科目オリエンテーション (讃井)	各調査と分析が終了し、本格的に博士論文作成に取り組む。		調査の分析と考察、博士論文の執筆、各種書類の準備を整える。提出後は、3年次中間発表の準備を行う。同時に論文の内容を確認し、質疑に対応できるよう必要なデータは手元に置けるように準備する。論文は執筆要領と審査基準を確認し、内容が基準を満たすように記述する。	必要な資料は配布 松山看護学研究科2023年度大学院要覧、p32-41	
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9	3年次11月に予備審査願を提出し、審査を受ける	必要な書類を整えて、審査願を提出した後に、11月-12月に主査1名と副査2名の合計3名が審査を行う。研究の概要を15分程度(主査の指示による)で説明し、1時間程度の質疑に対応する。指摘事項などは筆記しておき、再提出などの指示があれば、指定された期日までに論文を修正する。		審査時の質疑に答えられるよう、準備をする。審査結果を受け、修正が必要な場合は、指定の期日までに修正を行う。その際、質疑や指摘事項に対する修正について、対応表を作成する等、審査者が分かりやすいよう提示する。不合格となった場合は、次年度の提出に向けて論文内容を吟味し、追加・修正する。 中間発表の準備をする	必要な資料は配布 松山看護学研究科2023年度大学院要覧、p32-41	
10						
11						
12	2月博士論文最終発表を行う(研究科の審査の一環)	予備審査に合格すると論文審査(本審査)の提出を行う。本審査は、原則、予備審査と同じ3名の審査者で行われる。審査者からの修正事項、追加事項を15分程度で説明し、1時間程度の質疑に回答する。修正が必要な場合は、指定された期日に提出し、再度論文審査を受ける。		質疑に対応できるよう、準備しておく。論文の概要と、予備審査後修正した点を15分程度で説明できるよう準備する。修正後再提出が必要な場合は、指定された期日に提出する(指摘内容と修正箇所が示された表も必要)。再度審議を受ける。不合格となった場合は、次年度の提出までに見直す。 最終発表の準備をする。	必要な資料は配布 松山看護学研究科2023年度大学院要覧、p32-41	
13						
14						
15						
16	最終論文審査と口頭試験を受ける					

教科書・参考文献など	
2023 年度大学院要覧	
最終到達目標	評価方法
博士論文を執筆し、予備審査・本審査を受けることができる。 各審査で質疑に対応できる。助言及び指摘について、論文を適切に修正して提出できる。中間発表と最終発表で、自己の研究を報告でき、審査を終えることができる。最終的には論文審査に合格する。	課題達成度を以下の方法で評価する 博士論文執筆(90%)・プレゼンテーション(10%)
履修判定基準・評価基準	
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)	

授業コード	EDD0902			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	自立研究力	○
科目区分	専門科目 地域包括ケア領域 EDD09				研究教育力	○
授業科目名	地域包括ケア特別研究ⅢD	選択・必修	選択		社会発展力	○
配当学年/学期	3年次/通年	単位数	2			
担当教員	赤松公子					
授業の目的						
本科目は、特別研究ⅠD・ⅡDで遂行してきた研究を博士論文として完成させることを目的とする科目である。						
授業の概要						
一つ一つの研究は信頼性と妥当性のある研究結果を導き、いくつかの研究成果をまとめ、総合的考察と臨床と研究へのサジェスションで展開された研究論文は、新規性と独創性があり、実践に展開可能であること、今後の各領域の看護学に発展的に貢献することが可能であることを重要視して、論旨を展開する。 (オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1～5	データ収集	研究計画書に沿って倫理的配慮を行いながら、最終段階の調査を行う。	学修課題に沿った準備	適時提示		
6～10	データ入力と分析	計画書に沿ったデータの整理と分析を行う。	学修課題に沿った準備	適時提示		
11	結果のまとめ	計画書に沿った適切な方法で結果を整理する。	学修課題に沿った準備	適時提示		
12 13	考察	論理性、整合性、一貫性を維持しながら考察を記載する。	学修課題に沿った準備	適時提示		
14	学内発表(11月)	博士論文の中間発表に臨む。	学修課題に沿った準備	適時提示		
15	学内発表(2月)	博士論文の最終発表に臨む。	学修課題に沿った準備	適時提示		
教科書・参考文献など						
適時提示						
最終到達目標				評価方法		
博士論文を執筆し、予備審査・本審査を受けることができる。				課題達成度を以下の方法で評価する 博士論文執筆(90%)・プレゼンテーション(10%)		
履修判定基準・評価基準						
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)						

授業コード	EMA0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	共通科目 (必修) EMA01				教育・実践力	○
授業科目名	看護学研究法特論M	選択・必修	必修		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2		連携力	
担当教員	河野保子 讃井真理				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、保健医療福祉の現場における高度実践リーダー・管理者・教育者として、看護実践と看護研究に関する専門的知識と技術を向上し、ケアプログラムやケアシステムの改善・構築につながる臨床指向型研究の概要をより深く理解することを目的とする。自研究テーマから導き出せる成果を臨床現場に活かし、臨床と研究とを往還するため、研究の質を高め、研究の概念枠組みを精選し、研究目的に合致する研究デザインを選択できるように教授する。研究方法として、質的研究・量的研究・実験的研究などについての概略を理解し、研究計画書作成、倫理審査、データの取り扱い、結果と考察の論述の仕方など研究プロセスを理解し、研究活動全般についての基礎的知識を修得する。</p>						
授業の概要						
<p>(河野保子/7回) 看護研究における新規性・独創性・社会的価値のある研究(研究の意義)とはについて概説する。また研究における倫理的配慮の重要性を指摘するとともに、研究倫理審査会の役割について説明する。さらに看護研究の進め方における研究テーマ、研究デザイン、研究仮説の関連性、及びそれらの意味することを論述する。</p> <p>(讃井真理/8回) 看護研究における文献検索の意義と、文献検索の方法を論述する。また実際に演習を行う。文献クリティーク能力を養うとともに、質的研究法、量的研究法、実験研究法、介入研究法について詳述する。さらに、研究論文の構成について説明し、研究の信頼性、妥当性、一貫性を指摘し、論文作成のポイント結果と考察、結論の書き方について教授する。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	研究の意義 (河野)	研究とは 看護における研究の重要性 看護実践、看護研究、看護理論の 関係性 ・ディスカッション	【事前】自身の研究課題をイメージしておく。【事後】教科書の該当ページ、及びリジナル資料を熟読する。	教科書；第1章 A、B、C ・リジナル資料配布		
2	倫理的配慮の重要性 (河野)	研究における倫理の考え方と対応 研究対象者の権利と倫理審査体制 ・ディスカッション	【事前】自身が考える医療における倫理原則、及び研究倫理として考えられることをイメージしておく。【事後】研究を行う人としての自覚・行動規範を内在化させる。	教科書；第1章 D、E リジナル資料配布		
3	研究の進め方① (研究過程の概観) (河野)	研究課題の明確化、研究方法の選定、研究データの収集、研究データの分析、結果とその解釈 ・ディスカッション	【事前】自身の研究課題の遂行をイメージしておく。【事後】自身の研究課題と講義内容とを比較検討し、自身の研究の質を高める。	教科書；第2章 A、B、C、D、E、 F		
4	研究の進め方② (文献検討) (河野)	リジナル文献を読む 文献クリティーク ・ディスカッション	【事前】自身の研究課題を設定したときに用いた文献を読んでおく。【事後】文献クリティークについて再考する。	教科書；第3章 A、B、C、D、E 文献クリティークの為の文献を配布。		
5	研究の進め方③ (概念枠組みと仮説) (河野)	概念枠組みと仮説設定の必要性 研究における変数の考え方 ディスカッション	【事前】自身の研究課題が何を明らかにしようとしているか、考えておく。【事後】自身の研究の概念枠組みや仮説について再考する。	教科書；第4章 A、B、C、D リジナル文献(河野理恵他論文、高齢者のケアと行動科学、2022)を配布。		

6	研究の進め方④ (研究デザイン) (河野)	研究デザインの種類 研究の問いのレベルと研究デザイン の関係 ・ディスカッション	【事前】研究手法について自身で 調べておく。【事後】研究の問いを 再考し、自身の研究課題はどの種 類であるか検討する。	教科書；第5章 A、B、C、D、E、 F、G デジタル資料配布
7	研究の進め方⑤ (研究への導入) (河野)	・研究タイトル ・研究課題と研究の問い ・研究目標 ・研究課題の背景 ・研究の意義 ・研究の枠組み ・ディスカッション	【事前】自身の研究課題について 再考する。【事後】自身の研究課題 について修正できるところはして おく。	・教科書；第6章 C、D
8	文献検索の必要 性と方法 (讃井)	文献検索の必要性を理解し、実際 に研究テーマの関連文献を検索する。	図書館の文献検索エンジンの起動 方法を確認しておく。	必要資料は配布 参考文献
9	文献のクリティーク (讃井)	クリティークとは何か、どのようにする のか、目的は何かを学ぶ。 実際に1文献を使ってクリティーク	クリティークに関連する文献を読んでお く。1文献のクリティークを行う。	必要資料は配布 教科書第3章 参考文献
10	文献のクリティーク ディスカッション (讃井)		1文献に対してクリティークしてくる。 自研究関連文献をクリティーク。	
11	文献のクリティーク ディスカッション (讃井)	各自がクリティークしてきた文献と資料 を使って発表しディスカッションする。	各自でクリティークした文献についてま とめておく。意見交換の振り返り	
12	文献のクリティーク ディスカッション (讃井)	各自がクリティークしてきた文献と資料 を使って発表しディスカッションする。	各自でクリティークした文献についてま とめておく。意見交換の振り返り	
13	研究計画書の構 成 (讃井)	研究計画書の記載必要項目を確認 し、中間発表の概要を理解する。	研究計画書について調べておく。 中間発表までの予定を確認する。	教科書第6章
14	研究倫理 (讃井)	研究過程全般の研究倫理の重要性 を理解し、自研究の研究倫理申請 時の内容と手続きを確認する。	本研究科の倫理申請書類を確認し 関連書類を読む。自研究における 倫理的配慮点をイメージする。	教科書第1章D, 研究科大学院要 覧：p42-55
15	研究論文の構成、 論文審査の視点、 研究プロトコル確認 (讃井)	既存の修士論文を活用して研究論 文の構成を理解する。論文審査を イメージし、論文審査の視点を確認す る。研究プロトコル上の不明点を確認	研究論文の構成を確認し、執筆要 領を読んでおく。 研究プロトコルの解決方法の確認	研究科大学院要 覧：p17-19, 20- 22, p37-41 必要資料は配布
16	試験			

教科書・参考文献など

(教科書) 南 裕子、野嶋佐由美編集：看護における研究 第2版、日本看護協会出版会、2017

(参考文献) D.F. ポーリット他：看護研究, 原理と方法, 医学書院, 2010.

山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版:研究手法別のチェックシートで学ぶ,
日本看護協会出版会, 2020.

最終到達目標

評価方法

①看護における研究の重要性が認識できる②看護研究から導き出される
看護実践の根拠 (エビデンス) について、各種文献からイメージできる
③研究目的を達成するための適切な研究デザインを選択できる④研究計画
書を作成する基盤が理解できる⑤看護研究における倫理的配慮について
説明できる⑥文献検索の意義が理解でき、文献検索ができる⑦文献クリ
ティークの方法がわかる⑧研究計画書、倫理申請書、論文作成、中間発表な
どのプロトコルが具体的にイメージできる。

課題達成度を以下の方法で評価する
筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・
プレゼンテーション(20%)・

履修判定指標・評価基準

履修判定指標：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EMA0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	共通科目 (必修) EMA02				教育・実践力	○
授業科目名	看護倫理特論 M	選択・必修	必修		倫理調整力	○
配当学年/学期	1 年次/前期	単位数	2		連携力	○
担当教員	別宮直子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目の目的は、実践者としての倫理と、研究者としての倫理の両面から看護職としての倫理的課題へ対応するための知識と責務を探究することである。今日では、延命治療、生殖補助医療、移植医療など、医学の進歩によってもたらされた倫理的課題は、看護においても人間とは何か、看護とは何か、正義と公正とは何か、人間を尊重するための正しさとは何かを追究していく必要性を増している。また日常の中に自律尊重など倫理原則に関連した臨床判断が求められる場面も多い。医療関係職種種の倫理的葛藤に対峙することに加え、看護対象者の QOL の多様化・グローバル化に対し、専門職として倫理的感受性を高め、クライアントの意思決定能力を最大限に活かすための支援に必要な知識を修得する。</p>						
授業の概要						
<p>本講義の具体的内容は、生命倫理の歴史の変遷から倫理原則や看護の倫理原則、看護師の倫理綱領、IC、アドボカシー等を学習し、更なる看護専門職としての造詣を深め、責務を探究する。それにより、看護実践者として臨床現場でかかえる課題への倫理判断能力、課題解決能力、倫理的感受性などを高める。また、研究者として、研究遂行上における倫理的課題と配慮について、研究活動遂行上の基本的姿勢を学修し、自研究のテーマと研究方法への倫理的判断のための知識と方法を理解する。</p> <p>講義の第 4 回から第 13 回は、学生が主体的にテーマを選択し、そのテーマについてリサーチし、プレゼン、ディスカッションを行う形式となる。各自の講義回までに、準備を進めることで、倫理的知識の定着と思考を養う。</p> <p>(オフィスアワー：水曜日 12：00-13：30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	看護倫理とは	看護倫理について概説し、また、医療における倫理原則を概説する。初回の授業であり、2 回目以降の授業構成および担当テーマを決定する。	事前：シラバスを参照し、自身が担当するテーマを絞り込んでおくことが望ましい。 事後：これからの授業の根幹となる基礎的知識として、復習しておくこと	系統看護学講座：看護倫理		
2	倫理における歴史の変遷	患者の権利や IC における歴史の変遷を概説する。また、ニュルンベルク綱領やヘルシンキ宣言、リスボン宣言など現在の倫理の根幹となる倫理宣言を概観する。	事前：各綱領や宣言を熟読しておくこと。 事後：ヘルシンキ宣言やリスボン宣言は理解しておくこと	系統看護学講座：看護倫理		
3	ICN による看護師の倫理綱領	ICN による看護師の倫理綱領を抄読する。	事前：ICN の看護師の倫理綱領や日本看護協会からの看護職の倫理綱領を熟読しておくこと。 事後：ICN の看護師の倫理綱領の内容を理解しておくこと	ICN による看護師の倫理綱領 HP, 日本看護協会「看護職の倫理綱領」HP		
4	倫理的課題 (延命治療、生殖補助医療、尊厳死、移植、再生医療・遺伝子治療など)	学生が選んだテーマにおける倫理的課題を調べ、プレゼンを行い、ディスカッションを行う。	事前：担当となった学生はテーマについて調べ、発表準備を行う。 事後：それぞれへの課題に対し、多様な考え方があることを復習する。	関連文献		
5						
6						
7						
8	倫理的問題へのアプローチ法 (4 分割)	それぞれの倫理的問題へのアプローチ法を調べ、事例を用いてアプローチ法のプレゼンを行う。	事前：担当となった学生はテーマについて調べ、発表準備を行う。 事後：それぞれへのアプローチ法の特徴を理解すること。	関連文献 系統看護学講座：看護倫理		
9						

10	倫理的問題へのアプローチ法 (ナラティブ)	それぞれの倫理的問題へのアプローチ法を調べ、事例を用いてアプローチ法のプレゼンを行う。	事前：担当となった学生はテーマについて調べ、発表準備を行う。 事後：それぞれへのアプローチ法の特徴を理解すること。	系統看護学講座：看護倫理 対話と承認のケア ナラティブが生み出す世界、宮坂道夫、医学書院
11				
12	医療・看護における合意形成プロセス	それぞれの倫理的問題へのアプローチ法を調べ、事例を用いてアプローチ法のプレゼンを行う。	事前：担当となった学生はテーマについて調べ、発表準備を行う。 事後：それぞれへのアプローチ法の特徴を理解すること。	系統看護学講座：看護倫理 看護実践の倫理【第3版】
13	倫理的問題へのアプローチ法 (サラ・フライ)			
14	研究倫理	研究倫理について概説し、本学の人間環境大学研究倫理審査申請書に沿って、研究を遂行する上で必要な倫理的配慮を理解する。	事前：大学院要覧や人間環境大学研究倫理審査申請書を通読しておく。 事後：自身の研究計画書や倫理審査申請書の作成時に活用すること。	人間環境大学研究倫理審査申請書
15				
教科書・参考文献など				
参考文献：系統看護学講座：看護倫理、ICNによる看護師の倫理綱領 HP、日本看護協会「看護職の倫理綱領」HP 看護実践の倫理【第3版】倫理的意思決定のためのガイド、サラ T. フライ、メガン・ジェーン・ジョンストン著片田範子、山本あい子訳、日本看護協会出版会、対話と承認のケア ナラティブが生み出す世界、宮坂道夫、医学書院				
最終到達目標			評価方法	
(1) 実践者としての倫理と、研究者としての倫理の両面から看護職としての倫理的課題へ対応するための知識と責務を理解することができる。 (2) 研究者として、研究遂行上における倫理的配慮について理解し、研究計画書や倫理申請書に反映させることが理解できる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・	
履修判定基準・評価基準				
評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMA0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	共通科目 (必修) EMA03				教育・実践力	○
授業科目名	統計学特論 M	選択・必修	必修		倫理調整力	○
配当学年/学期	1 年次/前期	単位数	2		連携力	
担当教員	沼田 真美				提言力	
授業の目的						
<p>本科目は、観察した事実を真実に近づけるための科学的方法として、量的研究を行う際に必要な統計学の基本的知識を修得し、自研究を遂行するための手法を検討できるようにすることを目的とする。</p>						
授業の概要						
<p>統計の基本として、データ、分布、尺度水準、基本的な相関と検定について理解し、アンケート作成に必要な知識を学修する。また、統計ソフトを用いたデータの入力方法、検定操作方法、統計処理、解釈の基本を修得する。またデータ分析の結果を適切に可視化するための方法を理解し、文献レビュー及び研究計画書と論文作成に活かすための Excel の操作方法についても、表計算を含め学修する。講義の具体的内容として、研究における統計解析の意義について論述する。そのため、授業の進め方・統計の基礎・変数の種類とデータとしての取り扱いについての基本的な知識と、分布の理解、平均と標準偏差、母集団と標本、尺度水準等の基本的な統計指標についての知識を修得する。また、相関、統計的解析 (χ² 乗検定、t 検定、分散分析、適合度と独立性の検定、多変量解析等)、効果量について講義および演習を行い、理論と技術を学修する。また、アンケート調査作成の基本、データ入力、統計ソフトの基本的操作、結果の読み方、その他の統計解析について、自研究の遂行上必要な知識を修得する。</p> <p>(オフィスアワー：授業前後時間)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	ガイダンス／統計とは (沼田)	本授業のガイダンスと目的および確認	事後学修：統計ソフトの動作確認を行うこと	配布資料		
2	代表値と散布度 (沼田)	データの特徴の記述	事後学修：代表値と散布度の違いについて確認すること	配布資料		
3	共分散と相関係数 (沼田)	2 つの変数の関係についての分析 1	事後学修：共分散や相関係数の算出方法について確認すること	配布資料		
4	相関係数の算出から記述まで (沼田)	2 つの変数の関係についての分析 2	事後学修：相関係数について、統計ソフトの出力方法の確認および結果の記述方法について確認すること	配布資料		
5	統計的検定とは 1 (沼田)	統計的検定の考え方 1：基礎と確認	事後学修：統計的検定の考え方を整理・確認すること	配布資料		
6	統計的検定とは 2：論文に沿って考える (沼田)	統計的検定の考え方 2：論文例の紹介	事後学修：統計的検定の具体例について理解を深めること	配布資料		
7	t 検定 (沼田)	統計的検定の具体的な手続き：2 変数間の差の検定	事後学修：t 検定について、結果の読み取り方および統計ソフトの出力方法を確認すること	配布資料		
8	カイ二乗検定 (沼田)	統計的検定の具体的な手続き：質的な 2 変数間の関連	事後学修：カイ二乗検定について、結果の読み取り方および統計ソフトの出力方法を確認すること	配布資料		
9	因子分析 1 (沼田)	統計的検定の具体的な手続き：データの要素 1	事後学修：因子分析について、結果の読み取り方および統計ソフトの出力方法を確認すること	配布資料		
10	因子分析 2 (沼田)	統計的検定の具体的な手続き：データの要素 2	事後学修：因子分析について、結果の読み取り方および統計ソフトの出力方法を確認すること	配布資料		

11	分散分析 1 (沼田)	統計的検定の具体的な手続き：3変数間以上の差の検討 1	事後学修：分散分析について、結果の読み取り方および統計ソフトの出力方法を確認すること	配布資料
12	分散分析 2 (沼田)	統計的検定の具体的な手続き：3変数間以上の差の検討 2	事後学修：分散分析について、結果の読み取り方および統計ソフトの出力方法を確認すること	配布資料
13	重回帰分析 1 (沼田)	統計的検定の具体的な手続き：複数の変数による予測 1	事後学修：重回帰分析について、結果の読み取り方および統計ソフトの出力方法を確認すること	配布資料
14	重回帰分析 2 (沼田)	統計的検定の具体的な手続き：複数の変数による予測 2	事後学修：重回帰分析について、結果の読み取り方および統計ソフトの出力方法を確認すること	配布資料
15	まとめ (沼田)	まとめ	事前学習：自身の研究への繋がりを考える 事後学修：全 15 回の授業全体について確認すること	配布資料

教科書・参考文献など

教科書は使用しない。参考文献は、授業内で適宜紹介する。授業内では、適宜配布されるデータをダウンロードし、各自のパソコンにて統計ソフトを用いて、分析に取り組む必要がある。使用教室にパソコンが設置されていない場合、第 2 回の授業までに各自ノートパソコン等 (Windows 推奨)、データの保存用に USB フラッシュメモリ等を準備すること (詳細については、初回の授業内で説明・確認を行う)。

最終到達目標

最終到達目標は、以下の 3 点である。

- (1) 統計を自身の研究に役立てるための基礎知識を得ること
- (2) 統計を用いた他者の研究を理解するための基礎知識を得ること
- (3) ソフトウェアを用いた統計分析の実践的な技能を得ること

評価方法

課題達成度を以下の方法で評価する
最終課題レポート (50%)・授業内課題・試験 (50%)

履修判定基準・評価基準

評価の基準は以下のとおりとする。

- A (100~80 点) : 到達目標を達成している (Very Good)
 - B (79~70 点) : 到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)
 - C (69~60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
 - D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)
- (E : 試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F : 出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EMA0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	共通科目 (必修) EMA04				教育・実践力	○
授業科目名	研究方法論特論M	選択・必修	必修		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2		連携力	
担当教員	讃井真理 赤松公子 森田克也				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、研究テーマの目的に沿った研究方法の選び方や、質的研究、量的研究、実験的研究の既存の文献をクリティークし、また、それぞれの手法を実践的に理解することを目的とする。自研究の研究計画に即した研究方法を選択できるよう学修する。質的研究は M-GTA などの手法を、量的研究は調査法及び解析方法を、実験的研究は仮説と検証に必要な条件設定、及び正確なデータ取得のための方法についてその概略を修得する。</p>						
授業の概要						
<p>(讃井真理/5 回) 量的研究：変数の意味、分布の意味、平均と標準偏差、尺度水準の意味と統計的検定の種類、相関・相関係数、名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度の違い、評定尺度、表計算ソフトと分析ソフトの基本的操作法について事例を紹介しながら理解する。</p> <p>(赤松公子/5 回) 質的研究：質的データ、質的研究の手法の種類、データの収集方法（参加観察法の種類と方法、構成的面接法、半構成的面接法など）、録音データからの逐語録の作成、逐語録からの抽出法、KJ 法、質的統合法、M-GTA 法、現象学的な分析、行動分析などについて論述する。</p> <p>(森田克也/5 回) 実験研究の種類と特徴、仮説の設定と必要なデータの選定、実験研究に必要な条件設定とデータの収集方法、実際のデータ収集、及びデータの検査、データの分析と、結果の解釈、動物実験、生理学的実験に必要な研究倫理について詳述する。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	科目イントロダクション (讃井)	科目の目的とスケジュールの把握。 量的研究と質的研究についてその違い・研究プロセスの特徴		シラバスを読み、量的研究の研究論文を1件探してくる。質的研究の論文を読む。	資料を配布	
2	統計処理が必要な理由 (讃井)	変数の意味、分布の意味、平均と標準偏差、尺度水準の意味と統計的検定の種類		内容・方法で記載した言葉の意味を調べておく。持参研究論文で各言葉の関連箇所を確認する。	自身が選定した研究論文資料を配布	
3	変数の関係性を考える意味 (讃井)	相関・相関係数、名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度の違い、評定尺度、		自選定論文で、内容・方法で記載した言葉に関連した箇所を確認してくる。自持参研究と照合する。	自身が選定してきた文献資料を配布	
4	量的研究の分析方法 (讃井)	表計算ソフトと分析ソフトの基本操作		データを使って分析方法を読んでおく。検定する意味を確認する。	資料を配布	
5	先行研究のレビュー (讃井)	量的研究の研究論文の分析方法の検討		分かった点とわからなかった点を整理しておく。自研究に関連した量的研究を探す。	選定してきた文献資料を配布	
6	質的研究とは何か (赤松)	質的研究の意義、特徴、質的研究における文献の利用、質的研究の手法の種類、看護研究における質的研究の位置づけ		ウヴェ・フランク (2022) 第 I 部、第 II 部の不明な言葉を下調べして授業に臨む。	ウヴェ・フランク (2022) 配布資料	
7	質的研究方法 (赤松)	研究デザインとデータの収集方法		ウヴェ・フランク (2022) 第 III 部、第 IV 部の不明な言葉を下調べして授業に臨む。	ウヴェ・フランク (2022) 配布資料	
8	質的分析方法 (赤松)	録音データからの逐語録の作成、逐語録からの抽出法		ウヴェ・フランク (2022) 第 17 章、第 22 章、第 23 章の不明な言葉を下調べして授業に臨む。	ウヴェ・フランク (2022) 配布資料	
9	質的分析方法 (赤松)	コード化の実際		第 8 回の授業の復習を行って授業に臨む。	適時提示	
10	質的研究方法論 (赤松)	KJ 法、質的統合法、M-GTA 法、		関心のある質的研究方法論について説明できるように準備する。論	適時提示	

		現象学的な分析、行動分析、エスノグラフィーなどのうち、関心の方法論に関するプレゼンテーション（大学院生）とまとめ	文を用いて紹介してもよい。	
11	実験研究（森田） 実験研究のための基本的注意	実験研究を遂行するにあたり、考慮すべき点について講義とグループ討議により理解を深める。	事前学修：実験研究に対するイメージを構築しておく。 事後学習：実験研究で事故を起こさないための留意点を説明できる。	適宜、適当な文献、資料を配布する。
12	実験研究の種類と特徴（森田）	目的別研究デザインとエビデンスレベル、バイアスと交絡因子の排除のためのデザイン、群間比較試験と交差試験の特徴とメリット・デメリットなどの理解を深める。	事前学修：研究の質を評価するポイントについて予習する。 事後学習：研究目的や期待される結果、試験の規模に応じた研究方法について説明できる。	適宜、適当な文献、資料を配布する。
13	実験研究の質管理の方法とプロセス（森田）	関連する情報の収集、研究の新規性、仮説の立て方と検証法、適切なコントロールの取り方と発表資料の作り方の理解を深める。	事前学修：研究の質を担保する方法についての知見を考究しておく。 事後学習：研究の質管理の方法、プロセスを説明できる。	適宜、適当な文献、資料を配布する。
14	実験研究の設計・進め方（森田）	論文の書き方を押さえ、目的を達成するにはどのように実験研究をデザインすればよいか、実験ノートの書き方と必要性の理解を深める。	事前学修：科学論文の書き方を復習しておく。 事後学習：目的に合った実験研究をチョイスし、最適化できる。	適宜、適当な文献、資料を配布する。
15	実験研究の演習と実験研究論文の書き方（森田）	ある実験研究事例をモデルとして、学術的エビデンスレベルを高めるための改善点および論文の書き方について演習形式で学ぶ。	事前学修：第11～14回の講義を復習 事後学習：モデル実験の改善点と最終形態について論文形式でレポートにまとめる。	適宜、適当な文献、資料を配布する。
16	試験			

教科書・参考文献など

早川和夫：看護研究の進め方・論文の書き方 第2版，医学書院 2012.
南裕子，野嶋佐由美：看護における研究 第2版，日本看護協会編 2017.
ウヴェ・フランク著（小田博志監訳）：質的研究入門，春秋社，2022.
谷津裕子：Start Up 質的看護研究 第2版，Gakken 2017.
高木廣文：質的研究を科学する，医学書院，2021.

最終到達目標

量的研究の進め方が説明できる。量的研究で行う検定の意味が分かる。
質的研究の進め方が説明できる。質的研究方法論によってデータ分析方法が異なること、それぞれにふさわしい研究目的があることが分かる。
実験研究では仮説と検証に必要な条件設定、及び正確なデータ取得のための方法など研究の質管理方法について説明できる。

評価方法

課題達成度を以下の方法で評価する
筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・

履修判定指標・評価基準

履修判定指標：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EMB0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	共通科目(選択) EMB01				教育・実践力	○
授業科目名	看護理論特論M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	中島紀子 三並めぐる				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、看護理論の変遷と、看護実践に関連する諸理論の特徴を学び、看護ケアのための人間理解、人間と環境との関連性の理解を意義として、臨床判断能力、批判的思考能力、及び実践遂行能力を高めることを目的とする。看護広範囲理論(発達理論、ニード論、相互作用論、システム論、ケアリング理論など)の特徴、中範囲理論(セルフケアとセルフケア不足理論・症状マネジメントと援助に関連する理論、ストレス・コーピング理論、危機理論と対処理論、保健信念モデル、変化ステージモデル、自己効力感などの行動変容理論、ソーシャルサポートシステム論など)について、理論開発の意義と、理論の活用について学修する。</p>						
授業の概要						
<p>看護理論の変遷と理論活用の意義・目的、及び、理論の定義と用語の理解、看護広範囲理論の特徴と活用(発達理論、ニード論、相互作用論、システム論、ケアリング理論)について実践に照合させ人間理解と看護理解について詳述する。また、EBNIにつながる理論展開、理論開発について論じ、実践と研究とを相互に考察することにより、理論活用における臨床上、研究上の課題について論じる。</p> <p>中範囲理論・援助理論の特徴と活用(セルフケア理論、保健行動理論、行動変容ステージモデル、ストレス・コーピング理論、危機理論、症状マネジメントモデル論など)について、看護過程の展開と看護介入と理論の実践への適用について論じる。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13:20-14:50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	導入(中島)	看護理論とはなにか、看護理論発展の基礎を学修しディスカッションを行う。	【事前】シラバスの確認 【事後】教科書、配布資料を振り返り看護理論の基礎をおさえる。	看護理論家の業績と理論評価(第2版)		
2	看護理論の実践への適用(中島)	看護理論を構成する要素とはどういうものか、看護実践に看護理論を適用するとはどのようなものかディスカッションを行う。	【事前】看護理論には何があるか調べておく。 【事後】看護理論はどのように形成されるかふまえる。	看護理論家の業績と理論評価(第2版)		
3	広範囲理論①(中島)	広範囲理論とはなにか学習しディスカッションを行う。	【事前】広範囲理論とはなにかがあるか調べる。 【事後】広範囲理論とはどのようなものか理解する。	看護理論家の業績と理論評価(第2版)		
4	広範囲理論②(中島)	ニード論(ヴァージニア・ヘンダーソン、アブデラ)とはどういうものか学修し、ディスカッションを行う。	【事前】ニード論とはどのようなものか調べる。 【事後】ニード論に含まれる理論について理解する。	看護理論家の業績と理論評価(第2版)		
5	広範囲理論③(中島)	対人関係論(ヒルデガードE.ペプロウ、ジョイス・トラベルビー)とはどういうものか学修し、ディスカッションを行う。	【事前】対人関係論とはどのようなものか調べる。 【事後】対人関係論に含まれる理論について理解する。	看護理論家の業績と理論評価(第2版)		
6	広範囲理論④(中島)	システム論(カリスタ・ロイ、ドロシーE)とはどういうものか学修し、ディスカッションを行う。	【事前】システム論とはどのようなものか調べる。 【事後】システム論に含まれる理論について理解する。	看護理論家の業績と理論評価(第2版)		
7	グループワーク①(中島)	看護理論を看護実践に活用し、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。	【事前】看護実践をふまえた看護理論を選択する。 【事後】プレゼンを振り返る。	看護理論家の業績と理論評価(第2版)		

8	グループワーク ② (中島)	・看護実践へ活用することの意義と課題を話し合う。	【事前】看護理論を用いた看護実践について再考する。 【事後】GWを振り返る。	看護理論家の業績と理論評価 (第2版)
9	中範囲理論とは (三並)	看護診断と中範囲理論、なぜ看護診断をするときに中範囲理論が必要かについて学修し、ディスカッションする。	【事前】看護診断と中範囲理論について調べ、発表できる準備を行う。【事後】中範囲理論がなぜ必要か振り返る。	看護診断のためのよくわかる中範囲理論第3版 2-27 ページ
10	セルフケア理論 (三並)	セルフケア理論とは、理論の歴史的背景、理論の概論と枠組みおよび看護への活かし方について学修し、ディスカッションする。	【事前】セルフケア理論について、調べ、発表できる準備を行う。【事後】セルフケア理論の応用の視点を振り返る。	看護診断のためのよくわかる中範囲理論第3版 30-52 ページ
11	保健行動理論 (三並)	保健行動理論とは、理論の歴史的背景、理論の概論と枠組みおよび看護への活かし方について学修し、ディスカッションする。	【事前】保健行動理論について、調べ、発表できる準備を行う。【事後】保健行動理論の看護への活かし方について振り返る。	看護診断のためのよくわかる中範囲理論第3版 53-68 ページ
12	行動変容ステージモデル (三並)	理論とは、理論の歴史的背景、理論の概論と枠組みおよび看護への活かし方について学修し、ディスカッションする。	【事前】行動変容ステージモデルについて調べ、発表できる準備を行う。【事後】行動変容ステージモデルと看護介入について振り返る	看護診断のためのよくわかる中範囲理論第3版 69-82 ページ
13	ストレス・コーピング理論 (三並)	ストレス・コーピング理論とは、理論の歴史的背景、理論の概論と枠組みおよび看護への活かし方について学修、ディスカッションする。	【事前】ストレス・コーピング理論について調べ、発表できる準備を行う。 【事後】ストレス・コーピング理論の応用について振り返る。	看護診断のためのよくわかる中範囲理論第3版 262-268 ページ
14	危機理論 (三並)	危機理論とは、理論の歴史的背景、理論の概論と枠組みおよび看護への活かし方について学修し、ディスカッションする。	【事前】危機理論について調べ、発表できる準備を行う。【事後】危機理論の発達の危機と状況的危機について振り返る。	看護診断のためのよくわかる中範囲理論第3版 367-392 ページ
15	症状マネジメントモデル (三並)	症状マネジメントモデルとは、理論の歴史的背景、理論の概論と枠組みおよび看護への活かし方について学修し、ディスカッションする。	【事前】症状マネジメントモデルについて調べ、発表できる準備を行う。 【事後】症状マネジメントモデルと看護活動について振り返る。	看護診断のためのよくわかる中範囲理論第3版 525-548 ページ
教科書・参考文献など				
1. 筒井真優美著：看護理論家の業績と理論評価 第2版、医学書院 (2020) 参考書 2. 黒田裕子監修：看護診断のためのよくわかる中範囲理論第3版、Gakken (2021) 教科書				
最終到達目標			評価方法	
看護理論の変遷と、看護実践に関連する諸理論の特徴および看護ケアのための人間理解、人間と環境との関連性を理解でき、臨床判断能力、批判的思考能力、及び実践遂行能力が高められる。看護広範囲理論と中範囲理論について、理論開発の意義と、理論の活用ができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験 (60%)・課題レポート (20%)・ プレゼンテーション (20%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A (100~80点)：到達目標を達成している (Very Good) B (79~70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C (69~60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMB0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	共通科目(選択) EMB02				教育・実践力	○
授業科目名	看護管理特論 M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1 年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	檜垣實男 渡辺小百合 小椋史香				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、病院機能・組織における看護管理の役割と責任を再考し、自組織が円滑に、より効果的、効率的に看護を提供できるシステムを構築するため、必要な知識を理解することを目的とする。そのため、組織運営、及び組織評価に関する知識と人・もの・コスト・時間・情報等の管理に関する諸理論を活用し管理上の課題を明確にする。保健医療福祉のそれぞれの現場における課題に対して、看護の質を高めるための看護管理のあり方や方策について探求する。</p>						
授業の概要						
<p>病院の機能を維持・発展させるために、病院組織としての病院管理の意義と役割について論述する。管理一般論である組織と集団、人間行動学的理論を踏まえた病院の組織管理の在り方について詳述する。医療現場における病院管理の概念、病院の役割・機能と質保証(安全性・安楽性・患者の自立、倫理的配慮、EBMなど)、多職種連携について詳述する。(檜垣実男/5回)</p> <p>サービスとしての看護の在り方、看護ケアマネジメントと看護サースマネジメントについて基本的知識を含めて論じる。病院看護管理者の能力である組織管理能力、質管理能力、人材育成能力、危機管理能力、政策立案能力、創造する能力について述べる。病院機能評価、重症度、医療・看護必要度、病床機能報告、多重課題管理、キャリアマネジメント、管理的介入法について詳述する。保健医療福祉を受ける人々に質の高いケアを提供するため、看護提供システム、看護サービスの組織化、組織マネジメント、リーダーシップなどについて論述する。また管理的能力を実践に活かし、研究に発展させることができるよう説明する。(渡辺小百合/5回)</p> <p>専門職能団体としての国際看護師協会・日本看護協会・各都道府県看護協会の役割と連携、具体的活動と課題について概説する。また感染症・災害等人々の健康危機に対する看護職の役割発揮について論じ、看護職の社会的貢献と社会的存在価値の発展について論述する。さらに看護サービスの課題と解決のための方策を協議し看護政策の提言を考える。(小椋史香/5回)</p> <p>檜垣：大学メールアドレス(別途お知らせいたします) 渡辺：大学メールアドレス(別途お知らせいたします) 小椋：大学メールアドレス(別途お知らせいたします)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	病院管理とは(檜垣)	病院管理の目的と責務、理念など	事前:なし 事後:自己課題からレポート A4 用紙 1~2 枚程度にまとめる	適時提示		
2	病院管理の対象 医療安全管理と 危機管理(檜垣)	病院管理の対象 安全性と安心 危機管理	事前:なし 事後:自己課題からレポート A4 用紙 1~2 枚程度にまとめる	適時提示		
3	病院管理の特徴 と方法(檜垣)	病院管理の特徴と方法		適時提示		
4	具体的な病院管理(檜垣)	具体的な病院管理と経営と運営	事前:なし 事後:自己課題からレポート A4 用紙 1~2 枚程度にまとめる	適時提示		
5	病院管理と質保証(檜垣)	患者の健康とケア・キュアと QOL、 チーム医療	事前:なし 事後:自己課題からレポート A4 用紙 1~2 枚程度にまとめる	適時提示		
6	看護サービス管理(渡辺)	看護サービスマネジメントの基本的知識(リーダーシップ論・チベーション・管理モデルなど)	事前:なし 事後:自己課題からレポート A4 用紙 1~2 枚程度、	文献(随時提供)		

7	看護の質保証 (渡辺)	看護提供システム 病院機能評価、患者満足度、看護 師の職務満足度、		文献 (随時提供)
8	自己事例 (渡辺)	6 コマ目の自己課題についてレポ ート 討議		文献 (随時提供)
9	危機管理とリス クマネジメント (渡辺)	医療現場のリスクマネジメント 職場環境マネジメント		文献 (随時提供)
10	看護キャリア開 発 (渡辺)	キャリア開発、人材育成、人的資 源管理、 看護サービス管理における教育・ 研究、看護政策提言	レポート課題:興味のあるテーマ を選択	文献 (随時提供)
11	看護職能団体に ついて (小椋)	看護職能団体の役割と活動及び 連携 ・国際看護師協会 ・日本看護協会 ・都道府県看護協会 (講義)		【資料提示】
12	地域の健康管理 と療養支援 (小椋)	地域の健康危機管理体制について 全世代の健康を支える看護機能と 地域の課題 (講義と GW)	【事前学修】 人口減少等の社会変化をふまえ、 身近な健康課題をレポートにまと め提出する。	【資料提示】 多様な健康課題
13	看護サービスの 課題と看護制度 (小椋)	看護サービスの課題 看護制度 (講義と GW)		看護制度・政策 論 (看護管理学 習テキスト)
14	看護政策過程 (小椋)	看護政策の基本 看護の政策過程 具体的看護政策実現の事例 (講義と GW)	【事前学修】 あれば良いと考える看護サービス や診療報酬上評価すべき看護サー ビスを考えてくる	看護職者のため の政策過程入門 診療報酬・介護 報酬のしくみと 考え方
15	看護政策の提言 (小椋)	身近な看護サービスの課題を取り 上げ、解決プロセスを踏まえ「私 の看護政策提言」をプレゼンテー ションする	【事後課題】 私の看護政策提言としてレポート にまとめ提出する。	
16				
教科書・参考文献など				
渡辺:参考図書 1) 中西睦子:看護サービス管理 医学書院 2018 年第 5 版 2) 井部俊子監修:看護管理学習テキスト1~5+別冊 日本看護協会出版会 2022 年(2023 改訂予定) 3) 金井嘉宏:組織行動の考え方 東洋経済 2005				
最終到達目標			評価方法	
<p>檜垣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院管理の概念、意義と役割・機能、病院の質保証、多職種連携につ いて考察でき、看護等の管理について具体的示唆が得られる。 <p>渡辺</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護管理の課題を理解し、看護管理としての視点からアプローチする 様々な解決方法を学ぶことができる。 ・看護実践の経験や事例を通し分析し、果たすべき役割や対応方法を検 討することができる。 			<p>檜垣</p> <p>課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(60%)・プレゼンテー ション(20%)・授業参画・討議状況 20%</p> <p>渡辺</p> <p>課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(60%)・プレゼンテー ション(20%)・授業参画・討議状況 20%</p>	

<p>小椋 看護専門職として、身近な看護サービスの課題について制度と関連付けて考えるとともに、看護政策過程における政治、行政・各種団体との協働について理解する。そして、新たな課題に対する看護政策の提言ができる力を身につける。</p>	<p>小椋 課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(80%)・プレゼンテーション(20%)</p>
<p>評価基準</p>	
<p>評価の基準は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) <p>(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>	

授業コード	EMB0301			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	研究力	○
科目区分	共通科目（選択）EMB03				教育・実践力	○
授業科目名	人体生理学特論M	選択・必修	選択		倫理調整力	
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	
担当教員	本田和男				提言力	
授業の目的						
看護研究の実施にあたっては人体の解剖と生理についての基本的な知識が必要であるが、医学に関する知見は日進月歩で変化しているので常に最新の情報を取り入れる必要がある。この科目では細胞から臓器レベルにわたるまでの知識を、新しいテキストを用いて網羅的・総合的にアップデートする。さらに各々の臓器について、正常の生理的機能がそこなわれた状態（病態生理）と新しい治療のアプローチについても理解を深める。						
授業の概要						
最新版の教科書「ナーシンググラフィカ人体の構造と機能①：解剖生理学 第5版」を通読することにより、あいまいな理解や古くなってしまった知識のアップデートをはかる。講義は教科書の目次の項目に従って臓器別にすすめるので、あらかじめテキストに眼を通し自分の理解が不十分な点を確認しておくことが望ましい。免疫については2回にわたって特に詳しく説明する。各々の分野では臨床診療で問題となる点や最新医療との関連性が高い項目をピックアップして重点的に解説する。評価は筆記試験で行うが、必要に応じて課題を提示し、各自のプレゼンテーション、レポート提出などにより理解を深める。 (オフィスアワー：火曜日 10：50-12：20)						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	細胞と組織	細胞、上皮、支持組織、筋、神経	14頁から85頁	解剖生理学5版		
2	骨格	骨組織、頭蓋、体幹、四肢、関節	86頁から121頁	解剖生理学5版		
3	筋肉	筋組織、筋肉の機能、骨格筋	122頁から147頁	解剖生理学5版		
4	血液	血液の成分・機能、血球、血液型	148頁から172頁	解剖生理学5版		
5	循環器	心臓、動脈、静脈、リンパ管	173頁から209頁	解剖生理学5版		
6	呼吸器	気道、肺、呼吸の運動・調節	208頁から255頁	解剖生理学5版		
7	体液・泌尿器	体液調節、腎臓、尿路、排尿	256頁から291頁	解剖生理学5版		
8	消化器	食欲、嚥下、消化、吸収、排泄	292頁から341頁	解剖生理学5版		
9	神経	構造と機能、中枢神経、末梢神経	342頁から399頁	解剖生理学5版		
10	感覚器	視覚、聴覚、嗅覚、味覚、その他	400頁から437頁	解剖生理学5版		
11	膜と皮膚	漿膜、粘膜、滑膜、髄膜、皮膚	438頁から463頁	解剖生理学5版		
12	免疫1	抗原特異性、抗体産生、T細胞	464頁から479頁	解剖生理学5版		
13	免疫2	自然免疫、アレルギー、自己免疫	480頁から503頁	解剖生理学5版		
14	内分泌	脳、甲状腺、膵臓、副腎、性腺	504頁から537頁	解剖生理学5版		
15	生殖器	卵巣、子宮、性周期、妊娠出産	538頁から584頁	解剖生理学5版		
教科書・参考文献など						
ナーシンググラフィカ人体の構造と機能①：解剖生理学 第5版 メディカ出版 ISBN978-8404-7831-1						
最終到達目標				評価方法		
最近出題された看護師国家試験問題にも正答できるように、「人体生理学・病態生理学」に関する基本的知識をあらためて整理しなおし身につける。				課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・		

評価基準・評価基準

履修判定指標：

評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EMB0401			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	研究力	
科目区分	共通科目(選択) EMB04				教育・実践力	○
授業科目名	オーラルヘルス特論M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	中島紀子 浜川裕之				提言力	
授業の目的						
<p>口腔は生命、健康維持に不可欠な機能を持つ臓器の集合体である。歯、歯槽骨、上下顎骨、口蓋骨、口腔粘膜、舌、唾液腺、咀嚼筋群などで構成される。口腔は咀嚼、発音、嚥下の基本機能に加え、味覚、消化液分泌、異物認識、保湿、抗菌などの機能も担っている。口腔の健康(オーラルヘルス)を維持することは長寿に繋がる。そのためには、ライフステージ別のオーラルマネジメントが必要である。齲蝕、歯肉炎、歯周病、欠損補綴、口腔粘膜病変、顎変形症手術による咬合回復、唾液腺疾患、口腔癌の集学的治療などを理解する。また、ヒトが罹患する病気のうち、最も患者数が多い疾患は歯周病である。歯周病が糖尿病をはじめ、脳卒中、脳梗塞、心筋梗塞、アテローム動脈硬化症、高血圧、周産期有害事象、肥満、メタボリックシンドローム、認知症など全身の多くの疾患と関連することを理解し、そのエビデンスを確認する。さらに、医科歯科連携の立場からも周術期、化学療法中の急性期口腔ケア、介護施設での口腔衛生管理が重要であり、その手法の理解、さらに科学的根拠を学修する。</p> <p>この科目を受講した者は患者看護の上で、いかにオーラルヘルスが重要であるかがわかるようになる。</p>						
授業の概要						
<p>最初に口腔解剖学、口腔生理学を概観する。次に口腔内に生じる多彩な疾患とその診断、治療法、予防法を理解する。口腔を初発部位とする全身疾患や口腔症状が全身病の部分症状である疾患群を学ぶ。口腔内嫌気性菌を原因とする歯周病の発生メカニズムを知った上で、歯周病に関連する医療である periodontal medicine の理解に重点を置く。口腔ケアの実践に当たっては患者の基礎疾患、病状把握が重要であり、個々の患者に適した手法と口腔ケアの効果、その科学的エビデンスを知る。また、近年骨粗しょう症患者やがん患者に投与されるビスフォスフォネート製剤やランマークなどで薬剤性顎骨壊死が増加しており、大きな研究課題になっている。そのメカニズム、対処法について理解を深め、科学的エビデンスを検証する。(浜川裕之/7回)</p> <p>口腔機能と唾液分泌との関連性、口腔粘膜や唾液などが正常に機能するための要素、オーラルフレイル予防法、適切なオーラルアセスメントとケア実践、最先端のオーラルケア研究について概説する。また、嚥下障害と嚥下性肺炎の概説、及び全身ケアにつながる口腔ケア実践について、近年の研究成果を踏まえて論述する。さらに口腔ケアの発展的教育としての看護基礎教育の展開について論ずる。(中島紀子/8回)</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-13：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	オリエンテーション 医科 歯科二元論 看護に必要な 口腔医学 (浜川)	対面授業		口腔外科学 白砂兼光 編 医歯薬出版、ほか		
2	口腔解剖学、口腔生理学 (浜川)	対面授業	唾液腺の構造、機能を調べておく			
3	顎顔面先天異常、口腔粘膜 疾患 (浜川)	対面授業				
4	口腔癌の治療法と看護 (浜川)	対面授業				
5	歯周病医療 (浜川)	対面授業		診断と治療9：歯周病が 及ぼす全身疾患への影 響 診断と治療社		
6	薬剤性顎骨壊死 (浜川)	対面授業		薬剤性顎骨壊死ポジシ ョンペーパー		
7	口腔ケアの方法論とエビデ	対面授業		成果の上がる口腔ケア		

	ンス (浜川)			岸本裕充編著 医学書院 よくわかる歯科医学・口腔 ケア 喜久田利弘編 医 学情報社 内科医から伝えたい歯科 医院に知ってほしい糖尿 病のこと 西田互著 医 歯薬出版
8	オーラルフレイルとは (中島)	オーラルフレイルの概念 や取組みについて学修す る。	【事前】オーラルフレ イルについて調べる 【事後】オーラルフレ イルの概念を理解する。	関連文献
9	口腔機能低下とその影響 (中島)	口腔機能低下が全身に及 ぼす影響を学修し、討議 する。	【事前】口腔機能低下に 関連する文献検索 【事後】講義内容の復習	関連文献
10	摂食嚥下障害とその影響 (中島)	摂食嚥下障害に対する包 括的アプローチについて 学修し討議する。	【事前】摂食嚥下障害に 関する文献検索 【事後】講義内容の復習	関連文献
11	認知症と口腔の健康 (中島)	認知症、要介護高齢者の 口腔内の健康について学 修し討議する。	【事前】認知症と口腔ケ アに関する文献の検索 【事後】講義内容の復習	関連文献
12	オーラルフレイルとフレ イル、サルコペニアとの関連 (中島)	オーラルフレイルとフレ イルとの関連を学修し討 議する。	【事前】フレイル、サルコ ペニアについて調べる 【事前】講義内容の復習	関連文献
13	要介護高齢者に対する口腔 ケア (中島)	要介護高齢者に対する口 腔ケアに関する研究の動 向を調べ、課題を明確化 する。	【事前】要介護高齢者に 対する口腔ケアの研究の 動向を調べる 【事後】講義内容の復習	関連文献
14	要介護高齢者に対する口腔 ケアの課題と課題解決 (中島)	臨床経験をふまえ、明確 化した課題解決に向け、 討議する。	【事前】前回の討議をふ まえ課題を明確にする 【事後】解決策の検討	関連文献
15	口腔健康管理の在り方と多 職種連携(中島)	口腔健康管理の在り方を 多職種連携の視点から学 修し討議する。	【事前】口腔ケアと多職 種連携に関連する文献の 検索 【事後】講義内容の復習	関連文献
16	試験			
教科書・参考文献など				
適宜講義内で紹介				
最終到達目標			評価方法	
1. 口腔解剖学、口腔生理学で学んだ疾患や予防法を理解する。 2. 歯周病のメカニズムと対処法について理解する。 3. オーラルフレイルの概念を理解する。 4. オーラルフレイルと要介護者の支援における課題と解決策を理解する。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・	
評価基準				
評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMB0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	共通科目（選択） EMB05				教育・実践力	○
授業科目名	ヘルスアセスメント特論M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	高田律美 別宮直子 羽藤典子				提言力	○
授業の目的						
<p>各種の健康課題を抱える人々への身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面のアセスメントの知識と技術を学修することを目的とする。フィジカルエスメント、及び心理社会的側面へのアプローチにつながる臨床判断能力を高めるために系統的、実践的に学修する。</p>						
授業の概要						
<ul style="list-style-type: none"> ・女性の心身医学を中心に性差医学的な視点で学修する。妊娠期も含めた、高齢者までのライフサイクルを通して、女性のフィジカルな変化をアセスメントする方法の実際や鑑別診断、看護ケアについて学修する。 ・乳幼児期からの子どもの健康の特徴を捉え、とくに成育医療に関する、成人まで続く子どもの心身の成長発達と疾患との関連のフィジカルアセスメントの実際を学修する。 ・心理社会的側面のアセスメントとして、躁鬱（双極性障害・うつ・軽度認知障害）を中心に、同定する主訴、各主症状の確認と過小評価の危険性、問診に必要なコミュニケーション技術、生活背景の聴取と家族からの情報聴取について詳述する。（オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50） 						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。女性のライフサイクルと性差医学（高田）	女性のライフサイクルと性差医学：心身医学的アプローチ法について講義・グループディスカッション実施。	女性のライフサイクルと性差医学について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学		
2	女性と生殖器疾患と関連症状（高田）	女性のライフサイクルに伴う生殖器疾患と関連症状の講義・グループディスカッション実施。	女性のライフサイクルと生殖震撼と関連症状について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学		
3	生殖医療と周産期のフィジカルアセスメント（高田）	生殖医療と周産期のマタニティヘルスに関連するフィジカルアセスメントを講義・グループディスカッション実施。	生殖医療と周産期のマタニティヘルスに関連するフィジカルアセスメントについて文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	助産師のためのフィジカルイグザミネーション		
4	女性の暴力被害と依存症（高田）	女性の暴力被害と依存症：ソーシャルワークとエンパワーメントによるアプローチ法を講義・グループディスカッション実施。	女性の暴力被害と依存症：ソーシャルワークとエンパワーメントによるアプローチ法等について文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学		
5	女性のライフサイクル各期の課題（高田）	女性の心身疾患や症状、社会的課題に関連する最新の動向、知識、介入技術について講義・グループディスカッション実施。プレゼンテーション/グループディスカッション	女性の心身疾患や症状、社会的課題に関連する最新の動向、知識、介入技術について文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学		
6	子どものフィジカルアセスメントの基本（羽藤）	小児における初期評価と小児アセスメントトライアングル（PAT）のポイントや対応方法、適切なV.S.測定に必要な知識・関わり方	トリアージにおいて汎用される小児評価トライアングル、小児におけるバイタルサインの特徴について事前学修する。事後学習について			

		について講義・ディスカッション実施。	ては、講義時に提示予定。	
7	子どもの吸器系・循環器系のフィジカルアセスメントのポイント(羽藤)	発達段階に応じた呼吸機能、循環機能のアセスメントについて、視診、聴診の方法・留意点のほか、実際の聴診音について講義・ディスカッションを実施。	小児における呼吸・循環器の解剖学的特徴、異常呼吸音等について事前学習をする。事後学習については、講義時に提示予定。	
8	子どもの腹部・運動機能(反射)のフィジカルアセスメントのポイント(羽藤)	腹部から鼠蹊部にかけての視診、触診、聴診、打診の実際と成長・発達の過程にある子どもの特徴を踏まえた、運動機能(反射)についてのアセスメントの講義・ディスカッションを実施。	小児における消化器系、鼠径部の解剖学的特徴、原始反射等について事前学習をする。事後学習については、講義時に提示予定。	
9	子どもの発疹に関するフィジカルアセスメントのポイント(羽藤)	子どもの代表的な発疹に関する特徴やアセスメント、必要な対応、ホームケアについて講義・ディスカッションを実施。	子どもの代表的な発疹の性状、隔離が必要な疾患、緊急性の高い(発疹)疾患、基本的なワクチンの時期・種類等について事前学習する。	
10	健康問題をかかえた子どもや家族への支援と課題(羽藤)	小児医療に関する現在の動向を踏まえ、自身の興味のあるテーマを選定し、文献をもとにしたプレゼンテーション・ディスカッションを実施。	各担当者は、自身の興味のあるテーマについて文献をもとに調べ、プレゼンの準備を行う。	
11	双極性障害(別宮)	双極性障害の主症状と鑑別診断における留意点、心理社会的側面のアセスメントについて、プレゼン・ディスカッション実施。	担当者は、双極性障害について、文献をもとに調べ、プレゼンの準備を行う。	
12	うつ病(別宮)	うつ病の主症状と鑑別診断における留意点、心理社会的側面のアセスメントについて、プレゼン・ディスカッション実施。	担当者は、うつ病について、文献をもとに調べ、プレゼンの準備を行う。	
13	軽度認知障害(別宮)	軽度認知障害の主症状と鑑別診断における留意点、心理社会的側面のアセスメントについて、プレゼン・ディスカッション実施。	担当者は、軽度認知障害について、文献をもとに調べ、プレゼンの準備を行う。	
14	BPSD(別宮)	BPSDと周辺疾患の心理社会的アセスメントについて、プレゼン・ディスカッション実施。	担当者は、BPSDについて、文献をもとに調べ、プレゼンの準備を行う。	
15	知的障害(境界域)(別宮)	境界域を含む知的障害の主症状と鑑別診断における留意点、心理社会的側面のアセスメントについて、プレゼン・ディスカッション実施。	担当者は、知的障害について、文献をもとに調べ、プレゼンの準備を行う。	

教科書・参考文献など

1-5 回参考文献：*女性生涯看護学、吉沢豊予子編、真興交易(株)医書出版部(2004)*助産師のためのフィジカルイグザミネーション、我部山キヨ子、大石時子編、医学書院(2018)
6-10 回参考文献：二宮啓子、今野美紀「小児看護学Ⅰ 小児看護学概論・小児看護技術 子どもと家族を理解し力を引き出す」南江堂(2022)、今野美紀・二宮啓子編、「小児看護学Ⅱ 小児看護支援論 子どもと家族の主体性を支える」改訂版第4版、南江堂、(2022)
11-15 回参考文献：標準精神医学【第8版】尾崎紀夫、三村将、水野雅文、村井俊哉編集、医学書院(2021)、カプランの臨床精神医学テキスト DSM-5 診断基準の臨床への展開、井上令一監修、メディカル・サイエンス・インターナショナル(2021)

最終到達目標	評価方法
<p>各種の健康課題を抱える人々への身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面のアセスメントの知識と技術を学修でき、そのアプローチ方法も含め、自身の学習課題を見出し、その分野についてプレゼンテーションができる。</p>	<p>課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・</p>
履修判定指標・評価基準	
<p>履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) <p>(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>	

授業コード	EMB0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	共通科目(選択) EMB06				教育・実践力	○
授業科目名	患者指向性薬理学特論 M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	森田 克也				提言力	○
授業の目的						
<p>看護師は、与薬の実践者として患者さんに直接薬を与え、その効果や副作用を最も間近で観察する立場にあり、「患者さんを守る最後の砦」として、臨床現場で安全かつ有効な薬物治療を行うために、薬理学・臨床薬理学の知識に加えて、患者のケアも含めた細やかな配慮に及ぶ幅広い知識が要求されている。看護実践に必要な薬理学知識を学ぶ。</p>						
授業の概要						
<p>薬物治療における看護師の役割と薬の有害作用(副作用)を総論的に取り上げ、疾患の病態・原因・症状の解説のあと、病態に応じた薬物治療の方針と目的、よく処方される重要薬について、与薬に必要な様々な情報(薬剤の形状、特徴、作用機序、副作用、薬物相互作用、粉碎可能か否か、投与のタイミング、食事や他の薬との関係、味、患者が希望した際に変更可能な投与方法・剤型の種類など)や、代表的な重篤有害反応や、薬の有害反応を疑うべき症状、副作用被害を最小化する方法、副作用情報の入手方法、副作用被害が起きてしまった時の対応、さらには関連事項として救済制度など、薬のリスクに関わる講義を行う。また、治療効果をあげるのに有効なインフォームドコンセントやコンコーダンスなど実践的な内容について取り上げる。</p> <p>(オフィスアワー：講義終了後～90分)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	薬が効く仕組み	薬の作用点、作用の選択性、薬の投与量と薬理作用(薬力学)について講義と討論で理解を深める。	事前学習：学習課題に必要な基礎的知識を振り返り整理しておく。 事後学習：薬物受容体とその情報伝達系、薬力学について説明できる。	適宜、適切な文献やプリントを配布する。		
2	薬の吸収と分布-薬物の適用方法と体内動態	薬の投与方法の種類と特徴、薬の生体内運命(薬物動態)、薬物動態に影響する因子について講義と討論で理解を深める。	事前学習：学習課題に必要な基礎的知識を振り返り整理しておく。 事後学習：薬物投与の特徴と薬物動態の違いについて説明できる。	適宜、適切な文献やプリントを配布する。		
3	薬の相互作用	薬物動態学的(吸収、代謝、分布、排泄)相互作用、食べ合わせによる薬物効果の変化、与薬における配合変化について講義と討論で理解を深める。	事前学習：学習課題に必要な基礎的知識を振り返り整理しておく。 事後学習：薬物動態的相互作用、薬と食べ物との食べ合わせ、配合変化について説明できる。	適宜、適切な文献やプリントを配布する。		
4	小児・高齢者・妊婦・授乳婦の薬物治療	小児・高齢者・妊婦における薬物反応性と薬物動態の特徴、妊婦への投与が問題となる薬物について講義と討論で理解を深める。	事前学習：学習課題に必要な基礎的知識を振り返り整理しておく。 事後学習：ライフステージに応じた薬物治療を説明できる。	適宜、適切な文献やプリントを配布する。		
5	自律神経作用薬(交感神経・副交感神経系作用薬)	薬理作用の基盤となる交感・副交感神経系の機能と薬物作用、副作用、看護のポイントなどについて講義と討論で理解を深める。	事前学習：学習課題に必要な基礎的知識を振り返り整理しておく。 事後学習：薬効発現機序、看護上の留意、有害作用、臨床用途の理解	適宜、適切な文献やプリントを配布する。		
6	循環器系疾患治療薬	高血圧症、不整脈、狭心症、心不全の病態と治療薬の作用機序、副作用、看護のポイントについて講義と討論で理解を深める。	事前学習：学習課題に必要な基礎的知識を振り返り整理しておく。 事後学習：薬効発現機序、看護上の留意、有害作用、臨床用途の理解	適宜、適切な文献やプリントを配布する。		
7	体性神経系作用薬・消化器系疾患治療薬	骨格筋或いは平滑筋の収縮機構と作用する薬物の作用機序、副作用、看護のポイントについて講義と討論で理解を深める。	事前学習：学習課題に必要な基礎的知識を振り返り整理しておく。 事後学習：薬効発現機序、看護上の留意、有害作用、臨床用途の理解	適宜、適切な文献やプリントを配布する。		

8	脳神経系疾患治療薬	鎮静・催眠薬, 抗てんかん薬, パーキンソン治療薬, 抗うつ薬, 抗不安薬, 統合失調治療薬, アルツハイマー病治療薬の作用機序, 副作用, 看護のポイントについて講義と討論で理解を深める.	事前学習: 学習課題に必要な基礎的知識を振り返り整理しておく. 事後学習: 薬効発現機序, 看護上の留意, 有害作用はなぜ起こるのか, 臨床用途を説明できる.	適宜, 適切な文献やプリントを配布する.
9	抗炎症薬	非ステロイド性抗炎症薬・ステロイド性抗炎症薬の作用機序, 副作用とその対策, 看護のポイントについて講義と討論で理解を深める.	事前学習: 学習課題に必要な基礎的知識を振り返り整理しておく. 事後学習: 薬効発現機序, 看護上の留意, 有害作用はなぜ起こるのか, 臨床用途を説明できる.	適宜, 適切な文献やプリントを配布する.
10	鎮痛薬	疼痛発生のメカニズムと非ステロイド性抗炎症薬(解熱鎮痛薬), 鎮痛補助薬, 麻薬性鎮痛薬の鎮痛メカニズムと使用方法, 副作用について討議と討論で理解を深める.	事前学習: 学習課題に必要な基礎的知識を振り返り整理しておく. 事後学習: 薬効発現機序, 看護上の留意, 有害作用はなぜ起こるのか, 臨床用途を説明できる.	適宜, 適切な文献やプリントを配布する.
11	代謝系疾患治療薬	糖尿病の病態と治療薬, 高脂血症の治療薬の作用機序と副作用, 看護のポイントなどについて講義と討論で理解を深める.	事前学習: 学習課題に必要な基礎的知識を振り返り整理しておく. 事後学習: 薬効発現機序, 看護上の留意, 有害作用, 臨床用途の理解	適宜, 適切な文献やプリントを配布する.
12	骨・眼・腎泌尿器系疾患治療薬	骨粗鬆症とその治療薬, 緑内障治療薬, 腎機能と利尿薬, 排尿障害の治療薬の作用機序, 副作用と看護のポイントについて理解する.	事前学習: 学習課題に必要な基礎的知識を振り返り整理しておく. 事後学習: 薬効発現機序, 看護上の留意, 有害作用, 臨床用途の理解	適宜, 適切な文献やプリントを配布する.
13	抗がん薬	抗腫瘍薬, 免疫増強・分子標的薬の作用点と作用機序, DDS, 抗がん薬に共通した副作用とその克服・看護ケアについて理解する.	事前学習: 学習課題に必要な基礎的知識を振り返り整理しておく. 事後学習: 薬効発現機序, 看護上の留意, 有害作用, 臨床用途の理解	適宜, 適切な文献やプリントを配布する.
14	緩和ケアにおける薬物療法	がん疼痛治療薬の使用と副作用, 看護のポイントなどについて講義と討論で理解を深める.	事前学習: 学習課題に必要な基礎的知識を振り返り整理しておく. 事後学習: 薬効発現機序, 看護上の留意, 有害作用, 臨床用途の理解	適宜, 適切な文献やプリントを配布する.
15	最近のトピック	SARS-COV-2 感染機序とワクチン, 治療薬の開発について講義と討論から理解を深める.	事前学習: 学習課題に必要な微生物学的知識を振り返り整理しておく. 事後学習: 新型コロナウイルス感染予防と治療薬について説明できる.	適宜, 適切な文献やプリントを配布する.

教科書・参考文献など

薬がみえる vol.1 げいっくげい 2014. ISBN978-4-89632-549-2. 薬がみえる vol.2 げいっくげい 2015. ISBN978-4-89632-585-0. 薬がみえる vol.3 げいっくげい 2016. ISBN978-4-89632-640-6. 薬がみえる vol.4 げいっくげい 2021. ISBN978-4-89632-800-4. 看護学テキスト NiCE 薬理学 南江堂 2020. ISBN978-4-524-25291-6. 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 2017. ISBN978-4-260-0277-0. くすりとからだ: チーム医療のための臨床薬理学入門九州大学出版会 ISBN-13:978-4798503325.

最終到達目標

評価方法

患者が服用する薬物の薬理作用(副作用や有害作用を含む)を理解することは看護師の立場からも極めて重要である. 患者の様態の変化を予測・評価・対処できることが目標となる.

課題達成度を以下の方法で評価する
筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・

履修判定基準・評価基準

評価の基準は以下のとおりとする。

- A(100~80点): 到達目標を達成している (Very Good)
- B(79~70点): 到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)
- C(69~60点): 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D(60点未満): 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E: 試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足, F: 出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EMB0701			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	研究力	○
科目区分	共通科目（選択）EMB07				教育・実践力	○
授業科目名	感染マネジメント特論M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	三並めぐる 高田律美 中島紀子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、病院や地域においても喫緊の課題となっている COVID-19 などの感染症対策において、様々な感染リスク回避、及び適切で迅速な対応の必要性と重要性について学修し、感染症に対する専門的知識、及び技術とリスクマネジメントとしての感染拡大防止対策について知識を得ることを目的とする。個人、組織、地域を守るための感染マネジメントの考え方と、最新のエビデンスに基づいた予防対策、コンサルテーションに関する知識を深める。各組織のリーダーとして、管理者として、研究者としての感染マネジメントと具体的戦略について学修する。</p>						
授業の概要						
<p>感染対策とマネジメントの基本コンセプト、感染対策プログラム・ガイドラインについて詳述するとともに、人体の免疫機構と感染の成立機序、感染症の病態と治療、薬物療法とワクチンについて最新の知識と技術について論述する。感染症関連の関係法規（医療法・感染症法・学校保健安全法・予防接種法など）の最新の動向、及び感染予防・管理システムの組織的計画の在り方、感染予防・管理システムの運用と評価、サーベイランスの考え方と手法について管理的視点から詳述する。実践の場における感染防止に関する科学的根拠とその評価、及び感染予防の視点からのケア改善と業務改善、感染対策チーム（ICT）の機能と役割、コンサルテーションとファシリティマネジメントについて学修する。また災害時・パンデミックを想定した準備と対応、感染に関連した倫理的課題について、研究的視点で論述する。</p> <p>（オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション（三並）	感染症関連の関係法規（医療法・感染症法・学校保健安全法・予防接種法など）の最新の動向	感染症関連の関係法規について、事前に調べ、発表できる準備を行う。	各自で文献用意		
2	感染予防・管理システムの組織的計画、運用と評価（三並）	感染予防対策の基本について学修し、ディスカッションする。	感染予防について、事前に調べ、発表できる準備を行う。	参考書「国際基準の感染予防対策ナーシングスキルズ」・文献		
3	サーベイランスの考え方と手法①（三並）	医療関連感染サーベイランスと全般的手順について学修し、ディスカッションする。	サーベイランスとその手順、方法について、事前に調べ、発表できる準備を行う。	教科書「感染対策のためのサーベイランス」2-69 ページ・文献		
4	サーベイランスの考え方と手法②（三並）	種類別サーベイランスデータの分析・活用方法について学修し、ディスカッションする。	サーベイランスデータの分析・活用方法について、事前に調べ、発表できる準備を行う。	教科書 72-225・文献		
5	ワクチンの基礎知識とこれからのワクチン（三並）	ワクチンの基礎知識とこれからのワクチンについて学修し、ディスカッションする。	ワクチンの基礎知識とこれからのワクチンについて、事前に調べ、発表できる準備を行う。	参考書「歴史から読み解くワクチンのはなし」・文献		
6	宿主、寄生体、環境の相互作用と感染のメカニズム（高田）	感染症のメカニズムと主な病原体の性状と宿主についての基礎的知識について学修し、ディスカッションする。		「感染制御の基本がわかる、微生物学・免疫学」（羊土社、2020）		
7	主な病原体の性状と宿主（高田）	感染症のメカニズムと主な病原体の性状と宿主についての基礎的知識について学修する。各自	事後学修：前回のテーマで興味のあるところについて文献を追加で調べたところを発表できる。	「感染制御の基本がわかる、微生物学・免疫学」		

		感染に関する文献についてディスカッションする。		(羊土社、2020)
8	免疫のメカニズムとワクチン (高田)	免疫のメカニズムとワクチンの基礎的知識について学修する。各自感染に関する文献についてディスカッションする。	事後学修：前回のテーマで興味があったところについて、文献を追加で調べたところを発表できる。	「感染制御の基本がわかる、微生物学・免疫学」 (羊土社、2020)
9	院内感染の疫学、地域における感染流行に対する疫学と感染防御の概要 (高田)	院内感染の疫学、地域における感染症の流行に関する疫学と感染防御の概要の基礎的知識について学修する。各自感染に関する文献についてディスカッションする。	事後学修：前回のテーマで興味があったところについて、文献を追加で調べたところを発表できる。	「感染制御の基本がわかる、微生物学・免疫学」 (羊土社、2020)
10	感染に関連する最新の知識、技術、疫学的動向や感染防御 (高田)	感染の基礎理論に関する最新の知識、技術、疫学的動向や感染防御について、文献を基にプレゼンテーション後グループディスカッションで理解の共有が図れる	事前学習：各自が興味あるテーマでレジメを作成し、プレゼンテーションできるように準備する。	院生各自の文献
11	院内感染症 (中島)	最近の院内感染について、事例をもとにディスカッションする。	内因性感染と外因性感染について調べる。	参考書「基礎から学ぶ医療関連感染対策」
12	臨床における感染予防 (中島)	標準予防策、針刺し防止対策、廃棄物処理について学修する。	臨床における感染要因について整理する。	参考書「基礎から学ぶ医療関連感染対策」
13	ICTの役割 (中島)	院内におけるICTの役割と機能について学修する。	臨床におけるICTの実際のはたらかきをイメージする。	参考書「基礎から学ぶ医療関連感染対策」
14	災害時の感染症 (中島)	災害時における感染対策の必要性について学修する。	災害時に感染につながる要因について調べる。	参考書「基礎から学ぶ医療関連感染対策」
15	新興感染症 (中島)	新興感染症の定義と現状について学修する。	最近話題になった新興感染症について調べる。	参考書「基礎から学ぶ医療関連感染対策」

教科書・参考文献など

1. 増澤俊幸著：感染制御の基本がわかる、微生物学・免疫学、羊土社（2020）3,080円
2. ICHG研究会編：国際基準の感染予防対策ナーシングスキルズ、医歯薬出版株式会社（2021）5,500円
3. 藤田烈編集：感染対策のためのサーベイランス、MCメディカ出版（2015）4,400円
4. 中山哲夫著：歴史から読み解くワクチンのはなし、朝倉書店（2023）2,860円
5. 坂本史綱著：基礎から学ぶ医療関連感染対策、南江堂（2019）3,080円

最終到達目標

評価方法

感染症に対する専門的知識、及び技術とリスクマネジメントとしての感染拡大防止対策について理解し、個人、組織、地域を守るための感染マネジメントの考え方を基に、最新のエビデンスに基づいた予防対策、コンサルテーションに関する知識をもとに感染マネジメントができる。

課題達成度を以下の方法で評価する
筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・

履修判定指標・評価基準

履修判定指標：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

- A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)
 - B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)
 - C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)
 - D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)
- (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EMC0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 基盤看護学領域 EMC01				教育・実践力	○
授業科目名	看護教育・管理学特論M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1学次/前期	単位数	2		連携力	○
担当教員	河野 保子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、看護教育学に関する基礎的概念や理論を学び、「看護学」教育における主要課題；例えば看護教育制度、教育課程、講義・演習・実習、臨地実習、継続教育等について学修し、看護教育発展のための効果的な教育方法の開発を探究することを目的とする。また看護管理学においては、職場（病院・施設等）における看護組織マネジメント、良質な看護サービスの提供、リーダーシップとフォロワーシップ、医療安全等について学修し、医療の質保証について考究する。</p>						
授業の概要						
<p>看護学は実践の科学である。看護基礎教育課程における教育学的な学修（講義、演習、臨地実習等）について、看護ケアを高めるための知識・理論・技術・態度・倫理観等をどのように教育するのか論述する。また卒業教育や継続教育について考察する。看護教育学の教授研究領域についても概説する。看護管理学においては、看護管理に必要な基本的知識・理論を学び、医療・看護の質の維持・向上のため、現場における看護管理の在り方を考え、看護サービスの実際について具体的に考察する。さらに生涯にわたって主体的に学び続けることの重要性を論じる。</p> <p>（オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	看護教育学に関する基礎的概念	<ul style="list-style-type: none"> 看護教育と看護教育学 「看護学」の教育 看護教育学の教授研究領域 ディスカッション 		【事前】自身が受けた看護教育について想起する。【事後】看護教育学の教授研究内容領域について、自身が研究したい興味・内容について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> オリジナル資料配布 杉森みど里、舟島なをみ著：看護教育学、医学書院、2009 	
2	看護教育制度	<ul style="list-style-type: none"> 看護教育の歴史的変遷 看護教育制度と各法規との関連 ディスカッション 		【事前】看護師養成教育について調べておく。【事後】看護師養成教育と学校教育制度について理解しておく。	<ul style="list-style-type: none"> オリジナル資料配布 学生に課題を与える（レジュメ提出） 	
3	看護教育課程	<ul style="list-style-type: none"> 看護基礎教育課程 教育課程（カリキュラム） ディスカッション 		【事前】自身が受けた教育カリキュラムについて想起しておく。【事後】看護基礎教育課程と大学院教育との継続性について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> オリジナル資料配布 学生に課題を与える（レジュメ提出） 中井俊樹編著：カリキュラムの編成、玉川大学出版部、2022 	
4	大学院教育と高度実践看護師の育成	<ul style="list-style-type: none"> 大学院教育の意義・目的 専門看護師、認定看護師、認定看護管理者、特定行為実践看護師の社会的役割・機能 ディスカッション 		【事前】現在、大学院で学んでいることについて内省する。【事後】わが国の保健医療福祉状況における看護職の量と質について考えておく。	<ul style="list-style-type: none"> オリジナル資料配布 学生に課題を与える（レジュメ提出） 	
5	教授—学習過程	<ul style="list-style-type: none"> 講義 演習、実習 臨地実習 シラバス ディスカッション 		【事前】自身が受けた看護教育の実際について想起する。【事後】教授—学習課程の構造について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> オリジナル資料配布 学生に課題を与える（レジュメ提出） 	

6	看護教育と学習原理	<ul style="list-style-type: none"> ・成人学習者 ・学習理論（古典的条件づけ、道具的条件づけ、刺激-反応理論、洞察、自己効力理論、クランボルト理論） ・ディスカッション 	【事前】自身が受けた看護教育の実際について、講義・演習・臨地実習はどのようなものであったか振り返りを行う。【事後】看護学が実践の科学であるためには、看護実践で用いられる学習理論や各種エビデンスが存在していることを認識する。	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル資料配布 ・学生に課題を与える（レジュメ提出）
7	看護管理学に関する基本的概念	<ul style="list-style-type: none"> ・管理とは何か ・看護管理の構造 ・ディスカッション 	【事前】自身が所属する組織体の管理の実際について考えておく。【事後】看護管理の構造について深く理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル資料配布 ・学生に課題を与える（レジュメ提出）
8	リーダーシップとフォロワーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・フォロワーシップ概念モデル ・状況対応リーダーシップモデル ・ディスカッション 	【事前】組織を意図的・目的的に動かす方法について想起しておく。【事後】リーダーシップとフォロワーシップの相違と重要性を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル資料配布 ・学生に課題を与える（レジュメ提出）
9	医療安全①	<ul style="list-style-type: none"> ・ハインリッヒの法則 ・医療事故と医療従事者の過失 ・アクシデントとインシデント ・ディスカッション 	【事前】看護管理において最も重要な患者の安全について認識しておく。【事後】ハインリッヒの法則の重要性とリスクマネージメントの在り方について理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル資料配布 ・学生に課題を与える（レジュメ提出）
10	医療安全②	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒューマンエラーと医療事故 ・ヒューマンエラーの防止 ・ディスカッション 	【事前】過去に起きている医療事故について調べておく。【事後】ヒューマンエラーの重要性を認識する。	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル資料配布 ・学生に課題を与える（レジュメ提出）
11	医療安全③	<ul style="list-style-type: none"> ・看護をめぐる医療事故 ・看護業務の特性と事故 	【事前】看護ケアが医療事故となった事例について調べておく。【事後】看護業務の特性から医療事故につながるリスクについて理解しておく。	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル資料配布 ・学生に課題を与える（レジュメ提出）
12	【文献検討】	論文輪読 浦上昌則著：学生の進路選択に対する自己効力に関する研究、名古屋大学教育学部紀要、42巻、115-126、1995	【事前】学生個々に分担を決めて課題を与える。論文を熟読しておく。自身の担当部分のレジュメを作成する。【事後】自身の発表に対する他者の意見を傾聴し、自己評価をする。レジュメの修正を行い教員に提出する。	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル文献を配布する
13	【文献検討】	同上	同上	
14	【文献検討】	同上	同上	
15	【文献検討】	同上	同上	
教科書・参考文献など				
必要に応じて資料を配布する。				
最終到達目標			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ①看護教育の歴史的変遷を理解し、看護基礎教育課程の実際や看護教育制度、継続教育の現状について説明できる ②学習者の自己教育力を育成するための教育方法について説明できる ③教育プログラムを立案できる ④看護管理の本質と特徴について理解できる ⑤看護管理と医療安全について説明できる 			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・	

履修判定指標・評価基準

履修判定指標：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EMC0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 基盤看護学領域 EMC02				教育・実践力	○
授業科目名	看護教育・管理学特別演習 M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1 学年/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	河野 保子				提言力	
授業の目的						
本科目は、看護教育・管理学特論 M の学修を踏まえ、自己の研究課題を明確にするために、看護教育・管理学に関連する国内外の論文講読を行い、研究デザインの導き方、研究方法の妥当性・信頼性・新規性、論理的・批判的思考の展開方法等について示唆を得ることを目的とする。						
授業の概要						
学習者の研究課題や関心に応じて、文献講読や看護教育の現場、病院施設等のフィールドワークを実施し、看護教育学的検討・考察や看護管理学的検討・考察を行う。その結果を報告・討議し、自身の研究課題に結び付ける。						
(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	看護学教育における授業展開	<ul style="list-style-type: none"> 授業設計とその必要性 大学教育と指定規則 授業の組織化 ディスカッション 		【事前】 既習した看護教育・管理学特論 M の振り返り学習をする。 【事後】 看護学教育における授業展開の実際について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> オリジナル資料配布 杉森みどり、舟島なをみ著：看護教育学、医学書院、2017 	
2	同上	<ul style="list-style-type: none"> 授業設計と授業の組織化の実際 事例検討—授業計画の立案（目的、目標、講義概要等）— 人間環境大学松山看護学部の授業科目；「生と死のケア演習」を用いる ディスカッション 		【事前】 「生と死のケア演習」のシラバスを読んでおく。 【事後】 事例検討を通して授業設計の必要性を理解する。	河野の担当科目「生と死のケア演習」のシラバス配布	
3	同上 教授—学習過程 (教材研究)	<ul style="list-style-type: none"> 「生と死のケア演習」で使用されている教材文献から、自身が最も興味・関心を引く文献を選んで、何が書かれているか、なぜこの文献が使われたのかをプレゼンテーションする。 ディスカッション 		【事前】 本学の科目；「生と死のケア演習」の中で提示されている文献のうちひとつを選び、記載されている内容について要約・記述する。 【事後】 講義プレゼンテーションを通して内容の理解を深める。	学生自身が作成したプレゼンテーションのレジюме	
4	同上 シラバスとは	<ul style="list-style-type: none"> 講義科目「生と死のケア演習」を用いて、シラバスの概要をクリティークする。 シラバス作成基準 ディスカッション 		【事前】 シラバス作成基準を読んでおく（事前配布）。 【事後】 シラバスの考え方について理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 芦田宏直著：シラバス論、晶文社、2019 中井俊樹編著：カリキュラム編成、玉川大学出版部、2022 	
5	地域包括ケアシステム	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケアシステム、及び地域包括支援センターについてフィールドワークを実施する。 		【事前】 地域包括支援センターにアポイントメントをとっておく。 【事後】 フィールドワークの記録をする。		
6	同上	<ul style="list-style-type: none"> フィールドワークの実際についてスライドを用いて発表（プレゼンテーション）する。 		【事前】 フィールドワークで得られた事実を資料にする。パワーポイントを作成する。 【事後】 フィー		

		・ディスカッション	ルドワーク、ディスカッションを通して、継続看護、多職種連携等の意義を認識する。	
7	人間の「生きる意味」を問う	・看護教育学及び看護管理学の学問の根底にある人間が生きることの意味について学修する。 ・提示した文献の講読・分析 ・ディスカッション	【事前】提示された文献を読んでおく。【事後】看護を考える上において、最も重要な人間の尊厳、個人の尊重、及び倫理観について考察する。	・ホセヨンバルト著：「人間の尊厳」と「個人の尊重」、法学教室、88(1)、1988
8	同上	・ネガティブケイパビリティとは ・提示した文献の講読・分析 ・ディスカッション	【事前】提示された文献を読んでおく。【事後】人間が生きることにおいて、答えの出ない事態に耐えるということはどのようなことかを考察する。	・帚木蓬生著：ネガティブケイパビリティ、朝日新聞出版、2022
9	同上	・提示した文献の講読・分析 ・ディスカッション	同上	同上
10	医療・看護とQOL	・医療とQOL ・看護とQOL ・急性疾患とQOL ・慢性疾患とQOL ・ターミナルとQOL 以上のいずれかを選択して、自身の興味・関心のある文献を抽出する。その文献に書かれている内容を要約してプレゼンテーションする。	【事前】自身で文献を選ぶ。文献を熟読・クリティークする。その後、要約して発表につなげる。【事後】ディスカッションにおいて、指摘された事柄を反芻し自身の研究的知識とする。	
11	同上	同上	同上	
12	文献クリティーク	・看護師のキャリア形成について ・提示した文献の講読・分析 ・ディスカッション	【事前】提示された文献を読んで、量的研究あるいは質的研究においてクリティークする。どのような知見が得られたのか、その妥当性・信頼性等はあるか、において自身の考えをまとめておく。【事後】文献クリティークに関して知識を深め、自身の研究課題に関する文献に対しても同様にクリティークできるようにする。	・林 有学、米山京子著：看護師におけるキャリア形成およびそれに影響を及ぼす要因、日本看護科学会誌、28(1)、12-20、2008
13	同上	同上	同上	同上
14	同上	同上	同上	同上
15	まとめ	看護教育学・看護管理学に対する自身の考えを深めるとともに、自身の研究課題が今回の学修内容とどのように関連しているかについてディスカッションする。	【事前】学修の成果を検討する。 【事後】自身の研究課題について考えを進める。	
教科書・参考文献など				
必要に応じて資料を配布する。				
最終到達目標			評価方法	
①文献のクリティーク方法が理解できる ②現在の看護教育の状況や今後のあるべき方向性を説明できる ③看護管理の実践活動や新しい知見について意見交換ができる ④今後の探究課題を明確化できる			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・	

履修判定指標・評価基準

履修判定指標：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EMC0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 基礎看護学領域 EMC03				教育・実践力	○
授業科目名	実践基礎看護学特論M	選択・必修	必修		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2			
担当教員	中島紀子 森田克也					
授業の目的						
<p>本科目は、看護学の基盤となる基礎看護技術について、その根拠への理解を深めるとともに、看護実践のありかたや効果的な看護、及び看護技術の実施方法について多角的に考察し理解を深めることを目的とする。具体的には、食事、排泄、活動・休息の概念と薬理学的視点から援助の在り方について議論し、看護技術の原則である安全・安楽・自立について考究する。また、看護専門職として人がその人らしく「生活する」ための効果的な看護とその技術の実施方法や教育方法について検討する。</p>						
授業の概要						
<p>第1回から第7回は、ライフステージからの薬理学：乳幼児から高齢者の虚弱（フレイル）までのライフステージで直面する健康問題・発達課題、ステージに応じた身体的・精神的機能の各段階での特徴、薬物動態や薬力学的変容と薬理作用、さらに加齢に伴う慢性炎症と細胞廊下・生活習慣病との関りなどについて、国内外の文献調査研究、グループ討議を通して理解を深め、薬物療法のライフステージに応じた目標と取り組みについて学ぶ。</p> <p>第8回から第15回は、基礎看護学における基礎看護技術について、実践科学として理論的に説明できるよう、自身の実践の中で経験した事例を論理的に記述し、看護学の知識に文献を反映して意味づけをする。ケースレポートにまとめて課題解決につなげ、看護実践の本質的特徴について検討することで、科学的根拠をふまえた知識と技術の獲得につなげる。臨床現場において個別性のある看護を遂行するための看護実践能力を高める。（オフィスアワー：木曜日 12：00-13：30）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	生活と健康 (中島)	生活と健康に関する概念モデルを概観し、ディスカッションを行う。	【事前】生活と健康に関する文献調査を実施する。 【事後】概念モデルを復習する。	健康という幻想		
2	ケアの本質 (中島)	ケアとは何か、ケアの本質についてメイヤロフの文献を用いて学修し、ディスカッションを行う。	【事前】メイヤロフのケアの本質について調べる 【事後】メイヤロフのケアの本質の意味を理解する。	ケアの本質		
3	看護技術；コミュニケーション (中島)	援助関係とは、コミュニケーションの特性について学修しディスカッションを行う。	【事前】コミュニケーションの特性について考える 【事後】援助関係、コミュニケーションの特性について理解する。	配布資料		
4	看護技術；EBN (中島)	EBN、技術の評価、看護技術教育の課題について学修し、ディスカッションを行う。	【事前】基礎看護技術の評価について調べる。 【事後】EBNの必要性、技術評価について理解する。	配布資料		
5	看護実践と看護実践能力 (中島)	優れた看護ケアとは、看護ケアの質とは何か学習し、ディスカッションを行う。	【事前】日本看護質評価改善機構の評価項目一覧を熟読する。 【事後】看護ケアにおける質保証について理解する。	看護ケアの質評価と改善		
6	生活の質 (中島)	生活の質とは、生活の質評価について学修し、看護実践の本質的特徴についてディスカッションを行う。	【事前】QOLの概念について調べる。 【事後】現代におけるQOLについて理解する。	配布資料		
7	ヘルスケア (中島)	ヘルスケアに関する文献から、看護実践について論理的にディスカッションを行う。	【事前】ヘルスケアの概念について調べる。 【事後】	配布資料		

8	第1回から第7回までのまとめ (中島)	ケースレポートをプレゼンし、ディスカッションを行うことで、看護実践の課題を明確化し課題解決につなげる。	【事前】自己の経験した事例を論理的に記述し、プレゼンの準備を行う。 【事後】看護実践における課題と解決方法を理解する。	配布資料
9	新生児・小児の生理機能と薬物治療 (森田)	新生児・小児の生理機能と薬物動態や薬力学的特徴について講義・グループ討論から理解を深める。	事前学修：新生児・小児の身体組成や臓器機能について予習する。 事後学習：新生児・小児の薬物動態、看護のポイントについて説明できる。	適宜、適当な文献やプリントを配布する。
10	妊婦・授乳婦の生理機能と薬物治療 (森田)	妊婦・授乳婦の身体的・精神的機能の特徴と薬物動態や薬力学的特徴について講義・討論から理解を深める。	事前学修：妊婦・授乳婦の身体組成や臓器機能について予習する。 事後学習：妊婦・授乳婦の薬物動態、看護のポイントについて説明できる。	適宜、適当な文献やプリントを配布する。
11				
12	高齢者の生理機能と薬物治療の概要 (森田)	高齢者の生理機能と薬物動態や薬力学的特徴について講義・グループ討論から理解を深める。	事前学修：加齢による身体組成や臓器機能の変化を予習する。 事後学習：高齢者の薬物動態、看護のポイントについて説明できる。	適宜、適当な文献やプリントを配布する。
13				
14	高齢者の特徴的な薬物動態と薬物治療 (森田)	加齢と薬 (ポリファーマシー、薬と病気の相互作用、アドヒアランス、高齢者の薬物関連問題) について講義とグループ討議から理解を深める。	事前学修：ポリファーマシーや高齢者の薬物動態、薬物関連問題を予習する。 事後学習：様々な加齢と薬物に関する問題、看護のポイントを説明できる。	適宜、適当な文献やプリントを配布する。
15				
教科書・参考文献など				
第1回～第8回参考図書： ①健康という幻想—医学の生物学的変化，ルネ・デュポス（著），紀伊国屋書店（1983） 880円 ②人間にとって健康とは何か，斎藤環，PHP 研究所（2016），1,989円 ③看護ケアの質評価と改善，一般社団法人日本看護室評価改善機構（編），医学書院，（2022），3,300円 ④省察的实践とは何か—プロフェッショナルの行為と思考，柳沢昌一，鳳書房，（2007），4,400円 ⑤ライフステージや疾患背景から学ぶ臨床薬理学 羊土社 2017. ISBN978-4-7581-0936-9				
最終到達目標			評価方法	
看護実践に関する文献から基礎看護技術について理解を深め、生活機能を向上させる看護技術について述べるができるとともに、課題を明確化し実践への応用を考察することができる。 ライフステージからの薬理学：乳幼児から高齢者の虚弱（フレイル）までのライフステージで直面する健康問題・発達課題、ステージに応じた身体的・精神的機能の各段階での特徴、薬物動態や薬力学的変容と薬理作用、さらに加齢に伴う慢性炎症と細胞老化・生活習慣病との関わりなどについて、国内外の文献調査研究、グループ討議を通して理解を深め、薬物療法のライフステージに応じた目標と取り組みについて学ぶ。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMC0401			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	研究力	○
科目区分	専門科目 基盤看護学領域 EMC04				教育・実践力	○
授業科目名	実践基礎看護学特別演習 M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	中島紀子 森田克也				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は実践基礎看護学特論 M の学修をふまえ、実践における基礎看護に存在する課題を追求し、多角的視点から現象をとらえ、自己の研究課題を明確にすることを目的とする。実践基礎看護学に関連する論文購読を行うとともに、研究デザイン、研究方法の妥当性、信頼性、得られた結果の新規性等を論理的、批判的に精読し、科学的論理的思考に基づく研究課題を導き出す。また学生の研究課題や関心に応じて、看護教育の現場や、病院施設でのフィールドワーク、また実験研究を通しての論理的思考の醸成を学び、その結果を報告・討議し、自身の研究課題に結び付ける。</p>						
授業の概要						
<p>第1回から第15回は、疾患を抱えながら治療や生活をする人への基礎看護技術（日常生活行動、観察、安全・安楽・自立）について、看護教育現場や病院施設等のフィールドワークを通して、実践看護の構造や有用性・妥当性について検討し、課題解決に向けた具体的解決策を検討する。自己の研究課題については、幅広い視野からの検討に臨む。</p> <p>第16回から第30回は、慢性疼痛患者の有病率が20%を超える現代社会において、患者の「痛み」を理解し、正しく治療できる医療職の育成が年々求められている。疼痛は生物学的因子のみならず、心理的・社会的因子も病態に深くかかわっており、人々の健康に深く関わっている。寿命、生活習慣病、小児期での虐待、睡眠障害、あるいは認知機能等と慢性疼痛との関りや末梢から中枢に至る神経ネットワークや心理社会的、あるいは全人的な観点から痛みのメカニズムや臨床との関連について、グループ討議で把握し、治療・ケアスキームなどを構築すると同時にその実践に向けて学んでいく。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	文献レビュー概説 (中島)	文献レビューの意義とクリティークについて講義を行う。	【事前】文献レビュー、クリティークについて調べる。 【事後】講義内容を振り返り次回の講義までにクリティークについて理解する。	文献レビューのきほん		
2	文献抄読 (中島)	研究課題に関連する文献を選定し概観する。 ディスカッションを行う。	【事前】研究課題に関連する文献の選定 【事後】ディスカッション内容を振り返りまとめる。	関連文献		
3	文献レビュー (中島)	自己の研究課題に関する研究の同行をつかみ、ディスカッションを行う。	【事前】研究課題をふまえた文献の選定 【事後】研究課題に関連する研究の動向を把握する。	文献レビューのきほん		
4	フィールドスタディ計画 (中島)	研究テーマに関連するフィールドワークの計画 (目的・方法) を検討し、ディスカッションを行う。	【事前】フィールドの情報を整理し計画につなげる。	関連文献		
5			【事後】フィールドワークの計画立案			
6	看護実践、教育活動への参加 (中島)	看護実践あるいは教育活動の場に参加し、看護実践の有用性・妥当性を検討する。	【事前】フィールドワークの目的を確認し把握しておく。	関連文献		
7			【事後】フィールドワークで得られた情報をまとめる。			
8						
9						

10	研究課題と問題の明確化 (中島)	看護実践あるいは教育活動への参加から得られた情報を、自己の研究課題に照らし合わせて考察する。また、ディスカッションを通して課題解決策を明確化する。	【事前】フィールドワークのまとめと自己の研究課題を照らし合わせまとめる。 【事後】成果発表の資料を作成する。	関連文献
11				
12				
13				
14	成果発表 (中島)	演習での成果を発表し、ディスカッションを行う。	【事前】プレゼンの準備 【事後】ディスカッションで得た結果をまとめる。	関連文献
15	まとめ (中島)	特別演習のまとめおよびフィールドワークの振り返りを行う。	【事前】演習の振り返り 【事後】演習のレポート作成	関連文献
16	痛みの定義、痛みの種類と特徴 (森田)	痛みとはなにか?様々な痛みの種類とその特徴について講義とグループ討議で理解を深める。	事前学習：痛みについて何が知りたいか整理しておく。 事後学修：痛みの不思議、痛みをどう捉えるかを説明できる。	適宜、適切な論文や資料を配布する
17	痛みの生物学的因子 (森田)	痛みのインパルスの発生・伝導・伝達路、痛みの修飾・調節する仕組みについて講義とグループ討議から理解を深める。	事前学習：痛みについての医学的基礎知識を復習しておく。 事後学修：痛みについて医学的に説明できる。	適宜、適切な論文や資料を配布する
18	痛みの認知とその修飾機構、痛みの慢性化(難治化機構) (森田)	脳での痛みの認知機構、神経系の可塑的变化や下降性疼痛抑制系の機能低下、高次脳機能の異常による痛みの過敏とバランスの破綻について講義と討議で理解を深化させる。	事前学習：第16,17回の講義内容を復習しておく。事後学修：慢性の痛みを訴える人々の痛みが如何して長く続くのか、どうすれば改善できるのかを考察する。	適宜、適切な論文や資料を配布する
19				
20	痛みの心理的・社会的因子、全人的苦痛への配慮 (森田)	情動神経回路と痛み、痛みと脳内報酬系、スピリチュアルペインなど脳科学と心理・社会的側面から多角的にアプローチする。	事前学習：痛みの脳での認知回路について調べてくる。事後学修：慢性的に痛みを訴える人々の心理社会的背景と対応策について説明できる。	適宜、適切な論文や資料を配布する
21				
22	小児期での虐待と痛み (森田)	小児期での強いストレスがその後の発達・発育および痛み感覚に及ぼす影響について講義とグループ討議で理解を深める。	事前学習：小児期での虐待による脳機能の変遷について予習する。 事後学修：小児期の強いストレスが痛みの認知に影響することを説明	適宜、適切な論文や資料を配布する
23				
24	睡眠障害と痛み (森田)	慢性疼痛と睡眠障害の負のスパイラル、情動反応に関与する脳機能変化、QOLの低下について講義とグループ討議から理解を深める。	事前学習：睡眠障害の病態について予習しておく。 事後学修：慢性痛と睡眠障害の関連について説明できる。	適宜、適切な論文や資料を配布する
25				
26	生活習慣病と慢性疼痛 (森田)	様々な生活習慣病と痛みの関係について、神経・精神病態との関連について講義とグループ討議から理解を深める。	事前学習：生活習慣病の病態について予習しておく。事後学修：疼痛治療に疼痛以外の併発・合併症状の改善も考慮に入れる必要性の理解	適宜、適切な論文や資料を配布する
27				
28	認知機能と慢性疼痛 (森田)	認知機能の低下と痛みの関係および痛みのアセスメントについて、講義とグループ討議から理解を深める。	事前学習：認知症の病態について予習しておく。事後学修：認知症患者の疼痛が多彩な症状や行動で表現されることの理解する。	適宜、適切な論文や資料を配布する
29				
30	個人の性格と慢性痛 (森田)	慢性痛を通して脳と心の関係について講義とグループ討議から理解を深める。	事前学習：第16~29回の講義内容を復習しておく。事後学修：慢性痛が高次脳機能の歪みにより作出された表現型である可能性を説明できる。	適宜、適切な論文や資料を配布する
教科書・参考文献など				
参考書：文献レビューのきほんー看護研究・看護実践の質を高める 大木秀一(著)，医歯薬出版第一版(2013)，2,860円				

最終到達目標	評価方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献レビュー、クリティークについて理解することができる。 2. フィールドワークを通して自己の研究課題の課題を明確にし、解決策を提案することができる。 3. 患者の「痛み」を理解し、正しく治療できる医療職の育成が年々求められている。 4. 疼痛は生物学的因子のみならず、心理的・社会的因子も病態に深く関わっており、人々の健康に深く関わっている。寿命、生活習慣病、小児期での虐待、睡眠障害、あるいは認知機能等と慢性疼痛との関わりや、末梢から中枢に至る神経ネットワークや心理社会的、あるいは全人的な観点から痛みのメカニズムや臨床との関連について、グループ討議で把捉し、治療・ケアスキームなどを構築すると同時にその実装に向けて学んでいく。 	<p>課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・</p>
履修判定指標・評価基準	
<p>履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) <p>(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>	

授業コード	EMC0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目・基盤看護学領域 EMC05				教育・実践力	○
授業科目名	基盤看護学特別研究 1M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1 学年/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	河野保子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、看護教育・管理学の質保証に欠かせない科学的知見を得るために、看護サービスの提供、看護システム、看護教育の内容、及び展開方法等について個別研究指導を行うことを目的とする。研究過程は①研究課題の把握、②研究テーマの設定、③関連文献の探索、④研究目的と研究デザインの決定、⑤研究計画・方法の決定、⑥データ収集、及びデータ分析を明確化し、修士論文計画書を作成して公開審査会で発表する。</p>						
授業の概要						
<p>学生自身の個別テーマに合わせて研究指導を実施する。担当教員のこれまでの研究テーマは、①看護教育課程の歴史の変遷の研究、②教授—学習課程の研究、③看護師の自己効力感と自己実現に関する研究、④看護師のアサーションに関する研究、⑤患者のQOLと人権に関する研究等である。</p> <p>看護の課題解決に向けた積極的・自主的な研究的取り組みを必要とし、正確で緻密なデータ収集やデータ分析、論理的・客観的文章の作成が求められる。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	科目ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> 研究指導教員のガイダンス、及び副研究指導教員の紹介 研究課題の確認、イメージのさらなる検討 研究スケジュールの検討 		【事前】ガイダンスを受け自身の研究の進め方を調整する。【事後】ガイダンス後に、自身の研究スケジュールを再調整する。	関連文献	
2	研究動機の明確化	<ul style="list-style-type: none"> 研究課題に対する「問い」とその背景を明確化する 		【事前】研究課題のイメージの深化、文献検索。【事後】研究指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献	
3	研究課題に関連した文献検索と文献クリティーク	<ul style="list-style-type: none"> 文献検索の方法 文献のクリティークにより、自身の研究課題への応用性の分析 		【事前】関連する文献を集める。【事後】文献クリティークにより、研究テーマの新規性、研究方法の妥当性、研究対象の妥当性、データの収集法、データの客観性・信頼性、結果・考察の新規性・妥当性等を理解する。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献	
4	同上	同上		同上	同上	
5	同上	同上		同上	同上	
6	同上	同上		同上	同上	
7	同上	同上		同上	同上	
8	研究課題の焦点化	<ul style="list-style-type: none"> 文献検索、文献クリティークから自身の研究課題を焦点化する。 		【事前】自身の研究テーマを絞り込む。【事後】研究テーマの決定後は、特に関連する文献を精査する。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献	
9	研究の概念モデルの構築(用いる理論の決定)	<ul style="list-style-type: none"> 研究目的、研究の概要から研究の概念モデル、あるいは用いる理論を検討する。 		【事前】自身の研究テーマ、研究の問い、研究で明らかにしたいことを踏まえて、概念モデル(理論)を検討する。【事後】指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献	

10	研究テーマ、研究目的の決定	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマを決定する。 研究目的を文章化する。 	【事前】研究テーマ、研究目的を文章化しておく。【事後】研究テーマ、研究目的を確実なものとする。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
11	研究計画書の作成	<ul style="list-style-type: none"> 研究デザイン、研究方法、倫理的配慮等の記載 研究計画書の記載マニュアルに従って書く。 	【事前】研究計画書の記載マニュアルを読む。【事後】研究計画書を作成する。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
12	修士論文計画発表会	<ul style="list-style-type: none"> 研究発表会に向けて、研究要旨の作成 パワーポイントの作成 	【事前】自身が主張したい内容について把握する。【事後】発表要旨の作成をする。効果的なパワーポイントを作成する。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
13	研究計画書の修正・完成	<ul style="list-style-type: none"> 発表会で指摘を受けたことに対する修正 研究計画書を完成させる。 	【事前】発表会での指摘を真摯に受け止め表現する。【事後】研究計画書を完成させる。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
14	同上	同上	同上	同上
15	倫理申請書の作成・提出	<ul style="list-style-type: none"> 倫理申請書の内容に従って作成する。 研究内容に即した倫理申請書を作成する。 	【事前】倫理的配慮について熟考する。【事後】審査結果に応じて修正・加筆する。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
教科書・参考文献など				
研究課題に必要な文献等は学生自身で検索する。				
最終到達目標			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> 文献検索、検討を行い自己の研究課題（研究テーマ）を明確化できる。 研究テーマに基づき研究目的が設定できる。 研究目的を達成するための概念枠組み（理論モデル）を設定できる。 研究目的に応じた研究デザインを作成できる。 研究テーマ、目的、研究方法が内包された研究計画書が作成できる。 研究計画書に基づき研究構想発表ができる。 倫理審査委員会に申請書を提出できる。 			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標：				
評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。				
A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)				
B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)				
C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMC0502			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 基盤看護学領域 EMC05				教育・実践力	○
授業科目名	基盤看護学特別研究IM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	中島紀子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、看護教育・管理学の質保証に欠かせない科学的知見を得るために、看護サービスの提供、看護システム、看護教育の内容、及び展開方法などについて個別研究指導を行うことを目的とする。研究過程は①研究課題の把握、②研究テーマの設定、③関連文献の探索、④研究目的と研究デザインの決定、⑤倫理的配慮、⑥データ分析の方法を明確化し、修士論文計画書を作成し、公開審査会で発表する。</p>						
授業の概要						
<p>本科目は、基礎看護学領域の視点から学生の研究テーマに合わせた研究指導を担当する。これまでの研究は、 1. がん治療における口腔内合併症の予防的介入に関する研究 2. 限界集落地域での健康生活を維持するための社会的課題と取り組みの検証 3. 看護基礎技術に関するエビデンスの創出と看護基礎教育への発展的展開 4. 高齢者の尊厳の保持と自立生活支援のための課題の検討 である。</p> <p>本科目は、1年次の4月に研究指導教員の決定と履修指導が決定された後、文献検討から課題を分析し、研究テーマを決定し研究計画書作成を行う。研究テーマ決定後、研究計画書の作成を始め、10月に研究計画書の発表を実施し、12月に研究計画書を完了し、2月に倫理審査委員会へ申請書を提出し審査を受ける。</p> <p>(オフィスアワー：木曜日 12:00-13:30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	オリエンテーション	研究動機の確認と研究スケジュールの組立	【事前】研究スケジュールと自身の勤務スケジュールを把握する 【事後】研究スケジュールをふまえ、自身の研究スケジュールを把握する。	関連文献		
2	文献検討および研究課題の検討 問題の焦点化	自分のテーマに関する文献検索を実施し、批判的検討を行い、問題を焦点化する。	【事前】文献検索 【事後】問題を焦点化できるよう繰り返し分析を行う。	関連文献		
3						
4						
5						
6	研究テーマの決定	研究テーマを決定する。	【事前】自身の研究テーマを絞り込む	関連文献		
7	研究計画書の作成 研究デザインや方法の検討	研究テーマにそった研究デザインや方法を検討し、研究計画書を作成する。	【事前】研究デザインを調べる 【事後】研究デザインを検討しながら、研究計画書を作成する。	関連文献		
8						
9						
10	研究計画書の発表 準備および発表	研究発表会の準備および発表を行う。	【事前】研究計画書の発表準備 【事後】研究発表会で指摘された	関連文献		
11						

			箇所を修正する。	
12	研究計画書完成	研究計画書を完成させる。	【事前】研究計画書を完成させる。 【事後】研究計画書を必要に応じて修正する。	関連文献
13				
14	申請書作成	必要な申請書類をそろえ、提出に必要な申請書を作成する。	【事前】提出書類の確認 【事後】申請書を提出する。	関連文献
15	倫理審査委員会へ申請書の提出	倫理審査委員会へ申請書を提出し、審議を受ける	【事前】倫理審査委員会に申請書を提出する。 【事後】審査結果に応じて、必要であれば修正する。	関連文献
教科書・参考文献など				
最終到達目標				
1. 文献検討をして、問題を焦点化することができる。 2. 研究テーマを決定することができる。 3. 研究計画書を作成することができる。 4. 倫理審査委員会に申請書を提出することができる。			評価方法 課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMC0503			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 基盤看護学領域 EMC05				教育・実践力	○
授業科目名	基盤看護学特別研究IM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	森田克也				提言力	○
授業の目的						
看護教育・管理学の質保証に欠かせない科学的知見を得るために、看護サービスの提供、看護システム、看護教育の内容、及び展開方法などについて個別研究指導を行うことを目的とする。研究過程は①研究課題の把握、②研究テーマの設定、③関連文献の探索、④研究目的と研究デザインの決定、⑤倫理的配慮、⑥データ収集、⑦データ分析の方法を明確化し、修士論文計画書を作成し、公開審査会で発表する。						
授業の概要						
研究テーマは学生自身の個別テーマであるが、担当教員の指導可能な研究テーマは以下のとおりである。 1. 緩和ケアにおけるクリニカル・オーディットを活用した看護ケアのあり方に関する研究 2. 唾液中神経栄養因子を指標とした認知症予防戦略の構築 3. 健康長寿及びフレイル予防と咀嚼機能に関する研究 課題解決に向けた自主的な探求と、集められた資料の分析・論理的な文章の作成等、論理的思考法と分析的思考法を含めた学習が求められる。 (オフィスアワー：授業終了後～90分)						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	ガイダンス	研究指導教員が決定し、個々の研究課題に沿って個別指導開始する。学生は研究課題に対するイメージを自由に論述する。		研究課題がイメージできる	学生個々の研究課題に即した参考文献および自己の研究方法に類似した参考文献は自身で検索する。	
2	研究動機の明確化	学生個々の研究課題に対して、研究動機を明確にする。		研究動機を明確に述べることができる		
3	文献検索の方法と文献の客観的な精査(クリティーク)から研究課題の	文献検索の方法を教授する		文献検索の方法が理解できる		
4		学生個々の研究課題を明確にするために、文献検索、および文献を客観的な精査し、対象となる現象の特性、データの収集法、対照への関わり方について学ぶ。		文献クリティークの基準が理解できる。 論文の読解能力を身につける。		
5		研究課程の正確な描写と、収集したデータの信頼性・妥当性を評価する知識を醸成する。		文献検索、文献を客観的に精査し、対象となる現象の特性、データの収集法、対照への関わり方について自己学習ができる。		
6		学生個々の研究課題に対して、問題解決できるための方法について議論する		研究的問題解決の方法が理解できる。		
7		文献検索及び文献クリティークの結果から研究課題を焦点化させる。		自己の研究課題を明確に述べることができる。		
8	研究課題の焦点化	研究目的をイメージして研究の概念モデルを検討する		研究の概念モデルについて理解できる。		
9	研究の概念モデルの構築	研究課題を明確にするために、研究背景、動機、研究目的について論じ、文章化する。		研究背景、動機、目的について論理的に記述することができる。		
10	研究課題を明確にする	研究目的を明確化する。		研究目的を明確に文章化できる。		
11	研究目的の明確化	研究計画発表会にむけての研究要旨とPowerPoint資料を作成する。		自己の研究計画発表(研究構想発表)ができる。		
12	修士論文研究計画発表会					

13	研究計画書の完成	研究計画発表会での指摘を研究計画に反映して、研究計画書を完成する。	自己の研究課題解決に向けた論理的な研究計画書が作成できる。	
14	研究倫理申請書の作成	研究内容に即した研究倫理申請書を作成し、倫理審査を受ける。	研究倫理申請書が作成できる。	
15	研究課題の提出	自己の研究課題について指導教員に文書で報告する。	自己の研究課題について、レポート提出ができる	
教科書・参考文献など				
学生個々の研究課題に即した参考文献および自己の研究方法に類似した参考文献は自身で検索する。				
最終到達目標			評価方法	
研究テーマに即したオリジナルティ・プライオリティ・社会的価値のある研究目的とその目的を達成するにふさわしい概念枠組みの構築、研究デザインが内包された研究計画が作成できる。修士論文計画書を作成し、発表会で発表する。			提出された自己の研究課題の妥当性、および研究課題に即した研究計画書作成により単位が認定される。	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標：				
評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。				
A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)				
B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)				
C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMC0603			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 基盤看護学領域 EMC06				教育・実践力	○
授業科目名	基盤看護学特別研究ⅡM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	森田克也				提言力	○
授業の目的						
特別研究ⅡMの研究計画書に従って、学生に対する個別研究指導に取り組み、学位論文を完成させることを目的とする。看護教育学分野、看護管理学分野における諸現象を看護の専門的視点で把握し、学生自身の研究課題に対して、科学的思考力と研究手法を用いて、修士論文としてまとめることにより問題解決能力や研究能力を身に着ける。						
授業の概要						
作成した研究計画に沿って、①データを収集する、②データを入力する、③データを分析する、④得られた研究結果の信頼性・妥当性を検討する、⑤適切な図表を作成する、⑥研究テーマ・目的・方法・結論までの文章を作成する、⑦論旨の一貫性を吟味し、論文を完成させる。修士論文を完成させることにより、看護実践リーダー、管理者、教育者としての高度専門職業人としての能力を養う。学生は修士論文の倫理審査の承認を得て、研究を実施して、中間発表会、最終発表会で研究について発表し、研究論文を完成させるように論文指導をする。 (オフィスアワー：授業終了後～90分)						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	研究活動（データ収集・分析・考察）と論文の作成	研究計画に沿って研究活動を開始する。		自己の課題に即した研究方法によって、課題解決に向けた自主的な探究を行う。	自己の研究課題解決に類似した参考文献及び自己の研究方法に即した参考文献を適宜、自身で検索する。	
2		データ収集と解析・分析		データ収集とデータ解析・分析ができる。		
3		データ収集・分析が積極的な研究活動が展開できるよう指導する。				
4						
5		分析されたデータの信頼性・妥当性を検証する。		データの信頼性・妥当性の検証ができる。		
6						
7		研究結果および考察を展開し、論理性・学術性のある論文の執筆を目指す。		考察と結論の論理性・学術性の検証ができる。		
8				論理的な思考法と分析的思考法を含めた検証ができる。		
9	修士論文中間発表会	修士論文中間発表会の論文要旨を作成する。論文要旨に基づいて発表準備を行い、指定された期日までに必要書類を提出する。修士論文中間発表会で研究発表する。				
10		中間発表会での助言を自身の研究に反映させる。				
11	修士学位論文審査	修士論文を完成し、修士論文および修士論文審査書類を期日までに教務課に提出する。修士学位論文審査を受ける。				
12	修士博士論文の修正	学位論文審査時の助言を適切に論文に反映させる。				
13	修士学位論文最終発表会	修士論文最終発表会の論文要旨を作成する。最終発表会用資料を期日までに教務課に提出する。修士学位論文最終発表会で発表する。				

14	修士博士論文の修正	最終発表会での指摘・助言をもとに修士学位論文を修正する。修士博士論文の修正版を教務課に提出(4部)する。		
15	学位授与判定(最終審査)	研究科委員会にて可否が判定される。		
教科書・参考文献など				
最終到達目標				
修士論文の倫理審査の承認を得て、研究を実施し、中間発表会、最終発表会で研究について発表して、修士学位論文を完成させる。			評価方法 提出された論文は論文審査委員会による口頭試問を受け、学則に準じた評価を為す。	
履修判定基準・評価基準				
履修判定基準： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMD0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD01				教育・実践力	○
授業科目名	リプロダクティブヘルス特論	選択・必修	選択		倫理調整力	○
学年/学期	1年次/前期	単位数	2		連携力	○
担当教員	高田律美				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、リプロダクティブヘルスの基本理念と健康のとらえ方を学修する。女性のライフサイクル各期の特徴と健康問題をグローバルヘルスの視点を含む支援に関する理論を学修する。周産期における健康問題とその時期の特徴を捉え、マタニティヘルスと家族の発達段階に関する理論を適用し母子保健施策について学修することを目的とする。</p>						
授業の概要						
<p>講義の内容としては、リプロダクティブヘルスの基本概念と歴史の変遷学び、グローバルヘルスの視点でリプロダクティブヘルスに関する健康問題を概説する。女性の思春期から老年期までの各ライフサイクルの特徴とパートナーを含む健康課題について心理的、身体的、社会政策的側面から学修し、アプローチ法と理論を学ぶ。また、周産期における健康問題とその時期の特徴をとらえ、マタニティヘルスと家族の発達段階に関する理論とその適用を学修する。現代の母子保健とその家族の健康課題について、関連する最新の知識・技術に関するエビデンスの獲得について学修する。母子保健施策と周産期のケアシステムなど、現代の母子保健についての課題を取り上げて、課題解決の方法を探求する。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13:20-14:50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。リプロダクティブヘルス/ライツの基本理念と歴史の変遷	リプロダクティブヘルス/ライツのの基本理念と歴史の変遷知識についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	リプロダクティブヘルス/ライツについて、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学		
2	グローバルヘルスの視点でのリプロダクティブヘルスの課題	グローバルヘルスの視点でのリプロダクティブヘルスの課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	グローバルヘルスの視点でのリプロダクティブヘルスの課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学		
3	ジェンダー・家族についての社会的課題 (LGBTQ を含む)	ジェンダー・家族についての社会的課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	ジェンダー・家族についての社会的課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	岩間暁子他 問からはじめる社会学、		
4	課題の探求①	①-③の授業に関する課題に関連した各自の興味あるテーマについてレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを15分程度実施し、その後ディスカッションを行える準備をする。			
5	思春期の特徴と健康課題	思春期の特徴と健康課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	思春期の特徴と健康課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学		
6	成熟期の特徴と健康課題	成熟期の特徴と健康課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	成熟期の特徴と健康課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学		
7	更年期・老年期の特徴と健康課題	更年期・老年期の特徴と健康課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	更年期・老年期の特徴と健康課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学		
8	リプロダクティブヘルスに関連するガイドライン	リプロダクティブヘルスに関連するガイドラインの課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	リプロダクティブヘルスに関連するガイドラインの課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	性感染症診断・治療ガイドライン2020、		

9	課題の探求②	⑤-⑧の授業に関する課題に関連した各自の興味あるテーマについてレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	事前学習：各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを15分程度実施し、その後ディスカッションを行える準備をする。	
10	リプロダクティブヘルスに関する社会的課題と施策	リプロダクティブヘルスに関する社会的課題と施策の課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	リプロダクティブヘルスに関する社会的課題と施策”的課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	ART 大国日本から考えるリプロダクティブヘルス/ライツ、リプロダクティブ・ライツとリプロダクティブ・ヘルス
11	周産期における健康課題・ケアシステム	周産期における健康課題・ケアシステムの課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	周産期における健康課題・ケアシステムについて、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	WHO 推奨 ポジティブな出産体験のための分娩期ケア
12	課題の探求③	⑩-⑪の授業に関する課題に関連した各自の興味あるテーマについてレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	事前学習：各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを15分程度実施し、その後ディスカッションを行える準備をする。	
13	マタニティヘルスに関連するガイドライン	マタニティヘルスに関連するガイドラインの課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	マタニティヘルスに関連するガイドラインの課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	妊娠高血圧症候群ガイドライン2021
14	マタニティヘルスに関連する家族の発達課題とその理論	グローバルヘルスの視点でのリプロダクティブヘルスの課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	ジェンダー・家族についての社会的課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	標準産婦人科学第5版、家族看護学：家族のエンパワメントを支えるケア
15	課題の探求④	⑬-⑭の授業に関する課題に関連した各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする	事前学習：各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを15分程度実施し、その後ディスカッションを行える準備をする。	
16	試験			
教科書・参考文献など				
<p>* 女性生涯看護学 吉沢豊予子 真興交易(株)医学出版部 (2004)、* 問からはじめる社会学、岩間暁子他、有斐閣 (2015)、* 性感染症診断・治療ガイドライン2020、日本性感染症学会、診断と治療社、(2020)、* ART 大国日本から考えるリプロダクティブヘルス/ライツ (2022)、* リプロダクティブ・ライツとリプロダクティブ・ヘルス、信山社、谷口真由美 (2007)、* WHO 推奨 ポジティブな出産体験のための分娩期ケア、分娩期ケアガイドライン翻訳チーム、(2021)、* 妊娠高血圧症候群の診療指針2021、日本妊娠高血圧学会、MEDICAL VIEW(2021)、* 標準産科婦人科学 第5版、綾部 琢哉ら、医学書院、(2021) * 家族看護学：家族のエンパワメントを支えるケア、中野 綾美ら、メディカ出版 (2020)</p>				
最終到達目標			評価方法	
<p>1. リプロダクティブヘルスとの基本理念と歴史的変遷とグローバルヘルスの視点でリプロダクティブヘルスの課題を取り上げ、その内容についてプレゼンテーションし、説明することができる。</p> <p>2. 妊婦とその家族が不安なく快適で健康な妊娠生活を送り、親となる準備や新しい家族を迎える準備が整うよう支援する内容をプレゼンテーションし、説明することができる。</p> <p>3. ハイリスク・異常妊婦のケアと心理面へ支援する内容をプレゼンテーションし、説明することができる。</p> <p>4. 現代の母子保健とその家族の健康課題について、関連する最新の知識・技術に関するエビデンスの獲得について取り上げ、その内容及び、課題解決のための、母子保健施策と周産期のケアシステムについて、プレゼンテーションし、説明できる。</p>			<p>課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験 (60%) ・ 課題レポート (20%) ・ プレゼンテーション (20%) ・</p>	

履修判定指標・評価基準

履修判定指標：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EMD0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD02				教育・実践力	○
授業科目名	リプロダクティブヘルス看護学 特別演習M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	高田律美				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、女性の健康がよりウェルネスに向うための健康行動理論、移行期理論等をもとに、その援助方法を探求することを目的とする。ヘルスプロモーションの実際と支援方法とそれらの研究手法について学修する。研究と理論、研究との関連について学修する。周産期医療および看護、ウイメンズヘルス・マタニティヘルス・リプロダクティブヘルス/ライツに関するアプローチ方法とそれらに関する研究手法を学ぶまた、論文のクリティークの方法を学修し研究課題の探求のための手法を学修する。</p>						
授業の概要						
<p>演習の内容については、女性の健康をよりウェルネスに導くために健康行動理論、移行期理論等をもとに、健康教育等の援助方法の実際を学修し、ヘルスプロモーションの実際と支援方法と関連する研究手法について学修する。さらに、周産期医療・看護に関する健康問題についてその周産期ケアの実際をエビデンスの創出に寄与する研究について学修する。新たな健康課題改善のための研究的アプローチ方法を学修する。そのうえで、講義に関連した課題をもとにレポートを作成、また各自の興味あるウイメンズヘルス・マタニティヘルス・リプロダクティブヘルス/ライツに関連するテーマについて文献をクリティークし、発表後のディスカッションで学びを深める。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。 研究と理論：健康行動理論	健康行動理論について講義とグループディスカッション実施。	健康行動理論に関する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	健康行動理論による研究と実践		
2-4	研究と理論：健康行動理論の研究と実践	健康行動理論の研究と実践について講義とグループディスカッション実施。	健康行動理論の研究と実践に関する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	健康行動理論による研究と実践		
5-8	研究と概念：ヘルスプロモーション	ヘルスプロモーションについて講義とグループディスカッション実施。	ヘルスプロモーションに関連する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	ナッジ×ヘルスリテラシー—ヘルスプロモーションの新たな潮流、		
9	課題の探求	①-⑧の授業に関する課題に関連した各自の興味あるテーマをレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを実施し、その後ディスカッションを行える準備をして臨む。			
10-12	研究と理論：移行期理論	移行期理論について講義とグループディスカッション実施。	移行期理論に関連する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	移行理論と看護—実践, 研究, 教育—		

13-15	研究と理論：移行期理論の研究と実践	移行期理論の研究と実践について講義とグループディスカッション実施。	移行期理論の研究と実践に関連する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回発表できるように準備する。	移行理論と看護—実践, 研究, 教育—
16、17	研究方法：質的研究	質的研究について講義とグループディスカッション実施。	質的研究に関する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後は関心あるテーマについて質的研究方法を用いている原著論文を検索し熟読しておく。	質的研究法：その理論と方法 健康・社会科学分野における展開と展望
18、19	研究方法：量的研究（尺度開発）	尺度開発について講義とグループディスカッション実施。	尺度開発に関する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後は関心あるテーマについて尺度開発の研究方法を用いている原著論文を検索し熟読しておく。	質問紙調査と心理測定尺度計画から実施・解析まで
20、21	研究方法：アクションリサーチ	アクションリサーチについて講義とグループディスカッション実施。	アクションリサーチに関する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後は関心あるテーマについてアクションリサーチの研究方法を用いている論文を検索しておく。	アクションリサーチ - 看護研究の新たなステージへ
22	課題の探求	⑨-⑳の授業に関する課題に関連した各自の興味あるテーマをレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを実施し、その後ディスカッションを行える準備をして臨む。	
23	論文クリティークの方法	クリティークとは何かについて概説する。	事前に該当図書を熟読する。	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版
24、25	論文クリティークの方法と実際①	質的研究における文献クリティークに関する講義をする。第7回目の授業後に検索した論文についてクリティークを展開する。	事前に該当図書を熟読する。各自の論文についてクリティークの実際を展開してくる。	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版
26	論文クリティークの方法と実際②	尺度開発研究における文献クリティークに関する講義をする。第8回目の授業後に検索した論文についてクリティークを展開する。	事前に該当図書を熟読する。各自の論文についてクリティークの実際を展開してくる。	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版
27、28	論文クリティークの方法と実際③	システムティックレビューにおける文献クリティークに関する講義をする。第7回目の授業後に検索した論文についてクリティークを展開する。	事前に該当図書を熟読する。各自のシステムティックレビュー論文を検索してクリティークの実際を展開してくる。	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版
29、30	ウイメンズヘルス・マタニティヘルス・リプロダクティブヘルス・ライツに関連する論文のクリティーク	各自の研究テーマに関連する論文のクリティークした結果についてプレゼンテーションを実施する。	各自の研究テーマに関連する論文のクリティークした結果をプレゼンテーションできる準備をして臨む。	

教科書・参考文献など	
<p>*健康行動理論による研究と実践、日本健康教育学会、医学書院（2019）、*ナッジ×ヘルスリテラシー—ヘルスプロモーションの新たな潮流、村山洋史、大修館書店（2022）。*ヘルスプロモーション 健康科学 和田雅史ら、聖学院大学出版（2016）、*移行理論と看護—実践、研究、教育—、アフアフ イブラヒム メレイス 監修、学研（2019）*質的研究法：その理論と方法 健康・社会科学分野における展開と展望、プラニー・リアムプットーン 著、メディカル・サイエンス・インターナショナル（2022）*質問紙調査と心理測定尺度計画から実施・解析まで、宇井美代子ら著、サイエンス社（2014）*アクションリサーチ入門 - 看護研究の新たなステージへ、筒井真優美ら著、ライフサポート社、（2010）*よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版 牧本清子ら編著、日本看護協会（2020）</p>	
最終到達目標	評価方法
<p>1. 女性の健康をよりウェルネスに導くために健康行動理論、移行期理論等をもとに、健康教育等の援助方法の実際を学修し、ヘルスプロモーションの実際と支援方法と関連する研究手法についてプレゼンテーションし、説明することができる。</p> <p>2. 周産期医療・看護、ウイメンズヘルス・マタニティヘルス・リプロダクティブヘルス/ライツに関する健康問題について講義に関連した課題をもとにレポートを作成、プレゼンテーションできる。</p> <p>3. 各自の興味あるウイメンズヘルス・マタニティヘルス・リプロダクティブヘルス/ライツに関連するテーマについて文献をクリティークし、その内容についてプレゼンテーションし、ディスカッションすることができる。</p>	<p>課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験 (60%) ・ 課題レポート (20%) ・ プレゼンテーション (20%) ・</p>
履修判定指標・評価基準	
<p>履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>	

授業コード	EMD0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD03				教育・実践力	○
授業科目名	小児看護学特論M	選択・必須	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2		連携力	○
担当教員	三並 めぐる 羽藤 典子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、子どもと家族を生涯発達の視点から捉え、子どもの成長・発達、小児看護における理論、遊び、健康課題と健康生活、子どもの人権、感染症対策、小児救急、児童虐待、先天性疾患や小児慢性特定疾患などのある患児と家族支援、小児と家族のアセスメントとセルフケア、家族や養育環境、多職種連携、家族看護の視点から、小児と家族にとっての最善の看護と健やかな生活について考究することを目的とする。そのため、小児看護における理論、アセスメント力、ケア実践能力、ケア評価、ケア管理、水準の高いケア実践の提供など、実践者・研究者としての管理の力と倫理的課題に対して対応できる知識と方法、思考を学修する。</p>						
授業の概要						
<p>子どもの成長・発達と遊び、小児看護における理論、こども基本法の活用について論じる。また、子どもの健康生活と健康教育、子どもの人権について言及するとともに、感染症対策と予防接種、ライフサイクルにおける子どもの健康増進の在り方について論じる。さらに、先天性疾患や小児慢性特定疾患などのある患児と家族支援、及び家族看護、日本と世界のタバコ対策とSDGsについても自研究と先行研究を踏まえて論じる。</p> <p>小児と家族のアセスメントとセルフケア、小児と家族の養育環境について、実践と研究を往還しながら論じる。また、多職種連携の現状と課題、現代社会の課題である小児救急看護の現状と課題、児童虐待の防止と早期対策について研究的視点で論じる。さらに、小児の生活習慣の課題と対応、学童期・思春期女子の冷えの課題と対応について自研究と先行研究から論じる。</p> <p>(オフィスアワー 三並：水曜日 15:00-16:30 羽藤：火曜日：16:30~17:30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション、子どもの成長・発達と遊び (三並)	科目オリエンテーション 子どもの成長・発達と遊びについてディスカッション	【事前】 テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う。 【事後】 400文字で振り返る。	学生が書籍や文献等で資料作成		
2	小児看護における理論 (三並)	アタッチメント理論、認知発達理論、自我発達理論、情緒の分化についてディスカッション	【事前】 テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う。 【事後】 400文字で振り返る。	学生が書籍や文献等で資料作成		
3	こども家庭庁とこども基本法 (三並)	こども家庭庁、こども基本法の基本理念、子ども施策についてディスカッション。	【事前】 テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う。 【事後】 400文字で振り返る。	令和四年法律第七十七号 こども基本法		
4	子どもの人権 (三並)	「子どもの人権110番」についてディスカッション	【事前】 テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う。 【事後】 400文字で振り返る。	法務省：子どもの人権110番		
5	子どものレジリエンス (三並)	アメリカ心理学会が推奨している子供向けのレジリエンスを強める方法についてディスカッション	【事前】 テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う。 【事後】 400文字で振り返る。	子どもの逆境に負けない力「レジリエンス」を育てる本		
6	子どもの健康生活と健康教育 (三並)	アンデシュ・ハンセン著：スマホ脳を読み、子どもの健康生活と健康教育についてディスカッション	【事前】 テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う。 【事後】 400文字で振り返る。	アンデシュ・ハンセン著：スマホ脳		
7	子どもの健康増進(三並)	ライフサイクルにおける子どもの健康増進のための子どもたちに読んで欲しい本・映像の紹介	【事前】 テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う。 【事後】 400文字で振り返る。	児童福祉文化財子どもたちに読んで欲しい本		
8	日本と世界のタバコ対策とSDGs(三並)	「タバコの規制に関する世界保健機関枠組条約」についてディスカッション	【事前】 テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う。 【事後】 400文字で振り返る。	タバコの規制に関する世界保健機関枠組条約		

9	慢性疾患をもつ子どもの実態と自立支援・施策(羽藤)	小児慢性特定疾患治療研究事業および小児慢性特定疾病児童への自立支援事業の目的や具体的な施策内容に関するプレゼンテーション・ディスカッションの実施。	事前学修：慢性疾患児の自立支援施策について、文献を調べプレゼンの準備を行う。 事後学修：小児慢性特定疾患治療研究事業、小児慢性特定疾病児童等自立支援事業の意義と課題をまとめる。	小児慢性特定疾患治療研究事業
10	移行期医療と移行支援について(羽藤)	移行期医療をめぐる日本の動向に関するプレゼンテーション・ディスカッションの実施。	事前学修：日本における移行期医療・移行支援に関する文献を調べその特徴をまとめる。 事後学修：日本の移行期医療・移行支援の現状について課題をまとめる。	関連文献
11	成人期への移行過程にある慢性疾患児の支援の在り方について(羽藤)	成人診療科への転科、医療システムにおける課題に関するプレゼンテーション・ディスカッションの実施。	事前学修：成人診療科への転科、医療システムに関する文献・書籍を調べ、プレゼンの準備を行う。 事後学修：事例について、成人診療科への転科、医療システムにおける課題をまとめる。	関連文献
12	医療的ケアを必要とする在宅療養の子どもと家族の支援システムについて(羽藤)	医療的ケア児等とその家族に対する支援施策、法律、多職種間の連携、社会資源の活用、課題等に関するプレゼンテーション・ディスカッションの実施。	事前学修：医療的ケアを必要とする在宅療養の子どもと家族の支援システムに関する文献・書籍を調べ、その特徴や課題についてプレゼンの準備を行う。事後学修：地域で生活する医療的ケア児とその家族への支援の課題と対応についてまとめる。	医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律
13	児童虐待の動向(羽藤)	児童虐待に関する法律、児童虐待の動向、児童虐待の実態、多機関による対応システムの実際についてプレゼンテーション・ディスカッションを実施。	事前学習：日本における児童虐待の現在の動向とその実態について、文献等を読み特徴をまとめる。 事後学修：ディスカッションした内容をもとに、自身が考える児童虐待の予防と防止、対応についてまとめる。	改正児童福祉法 児童虐待防止対策
14	児童虐待の防止と予防に関するシステムと課題(羽藤)	児童虐待の発生予防、早期発見・早期対応、保護に関する取り組み、社会的養護の現状についてのプレゼンテーション・ディスカッションの実施。	事前学習：児童虐待の発生予防、早期発見・早期対応、保護に関するそれぞれの取り組みの内容や社会的養護の現状について文献等で調べ、プレゼンの準備を行う。 事後学修：児童虐待の防止と予防に関するシステムと課題をまとめる。	改正児童福祉法 児童虐待防止対策
15	健康に問題を抱える子どもと家族の支援における看護師の役割と多職種連携(羽藤)	健康障害をもつ子どもと家族に関わる看護師の役割と多職種連携の実際と今後の課題についてのプレゼンテーション・ディスカッションの実施。	事前学修：興味のある事例をもとに、健康障害をもつ子どもと家族に関わる看護師としての役割と多職種の連携の必要性についてプレゼンの準備を行う。 事後学修：事例に基づき、看護師の役割と課題、新たな取り組みを考える。	関連文献

教科書・参考文献など

1. アンデシュ・ハンセン著：スマホ脳、新潮新書、1080円(2020)
2. 令和四年法律第七十七号 こども基本法
3. 法務省：子どもの人権110番

4. 厚生労働省：児童福祉文化財	
5. 外務省・厚生労働省：タバコの規制に関する世界保健機関枠組条約	
最終到達目標	評価方法
子どもと家族を生涯発達の視点から捉え、子どもの成長・発達、小児看護における理論、遊び、健康課題と健康生活を理解する。 小児と家族のアセスメントとセルフケア、小児と家族の養育環境、生活習慣、小児救急看護、児童虐待の防止と早期対策等を理解する。	課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・
履修判定指標・評価基準	
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)	

授業コード	EMD0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD04				教育・実践力	○
授業科目名	小児看護学特別演習 M	選択・選択	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1 年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	三並 めぐる 羽藤 典子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、小児看護学特論 M の学修を踏まえ、自己の研究課題を明確にするために、小児看護学に関連する論文講読を行うとともに、研究デザイン、研究方法の妥当性、信頼性、得られた結果の新規性などを論理的、批判的に精読し、科学的論理的思考に基づく研究課題を導き出すことを目的とする。子育て支援や子どもの虐待防止に関する総合的な見識と専門的な実践能力の視点と態度、支援する方法を探究する。臨床にある課題を深く追求し、さらに多角的な視点で子どもと家族の生活問題、健康問題、セルフケア、発達課題、育児支援など自己の研究課題を研究的視点で掘り下げる。</p> <p>また、学生の研究課題や関心に応じて、小児看護の現場や、保育所、子育て支援センター、児童クラブ、病院施設などのフィールドワークを実施し、その結果を報告・討議し、自身の研究課題に結びつける。</p>						
授業の概要						
<p>子どもの生活環境と遊びの環境の中の課題を明らかにし、健やかな成長・発達への支援について海外や国内の論文を中心にクリティカルシンキングとディスカッションなど研究的視点で論述する。また、子どもの病気や障害がきょうだいに及ぼす影響ときょうだいの反応行動、子どものストレスコーピングモデルと小児看護、健康生活と健康教育、子どもの人権と子どもの貧困など現代的課題に対する小児看護師の役割と家族支援について論述する。</p> <p>小児と家族の健康や病気に対するアセスメントから子どもと家族のセルフケアの課題をセルフケア理論と生活支援を関連付けて論述する。また、児童虐待の防止と早期対策、マルトリートメント対応の国内外の研究の動向から得た知見を多職種連携、小児と家族の養育環境の改善に関連付けて自身の研究課題を導き出す。小児の生活習慣から生じる健康課題について、実験や介入の具体的方法について演習を取り入れ、現実の健康課題の解決を研究的視点から論述する。(オフィスアワー三並：水曜日 15：00-16：30 羽藤：火曜日：16：30~17：30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1.2	オリエンテーション 子どもの健やかな成長と施策(三並)	授業オリエンテーション 子どもの健やかな成長のための施策についてディスカッション	【事前】テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う 【事後】400文字で振り返り	令和3年版 子供・若者白書(全体版)(PDF版)		
3.4	子どもの生活環境と遊び環境①(三並)	保育所、子育て支援センター、児童クラブでのフィールドワーク	【事前】テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う 【事後】400文字で振り返り	フィールドワーク		
5.6	子どもの生活環境と遊び環境②(三並)	フィールドワークを通してのディスカッション	【事前】テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う 【事後】400文字で振り返り	学生が体験したことを書籍や文献等を加えて資料作成		
7.8	子どもの病気や障害ときょうだい(三並)	子どもの病気や障害ときょうだい、ヤングケアラーについてディスカッション	【事前】テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う 【事後】400文字で振り返り	学生が書籍や文献等で資料作成		
9.10	子どもと無煙環境(三並)	子どもと無煙環境についてディスカッション	【事前】テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う 【事後】400文字で振り返り	UICC(2008). たばこの煙から子どもたちを守るには		
11.12	子どもの貧困(三並)	子どもの貧困についてディスカッション	【事前】テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う 【事後】400文字で振り返り	子どもの貧困対策の推進に関する法律(平成二十五年法律第六十四号)		
13.14	子どもの人権(三並)	「小児看護の日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針について」ディスカッション	【事前】資料をもとに子どもの人権について発表準備【事後】400文字での振り返りを行う	日本小児看護学会資料		

15	ガイダンス、オレムのセルフケア看護理論の小児看護への応用、概念理解（羽藤）	本科目の羽藤担当分の概要および教育内容の説明を行い、主体的に学修する方法について説明を行う。オレムのセルフケア看護理論の小児への適用について、主要な概念、こどもを理解するために必要な理論を学ぶ。	事前学修：オレムセルフケア理論の小児看護への適用について、重要な概念を調べ、資料を準備する。 事後学修：オレムの主要概念と小児看護への適用を復習する。	こどものセルフケア看護理論
16	オレムセルフケア看護理論のこどもを理解するために必要な理論および基本的考え方の理解（羽藤）	こどもを理解するために必要な理論およびオレム看護理論の基本的な考え方を理解し、子どもとその家族へ活用する意義を学ぶ。	事前学修：こどもを理解するために必要な理論およびオレム看護理論の基本的な考え方、こどもセルフケア看護理論の構造と目的について調べ資料を準備する。 事後学修：こどもセルフケア看護理論の構造と目的を復習する。	こどものセルフケア看護理論
17	オレムセルフケア看護理論における子どものセルフケアの理解（羽藤）	こどもセルフケア看護理論でのセルフケアの定義と特徴、こどものセルフケアにおける基本的条件付け要因、こどものセルフケア能力の構造とその発達を学ぶ。	事前学修：セルフケアの定義と特徴、こどもセルフケア看護理論における基本的条件付け要因、こどものセルフケア能力の意味やその発達等について調べ、資料（Ppt）を準備する。	こどものセルフケア看護理論
18	オレムセルフケア看護理論におけるこどものセルフケア不足の理解（羽藤）	こどもにおけるセルフケア不足および、「依存」から「補完される」とする考え方、こどもにとって補完されるケアの意味の理解、こどものセルフケア不足を補完する力とは何かについて理解する。	事前学修：こどもにおけるセルフケア不足とはどういったことなのか、小児看護にとって「依存」から「補完される」とする考え方の重要性について調べ、資料（Ppt）を準備する。	こどものセルフケア看護理論
19	オレムセルフケア看護理論におけるこどもへの看護支援の理解（羽藤）	こどもセルフケア看護理論における看護実践の構造と内容、こどものセルフケア能力を引き出す看護の役割、こどもセルフケア看護理論における看護システムの基本構造を学ぶ。	事前学修：看護実践の構造と内容、こどものセルフケア能力を引き出す看護の役割、こどもセルフケア看護理論における看護システムの基本構造について調べ、資料（Ppt）を準備する。	こどものセルフケア看護理論
20	オレムセルフケア看護理論における看護過程の理解（羽藤）	理論を用い、身体面・心理面・社会面を統合した系統的アセスメント、看護目標の設定、計画の立案、評価の方法について具体的に学ぶ。	事前学修：こどもに必要なセルフケアの確定、こどものセルフケア能力と可能な行動の確定、親または養育者がこどものセルフケアを補完するケア能力と可能な行為の確定、セルフケア不足：看護として行うケアの確定などに必要な基本的知識等について調べ、資料（Ppt）の準備をする。	こどものセルフケア看護理論
21	オレムセルフケア看護理論における子どもと家族へのケアの理解（羽藤）	こどもセルフケア看護理論における家族へのケア、こどものセルフケアを補完する親または養育者のケアとは何かについてディスカッションする。	事前学修：家族へのケアについて、家族のみかたや家族の位置づけ、こどものセルフケアを補完する親または養育者のケアとは何かについて調べプレゼンの準備（Ppt）をする。	こどものセルフケア看護理論
22	オレムセルフケア看護理論の小児看護への適用実践への適用（羽藤）	これまでの自身の小児看護実践を振り返り、本理論を実践にどのように適用できるか発表・ディスカッションを行う。	事前学修：院生は、自身のこれまでの実践経験を振り返り、オレムのセルフケア看護理論を今後、どのように実践に適用できるかについて、事例を踏ま	こどものセルフケア看護理論

			え、Ppt でプレゼンができるよう準備する。	
23	子どもの権利とプレパレーションの理解Ⅰ（羽藤）	子どもの権利、医療における子ども憲章を踏まえた子どもへの支援の重要性について、これまでの研究成果を学び、その背景や重要性、プレパレーションの必要性について理解する。	事前学修：院生は、子どもの医療における人権、権利擁護、子どもの自己決定権（インフォームド・アセント）などについて、これまでの研究成果を文献等で調べ、Ppt でプレゼンの準備をする。	子どもの権利条約 医療における子ども憲章
24	子どもの権利とプレパレーションの理解Ⅱ（羽藤）	子どもの権利、医療における子ども憲章を踏まえた子どもへの支援の重要性について、これまでの研究成果を学び、その背景や重要性、プレパレーションの必要性について理解する。	事前学修：院生は、子どもの医療における人権、権利擁護、子どもの自己決定権（インフォームド・アセント）などについて、これまでの研究成果を文献等で調べ、Ppt でプレゼンの準備をする。	子どもの権利条約 医療における子ども憲章
25	子どもの権利とプレパレーションの理解（羽藤）	子どもの医療における人権、権利擁護、子どもの自己決定権（インフォームド・アセント）などについて、その背景や重要性についての発表・ディスカッションを行う。	事前学修：各院生の発表・ディスカッションから学んだ内容や自身の看護実践の振り返りを通して、小児医療における子どもの人権を尊重した最善の医療とはどういったことであるのかレポートを作成し提出する。	子どもの権利条約 医療における子ども憲章
26	日本におけるマルトリートメントの現状とその対応（羽藤）	日本におけるマルトリートメント（不適切な養育）の動向の把握とその対応について、理解する。	事前学修：これまでの研究成果を学び、その背景や現状、マルトリートメントに対する認知、その対応や重要性について、これまでの研究成果を文献等で調べ、Ppt で資料を作成する。	配布資料
27	日本におけるマルトリートメントの現状とその対応（羽藤）	日本におけるマルトリートメント（不適切な養育）の動向の把握とその対応について、理解する。	事前学修：これまでの研究成果を学び、その背景や現状、マルトリートメントに対する認知、その対応や重要性について、これまでの研究成果を文献等で調べPpt で資料を作成する。	配布資料
28	マルトリートメントに対する日本の取り組みと課題（羽藤）	日本のマルトリートメントに関する現状とその取り組みを踏まえ、小児看護師をはじめ多職種との連携として可能な支援や課題についてプレゼン、ディスカッションを行う。	事前学修：医療現場におけるマルトリートメントに関する取り組みの可能性と課題について、これまでの研究成果を文献等で調べまとめる。	配布資料
29.30	小児と家族の発達課題とその支援について① ②	多様な養育環境で育っている子どもと家族に焦点をあて、小児と家族の発達課題とその支援についてレポート発表とディスカッション、遊びの実際を入れ、自己の研究課題の研究に臨む	【事前】テーマについてのスライド4枚作成と発表準備、遊びの実際準備を行う【事後】400文字で振り返り	学生がテーマにそった資料作成
教科書・参考文献など				
1. 片田範子著：こどもセルフケア看護理論、医学書院、3850円（2019） 2. 日本小児看護学会：小児看護の日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針（2022） 3. 令和3年版 子供・若者白書（全体版）（PDF版） 4. たばこの煙から子どもたちを守るには、UICC（2008） 5. 子どもの貧困対策の推進に関する法律（平成二十五年法律第六十四号）				

最終到達目標	評価方法
<p>子どもの生活環境と遊び、児童逆題防止と早期対策、生活習慣など子どもと家族を取り巻く環境の中の課題を明らかにし、海外や国内の論文を中心にクリティカルシンキングとディスカッションなど研究的視点で論述できる。</p>	<p>課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・</p>
履修判定指標・評価基準	
<p>履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) <p>(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>	

授業コード	EMD0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD05				教育・実践力	○
授業科目名	成人看護学特論M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2		連携力	○
担当教員	本田和男				提言力	
授業の目的						
本研究は、救急医療における患者、特に心血管系、及び消化器系のフィジカルアセスメント、及びケア技術の開発に関する研究など、臨床志向型研究に取り組むために必要なクリティカルケアに関する最新の知識と技術を修得することを目的とする。フィジカルアセスメント技術、及び臨床推論の基本的手法と思考を学修する。また、救命救急場面における倫理的課題を探究し、研究と実践との有機的な相互作用の展開ができる看護判断について探究する。						
授業の概要						
救命救急の場面、特に心血管系、および消化器系の症状を呈する患者の場面を通して、看護上で直面する患者側及び医療従事者側の問題・課題をとりあげ、各種のヘルスアセスメント、ケア介入、各種治療に関連する看護技術について言及し、実践能力を高めるための知識について詳述する。また救命救急場面における倫理的課題について探究し、その背景と課題解決への方法について論述する。 (オフィスアワー：火曜日 11:00-12:20)						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目ガイダンス	授業の進め方 クリティカルケアのアセスメントの 基本と各種看護等理論の検討	事前にあセスメント及び看護理論 の読んでおく。症例をまとめてい く。症例提示することを理解する	適宜必要な資料 は提示する		
2	クリティカルな 状態にある人の フィジカルアセ スメント(呼吸)	呼吸状態に関連した症例検討	症例をまとめておく。 症例で不明だった点をクリティ ックして次回に問題提議する	症例の情報提供		
3	クリティカルな 状態にある人の フィジカルアセ スメント(循環)	循環不全に関連した症例検討	症例をまとめておく。 症例で不明だった点をクリティ ックして次回に問題提議する	症例の情報提供		
4	クリティカルな 状態にある人の フィジカルアセ スメント(中枢神 経障がい)	中枢神経系に関連した症例検討	症例をまとめておく。 症例で不明だった点をクリティ ックして次回に問題提議する	症例の情報提供		
5	クリティカルな 状態にある人の フィジカルアセ スメント(急性腹 症)	急性腹症に関連した症例検討	症例をまとめておく。 症例で不明だった点をクリティ ックして次回に問題提議する	症例の情報提供		
6	クリティカルな 状態にある人の フィジカルアセ スメント(生体防 御)	生体防御機能に関連した症例検討	症例をまとめておく。 症例で不明だった点をクリティ ックして次回に問題提議する	症例の情報提供		
7	クリティカルな 状態にある人の アセスメント(呼 吸、循環)	呼吸と循環の要補助機器に関連し た症例検討	症例をまとめておく。 症例で不明だった点をクリティ ックして次回に問題提議する	症例の情報提供		

8	補助循環下にある人の看護	症例検討	症例をまとめておく。 症例で不明だった点をクリティックして次回に問題提議する	症例の情報提供
9				
10	周手術期の看護	周手術期の一般的管理	ケースワークの事例のまとめ方提示の仕方	
11	周手術期の看護 循環器系	症例検討（循環器）	症例をまとめておく。 症例で不明だった点をクリティックして次回に問題提議する	症例の情報提供
12	周手術期の看護 消化器系	症例検討（消化器）	症例をまとめておく。 症例で不明だった点をクリティックして次回に問題提議する	症例の情報提供
13	周手術期の看護 生殖器系	症例検討（生殖器）	症例をまとめておく。 症例で不明だった点をクリティックして次回に問題提議する	症例の情報提供
14	周手術期の看護 腎・生体防御	症例検討（腎・生体防御）	症例をまとめておく。 症例で不明だった点をクリティックして次回に問題提議する	症例の情報提供
15	チーム医療の実践	実践上の課題と対応	話題提供 チーム医療の課題解決につなげる	
16	試験			
教科書・参考文献など				
特に指定しない				
最終到達目標			評価方法	
救急医療における患者、特に心血管系、及び消化器系のフィジカルアセスメントの課題を、臨床志向型の問題解決に取り組むために、必要なクリティカルケアに関する最新の知識と技術を修得できる。フィジカルアセスメント技術、及び臨床推論の基本的手法と思考が修得できる。救命救急場面における倫理的課題を探究し、研究と実践との有機的な相互作用の展開ができる看護判断ができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMD0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD06				教育・実践力	○
授業科目名	成人看護学特別演習 M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2		連携力	○
担当教員	本田和男				提言力	
授業の目的						
本研究は、救急医療における患者、特に心血管系、及び消化器系などのフィジカルアセスメントと中心として、的確な臨床推論を目指したアセスメント能力を発展させることを目的とする。またケアプログラム、及びケア技術の開発など、臨床志向型研究に取り組むために必要な、クリティカルケア領域に関する最新の知識と修得する。さらに、救命救急場面における倫理的課題を探究し、研究と実践との有機的な相互作用の展開により、より適切な判断能力を発揮できる看護について探究する。						
授業の概要						
救命救急の場面、特に心血管系、および消化器系症状を呈する患者の場面を通して、フィジカルアセスメントに関連する知識と技術と、的確な臨床推論のためのアセスメント技術と判断力をより高める。そのために臨床推論を行うための方法論とフィジカルアセスメント技術と、総合的判断能力開発について詳述する。特に看護者が行う正確なフィジカルアセスメント技術は、緊急度・重要度の高い技術であること踏まえ、手技の修得と合わせて、成長発達過程と健康レベルに応じた緊急の重症度評価に必要な知識について論述する。また、救急場面に応じた適切な対応について、論じるとともに、臨床における倫理的課題について、症例及び先行研究の講読により、評価・判断に必要な知識を修得する。 (オフィスアワー：火曜日 11:00-12:20)						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	科目ガイダンス	授業の進め方 クリティカルケアのアセスメントの基本技術と理論との照合		シラバスを確認しておく。 疑問点を書き出しておく。 疑問点を見直し知識を深める	適宜必要な資料は提示する	
2	免疫機能低下の患者のアセスメントと看護	症例検討 免疫機能低下		症例をまとめておく。 症例で不明だった点をクリティークして次回に問題提議する	症例の情報提供	
3						
4						
5						
6	呼吸不全の患者のアセスメントと看護	症例検討 呼吸不全		症例をまとめておく。 症例で不明だった点をクリティークして次回に問題提議する	症例の情報提供	
7						
8						
9						
10	循環不全の患者のアセスメント	症例検討 循環不全		症例をまとめておく。 症例で不明だった点をクリティークして次回に問題提議する	症例の情報提供	
11						
12						
13						
14	消化器系疾患の患者のアセスメントと看護	症例検討 消化器系疾患		症例をまとめておく。 症例で不明だった点をクリティークして次回に問題提議する	症例の情報提供	
15						
16						
17						
18	生殖器系疾患にある患者・家族のアセスメントと看護	症例検討 周手術期		症例をまとめておく。 症例で不明だった点をクリティークして次回に問題提議する	症例の情報提供	
19						
20						
21						

22	中枢神経系障がいにある患者・家族のアセスメントと看護	症例検討 中枢神経系	症例をまとめておく。 症例で不明だった点をクリティックして次回に問題提議する	症例の情報提供
23				
24				
25				
26	クリティカルケアにおける倫理課題と実践	症例検討 クリティカル期における倫理的判断と意思決定支援	症例をまとめておく。 症例で不明だった点をクリティックして問題提議する	症例の情報提供
27				
28				
29				
30				
31	試験			
教科書・参考文献など				
特に指定しない。				
最終到達目標			評価方法	
心血管系、及び消化器系などのフィジカルアセスメントと中心として、的確な臨床推論を目指したアセスメント能力を発展させる。救命救急場面における倫理的課題を探究し、研究と実践との有機的な相互作用の展開により、より適切な判断能力を発揮する。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMD0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD07				教育・実践力	○
授業科目名	発達看護学特別研究IM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
学年/学期	1年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	高田律美				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、ライフステージ各期における発達看護領域の健康課題に対して、子どもと家族の最善の利益とリプロダクティブヘルス・ライツに関する臨床と研究の循環型研究に取り組む科目である。この科目では、研究計画書の完成と、倫理審査の申請を目標とする。研究過程は、研究課題の把握、研究テーマの設定、国内外の関連文献の探求、研究目的と研究デザインの決定、倫理的配慮、データ収集、データ分析の方法を明確化し、修士論文計画書を作成し、中間発表を行う。各担当教員の指導可能な研究テーマは以下のとおりである。</p>						
授業の概要						
<p>本科目は、各自の研究テーマについては院生の関心あるテーマを探求するが、担当教員の研究テーマを参考にしてテーマを探求してもよい。それらは以下の通りである。1.思春期前期からのプレコンセプションケアの研究、2.睡眠研究及び乳幼児突然死に関連する研究、3.リプロダクティブヘルス・ライツに関する研究、4.出産直後の子育て（母乳育児等）の子どもの成長要因に及ぼす影響、5.子育て期にある夫婦の社会関係に関連するコンストラクト要因の研究、6.母子を一体とした領域・時系列横断的な研究、途上国の母子調査研究</p> <p>本科目の展開は1年次の10月に研究計画書発表後、12月に研究計画書完成し、2月の倫理審査委員会へ提出審査を受けることを念頭に進めていく。授業はゼミ式でディスカッションを行う。 （オフィスアワー：火曜日 13:20-14:50）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。研究課題の検討	科目の進め方についてオリエンテーションを実施。関心あるテーマについてグループディスカッションを行う。	事前にシラバスを読み、年間スケジュールを把握する。 事後には関心あるテーマについて授業中にレポート課題を指示すので文章化する。	大学院要覧 適宜提示		
2	研究課題の明確化：文献検討	各自の持参した論文とレポート課題を発表し、グループディスカッションしつつ研究課題を明確化する。	事前に第1回目の事後レポートを参考にキーワードに沿って文献検索し、授業中に提示できるようにする。事後は文献を検討し研究課題を明確化しレポートする。	適宜提示		
3	研究テーマと研究枠組みの決定：文献検討	研究課題に関連した国内外の文献をレビューしてグループディスカッションしつつ研究テーマを決定する。	事前に研究課題に関連した文献を検索し、文献一覧にするとともにその内容をクリテックしておく。事後は研究テーマを明確化しレポートする。	適宜提示		
4	研究枠組み等の発表	②-⑥の授業を参考に各自のテーマ、リサーチクエッション、研究枠組みを文献の挿入されたレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	事前に各自のテーマ、リサーチクエッション、研究枠組みを文献の挿入されたレジメを準備する。事後は研究計画書の内容を確認して発表の内容を記載しておく。			
5、6	研究計画書の作成	研究計画書の発表とループディスカッションし修正箇所を検討する。	事前に文献をさらに検索し一覧表にして研究計画書を作成および修正しプレゼンテーションの準備をする。事後は授業での検討内容について計画書を修正する。	適宜提示		
7	調査対象の選択・調査現場の連絡調整等の準備	研究計画に従い、調査対象を確定し、依頼文を検討し、具体的に連絡しておく。	事前・事後に調査対象や調査内容を検討し、依頼文を作成する。	適宜提示		

8	研究計画書の修正	研究計画書の発表とループディスプレイを修正箇所を検討する。	事前に文献をさらに検索し一覧表にして研究計画書を作成および修正しプレゼンテーションの準備をする。事後は授業での検討内容について計画書を修正する。	適宜提示
9	研究計画書発表会の準備	発表会に向けての準備をする	発表会に向けてのパワーポイントとレジメの作成、発表の練習	適宜提示
10	研究計画書発表会	研究計画書の発表	事前に指摘される点について検討しておく。事後は指摘された点のまとめをしておく。	
11	研究計画書の完成	発表会で指摘を受けた内容について再検討し、研究計画書を完成させる。	事前には指摘された内容について検討修正し授業に臨む。	適宜提示
12、13	倫理申請書の作成提出	倫理委員会の書類について検討し、完成後に提出する。	事前に倫理委員会の書類を作成し、授業で検討できる準備をする。事後に授業での検討に沿って修正する。	適宜提示
14	研究計画書の修正	倫理委員会の審査決定後に必要な書類や研究計画書の修正をする。	倫理委員会の決定に沿って事前・事後に書類や研究計画書の修正をする。	適宜提示
15	調査対象や確定、調査依頼の準備	研究計画に従い、調査対象を確定し、調査の依頼文の修正等書類を完成させ、連絡をする。	事前・事後に調査対象や調査内容を検討し、依頼文等の書類を作成する。	適宜提示
教科書・参考文献など				
適宜提示する。				
最終到達目標			評価方法	
1. 文献検討及び研究テーマの決定、研究方法論の決定ができる。 2. 研究計画書を作成し、研究発表会に臨める。 3. 研究計画書を修正し、完成できる。 4. 倫理審査委員会に申請書を提出でき審査を通ることができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMD0702			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD07				教育・実践力	○
授業科目名	発達看護学特別研究 IM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	三並めぐる				提言力	○
授業の目的						
本研究は、ライフステージ各期における発達看護領域の健康課題に対して、子どもと家族の最善の利益とリプロダクティブヘルス・ライツに関する臨床と研究の循環型研究に取り組む科目である。この科目では、研究計画書の完成と、倫理審査の申請を目標とする。研究程は、研究課題の把握、研究テーマの設定、国内外の関連文献の探求、研究目的と研究デザインの決定、倫理的配慮、データ収集、データ分析の方法を明確化し、修士論文計画書を作成し、中間発表を行う。各担当教員の指導可能な研究テーマは以下のとおりである。						
授業の概要						
<p>本科目は、研究テーマは学生自身の個別テーマであるが、子どもと家族に関する研究を担当する。1. 小児の成長発達支援、2. 生活習慣病と健康教育、3. タバコフリー（一次・二次・三次喫煙防止）と家庭内無煙のための家族支援、4. 養護教諭・保健室・学校保健のレリバンス、5. 養護教諭の危機管理能力を高める実践研修プログラム、6. 救急処置力（災害時も含む）等である。</p> <p>自研究テーマに関する先行研究の課題を整理し、研究テーマに関する課題の明確化、研究課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い、倫理審査を受ける。これらの研究プロセスと論理的思考、適切な研究方法を理解・選択し、質の高いデータ収集と分析につなぐ。</p> <p>（オフィスアワー：水曜日 15：00-16：30）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目刈エーション 文献のクリティークを行い、研究課題を明確化させる。	今後の授業スケジュールを組み立てる自研究に関連する文献の検索を行い、文献レビュー・クリティークレーディングによる自研究課題の周辺の様々な知見を整理・分析し、研究課題を絞る。 自研究課題等の研究手法を検討する。	先行研究を検索し、自己の研究課題の周辺テーマについて情報を集める。文献をクリティークし、課題の周辺の研究に整理・分析を行う。研究課題を明確化していく。研究手法を理解する。	関連文献は自身で検索 ①黒田裕子著：看護研究 step by step 第6版、医学書院 ②牧本清子・山川みやえ編著：よくわかる看護研究論文のクリティーク第2版		
2						
3						
4						
5						
6	研究目的を明確にし、研究計画書を作成する。	文献を分析し、課題を論理的に説明する研究の概念化を行う。研究の意義と価値を問い直す。研究の目的と目標を設定し、それに合う研究方法を選択する。 量的研究の場合は仮説を立てる。質的研究の場合はインタビューガイドを作成する。	研究計画書を記載していく。研究の価値を明文化し、研究を設計し、目的に沿った研究方法を選択しているかを確認する。	先行研究論文は自身で検索 研究計画書と倫理申請書		
7						
8						
9						
10	1年次10月に研究論文の中間発表として、研究計画発表を行う。	研究計画を立て、中間発表の資料を作成する。発表によって矛盾や疑問点を解決して研究計画書を精選、完成させる。	計画書の文章を何度も読み返し、完成度を高める。発表準備を行う。発表後に質疑応答の内容を加味して計画書を修正する。	先行研究論文は自身で検索 研究計画書		
11						
12						
13	1年次以内に研究倫理申請を行う。	倫理審査申請書を作成し、各書類を整えて、申請する。	倫理審査申請書の様式を事前に取り寄せる。倫理審査の結果を受けて修正する。			
14						
15	研究調査実施順位をする。	倫理審査で指摘部分を改善する。承認が下りたら、調査を開始する	倫理審査と計画書を読みかえし、指摘があれば改善し、データ収取のための予定を立てる。	調査関連書類、倫理申請書類 研究計画書		

教科書・参考文献など	
1. 黒田裕子著：看護研究 step by step 第6版、医学書院、2,970円（2023） 2. 牧本清子・山川みやえ編著：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版、日本看護協会出版会、3,520円（2020） 3. 坂下玲子、宮芝智子、小野博史編著：系統看護学講座別冊 看護研究第2版、医学書院2,750円（2023）	
最終到達目標	評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・文献検討および課題の分析から研究テーマを決定できる。 ・研究計画書を作成し、研究計画発表を行うことができる。 ・自己の研究課題解決に向けた独創的な研究計画書が完成できる。 ・倫理審査申請書を提出できる。 	課題達成度を以下の方法で評価する 研究計画書(50%)・倫理審査(30%)・ 中間発表などプレゼンテーション (20%)・
履修判定指標・評価基準	
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)	

授業コード	EMD0703			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目（発達看護学領域）EMD07				教育・実践力	○
授業科目名	発達看護学特別研究 I	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	羽藤典子				提言力	○
授業の目的						
<p>本研究は、ライフステージ各期における発達看護領域の健康課題に対して、子どもと家族の最善の利益とリプロダクティブヘルス・ライツに関する臨床と研究の循環型研究に取り組む科目である。この科目では、研究計画書の完成と、倫理審査の申請を目標とする。研究計画書は国内外の先行研究レビューから自己の研究課題を絞り、研究の目的を明確にする。研究目的に合った研究デザインと研究方法を選択し、倫理的配慮、データ収集、データ分析の方法を明確化し、修士論文計画書を作成し、中間発表を行う。</p>						
授業の概要						
<p>研究テーマは学生自身の個別テーマであるが、担当教員の指導可能な研究テーマは以下のとおりである。</p> <p>1. 医療処置を受ける子どものプレパレーションの研究、2. ディストラクションに関する研究 3. 子供虐待の低減に向けた取り組みに関する研究、4. 医療的ケア児とその家族の支援、5. 思春期女性の冷え症と自律神経調節障害との関連</p> <p>本科目は、1年次の4月に研究指導教員決定後、文献検討から課題の分析、研究テーマの決定、研究計画書の作成、その後、10月に研究計画発表、12月に研究計画書作成を完了し、2月の倫理審査委員会への申請書を提出し、審査を受ける。この一連の流れを行う。 (オフィスアワー：火曜日 12：00～13：00)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	オリエンテーション	1年間のスケジュールの概要説明とスケジュール立案	事前：勤務の状況等を踏まえた自身の年間の研究スケジュールを立てる。 事後：関心のある研究テーマを次回までに文章化する。	大学院要覧 関連文献		
2	文献検討 研究課題の検討	自身の研究テーマに関する文献検索を行い、研究の課題を検討する。	事前：関心のあるテーマに関する文献検索の実施 事後：文献検討を繰り返し、研究課題の分析を行う。	関連文献		
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10	研究テーマの決定	文献検討および課題の分析、批判的検討を行い、研究のテーマを決定する。	事前：文献検討から導かれた課題についてまとめておく。発表できるよう準備する。	関連文献		
11						
12	研究計画書の作成	自身の研究テーマに沿った研究デザイン、具体的方法を検討し、研究計画書を作成する。	事前：これまでの文献検討などからも研究デザインのヒントを得るよう熟読し、研究で財および方法の確立、事項に沿った計画書を丁寧に作成する。	関連文献		
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						

21	研究計画書の発表準備	10月の研究計画発表に向けて準備を行う。	事前：研究計画書の完成と発表準備	
22			事後：研究計画発表に向けてのプレゼンの練習	
23	研究計画発表	研究計画発表を行う。	事前：発表後の質問に対する対策を立てておく。 事後：発表会でアドバイス、指摘を受けた点について加筆・修正を行う。	
24	研究計画書の完成	研究計画発表で指摘を受けた内容について修正・改善を行い、研究計画書を完成させる。	事前：発表会でアドバイス、指摘を受けた点について加筆・修正を行う。	関連文献
25				
26	研究倫理審査委員会への申請書作成	2月の研究倫理審査委員会への申請に向けて、倫理申請書を作成する。	事前：提出書類を確認し、不足なく申請書を作成する。	関連文献
27			事後：申請書を提出する前に指導教員に確認を取る。	
28				
29				
30	研究倫理審査委員会への申請書提出	倫理審査委員会に申請を行い、審査を受ける。	事前：倫理審査委員会に申請書を提出する。 事後：審査の結果によっては、指摘箇所の修正や追記を行い、承認を得る。	関連文献
教科書・参考文献など				
最終到達目標			評価方法	
1. 文献検討および課題の分析から研究テーマを決定することができる。 2. 研究計画書を作成・完成させることができる。 3. 研究計画発表を行うことができる。 4. 研究倫理審査委員会に申請書を提出することができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMD0801			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD08				教育・実践力	○
授業科目名	発達看護学特別研究ⅡM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
学年/学期	2年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	高田律美				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、特別研究ⅡMの研究計画書に従って、学生に対する個別研究指導に取り組み、学位論文を完成させることを目的とする。ライフステージ各期における発達看護領域の健康課題に対して、子どもと家族の最善の利益とリプロダクティブヘルス・ライツに関して臨床と研究の循環型研究に取り組む科目である。この科目では、精度の高い研究データの収集、データの入力と分析、結果、考察し、論文を完成する。さらに自己の研究結果を発表し、他領域の指導教員との討議により、自己の論旨の精度、論文の完成度を高める。修士論文を完成させることにより、看護実践リーダー、管理者、教育者としての高度専門職業人としての能力を養う。</p>						
授業の概要						
<p>本科目は、各自の研究テーマについては院生の関心あるテーマを探求するが、担当教員の研究テーマを参考にしてテーマを探求してもよい。それらは以下の通りである。1.思春期前期からのプレコンセプションケアの研究、2.睡眠研究及び乳幼児突然死に関連する研究、3.リプロダクティブヘルス・ライツに関する研究、4.出産直後の子育て（母乳育児等）の子どもの成長要因に及ぼす影響、5.子育て期にある夫婦の社会関係に関連するコンストラクト要因の研究、6.母子を一体とした領域・時系列横断的な研究、途上国の母子調査研究</p> <p>本科目の展開は2年次の9月に修士論文作成、10月に修士論文中間発表会、1月に修士論文提出、2月修士論文最終発表会、その後修士論文の最終提出をすることを念頭に進めていく。授業はゼミ式でディスカッションを行う。 （オフィスアワー：火曜日 13:20-14:50）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。調査項目と調査方法を検討	科目の進め方についてオリエンテーションを実施。研究計画書に沿って調査項目と調査方法を検討する。	事前に研究計画所に沿って、今後のスケジュールを立案する。事後には関心あるテーマについて授業に調査票の内容を検討し、次回の提出に備える。	大学院要覧 適宜提示		
2	調査対象者への依頼文の決定、同意書の決定、調査依頼。	調査対象者への依頼文の決定、同意書の決定、調査票、インタビューガイドを作成する。調査依頼をする。インタビューや調査票配布についてあらかじめのシュミレーションを行う。調査を依頼する。	事前に調査対象者への依頼文、同意書を作成する。調査票やインタビューガイドの準備をする。事後にはインタビューや調査票配布についてあらかじめのシュミレーションを行う。調査対象者についての情報を整理する。データ入力の準備をする。	適宜提示		
3	調査依頼・データ収集	調査対象者にインタビューや調査票配布をおこなう。必要時追加の依頼を実施する。	事前に調査についての進め方や関連施設の人との打ち合わせをし、検討事項、回収時期や方法を確認する。事後は調査票やインタビュー内容を整理しデータ入力を行う。研究課題に関連した文献を検索し、文献一覧にするとともにその内容をクリテックしておく。事後は研究テーマを明確化しレポートする。	適宜提示		
4	データ収集とデータ分析	必要時追加のデータ収集を行う。データの分析を行う。分析結果についてディスカッションを行う。	事前にデータ入力と分析方法を確認し、分析に必要なソフトや枠組みを準備する。事後はデータ分析の適切な処理を確認する。	適宜提示		
5	データ分析と結果の図表化	分析の結果を計画書に従って図表化したものを検討する。考察の方向性についてディスカッションを行	事前に検討した分析結果を図表化しておく。結果を考察できる文献を検索しておく。事後は図表の文	適宜提示		

		う。	献を修正し、考察を展開できるような文献を検索し、結果と考察の方向性を決定する。	
6	研究論文の作成	研究の成果を論文として執筆した内容を提示し、ディスカッションを行う。	事前に研究成果を論文として執筆し、迷っている点などを明確化する。事後はディスカッションした結果を研究論文に反映させ修正する。	適宜提示
7	研究論文の中間発表の準備	研究論文を中間授業中に発表のシュミレーションを行い意見交換する。	事前に研究論文を中間発表できるように、パワーポイントとレジメを作成し、発表練習する。事後は授業での検討内容についてパワーポイントやレジメを修正し、再度発表練習をする。	適宜提示
8	研究論文の中間発表	発表会で研究成果を発表し、質疑応答に解答する。	事前に発表会資料の確認をし、発表の練習をする。事後に発表会で指摘された意見を整理して論文についての課題を明確化する。	
9、10	研究論文の作成	発表会での意見で明確化された課題をもとに修正された論文についてディスカッションを行う。最終の研究発表の準備の進捗状況を発表する。	事前に発表会で指摘された意見をもとに明確化された点を反映させ論文を修正する。必要時文献の追加修正も行う。事後は授業中に得られた知見をもとに論文を修正し、	適宜提示
11、12	研究論文の最終発表会の準備	発表会で指摘を受けた内容について再検討し、再度発表のシュミレーションを実施する。	事前に論文の最終発表会で指摘が予想される点について回答できるよう準備を行う。パワーポイントとレジメの修正を行う。事後は最終発表会までに授業での意見を参考に発表会の資料を修正し発表の準備を行う。	適宜提示
13	研究論文の審査の提出	審査の書類について検討し、完成後に提出する。	事前に審査関連の書類を作成し、授業で検討できる準備をする。事後に授業での検討に沿って修正する。	適宜提示
14	研究論文の審査修正	研究論文の最終発表の審査で受けた指摘をもとに論文修正を行う。	事前に審査で指摘を受けた点について論文の修正を行う。事後は授業で受けた意見をもとに論文を見直す。	適宜提示
15	研究論文の修正・最終提出	審査で指摘を受けた箇所の修正を修正し、論文を提出する。特別研究についての評価を行う。	事前審査で指摘を受けた箇所の修正を修正する。事後に論文を様式も含め最終確認し提出する。	適宜提示
教科書・参考文献など				
適宜提示する。				
最終到達目標			評価方法	
1. 専門領域において意義のある研究課題を設定できる。 2. 研修課題に関する文献を論文に反映できる。 3. 研究課題に適した研究方法を実施できる。 4. オリジナリティのある論文が完成できる。 5. 教育研究者・実践者としての倫理観や倫理的態度を身につけることができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)				

B(79～70点) : 到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E : 試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F : 出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EMD0802			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD08				教育・実践力	○
授業科目名	発達看護学特別研究ⅡM	選択・必修	必修		倫理調整力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	三並めぐる				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、発達看護学領域における臨床と研究の循環型研究に取り組む科目である。この科目では、研究計画書作成・倫理審査承認後に、精度の高い研究データの収集、正確で妥当性のあるデータの入力と分析、クリアな結果を導き出し、得られた結果を考察するプロセスを修得する。</p>						
授業の概要						
<p>研究プロセスは、データの収集・分析・結果・考察の段階を経て、論文として完成させる。自己の研究結果を発表（プレゼンテーション）し、研究プロセスと内容に対して質疑に回答し、公表するプロセスまでが含まれる。そのプロセスの中では、論文指導者以外からの論文審査が行われ、同時に研究指導を受けるため、他学問、他領域の教員の研究指導からも、自己の論旨の精度、論文の完成度を高める。</p> <p>（オフィスアワー：水曜日 15：00-16：30）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目リエンション	研究計画に沿って研究データの収集を行う。研究倫理原則に則り、丁寧なデータ、質の良いデータが収集できるための計画を綿密に行う。データを集計・分析し、結果を出す。先行研究などと比較検討し、結果を考察する。	研究倫理申請書に則り、各種の書類を準備する。調査を実施する。データを解析・分析する。修士論文を執筆する。	各種のデータ解析法関連の著書 考察のための文献等 大学院要覧 p37-44		
2	研究活動を推進し、調査を実施する。					
3						
4	データを収集・分析し結果を出す。					
5						
6	結果を考察する。					
7	修士論文を執筆する。	修士論文を形にする。				
8	2年次10月に中間発表としてデータ解析の結果と考察、結論までを発表する。	データを集計・分析し、結果、考察・結論までをまとめ、中間発表で発表する。中間発表の資料を作成し、研究をプレゼンテーションする。質疑に適切に回答する。	データ分析と結果を行き来し、結果を出す。結果を考察し、結論を導き、発表する準備をする。資料を作成し、発表時の質疑内容を加味し、論文に反映させる。	中間発表資料と発表媒体		
9						
10	修士学位論文を完成させる。	修士論文を作成する。	論旨に一貫性があるか確認し、矛盾する箇所は丁寧に見直し修正する。	修士論文原案		
11						
12						
13	3年次1月に学位論文審査書類を提出し、審査を受ける。	学位論文審査書類を提出する。学位論文審査は、原則、3名の審査者で行われる。審査者からの修正事項、追加事項を15分程度で説明し、1時間程度の質疑に回答する。修正が必要な場合は、指定された期日に提出し、再度審査を受ける。	学位論文審査書類を整え、期日までに提出する。審査時の質疑に答えられるよう、準備をする。審査結果を受け、修正が必要な場合は、指定の期日までに修正を行う。その際、質疑や指摘事項に対する修正について、対応表を作成する等、審査者に分かりやすいよう提示する。不合格となった場合は、次年度の提出に向けて論文内容を吟味し、追加・修正する。	必要な資料は配布 松山看護学研究科2023年度大学院要覧、p20-22		
14						
15	2月修士学位論文最終発表を行う（研究科の審査の一環）	最終発表の準備を行う。	最終発表の準備のため、資料と発表媒体を作成する。			

16	修士学位論文提出する。	修士学位論文他、必要な書類を提出する。 学位論文は冊子にし、指定された部数を提出できるように準備する。	松山看護学研究科 2023 年度大学院要覧、p20-22
教科書・参考文献など			
自研究に沿った各種データ分析のための書籍 考察のための論文作成に沿った先行研究 大学院要覧			
最終到達目標		評価方法	
1. 修士論文を執筆し、学位論文審査を受ける。 2. 各審査で質疑に対応できる。助言及び指摘について、論文を適切に修正して提出する。 3. 中間発表と最終発表で、自己の研究を報告でき、審査を終える。最終的には論文審査に合格する。		課題達成度を以下の方法で評価する 修士論文完成度(90%)・プレゼンテーション(10%)・	
履修判定指標・評価基準			
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)			

授業コード	EMD0803			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	研究力	○
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD08				教育実践力	○
授業科目名	発達看護学特別研究ⅡM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	羽藤典子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、特別研究ⅡMの研究計画書に従って、学生に対する個別研究指導に取り組み、学位論文を完成させることを目的とする。ライフステージ各期における発達看護領域の健康課題に対して、子どもと家族の最善の利益とリプロダクティブヘルス・ライツに関して臨床と研究の循環型研究に取り組む科目である。</p> <p>この科目では、研究計画書作成・倫理審査承認後に、精度が高く妥当性のあるデータの収集、データの入力と分析を行い、得られた結果を考察し論文を完成させるプロセスを習得する。更に自己の研究結果を発表（プレゼンテーション）し、研究プロセスと内容に対して質疑に回答し、公表するプロセス迄含まれる。そのプロセスの中では、論文指導者以外からの論文審査が行われ、同時に研究指導を受けるため、他学問、他領域の教員の研究指導からも、自己の論旨の精度、論文の完成度を高める。</p>						
授業の概要						
<p>主として小児看護学の研究を担当する。</p> <p>科目担当者の主な研究テーマは、1. 医療処置を受ける子どものプレパレーション、2. ディストラクションに関する研究、3. 子供虐待、4. 医療的ケア児とその家族の支援、5. 思春期女性の冷え症と自律神経調節障害との関連等、である。</p> <p>授業の展開は、研究計画から実践現場や関連する文献から十分情報収集し、調査を実施する。そのうえで、データを分析、研究活動の成果を論文にまとめる。修士論文発表会で成果を紹介し、論文審査を受け、指摘箇所を修正する。この授業は、ゼミ方式で討論を行う。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 12：30-13：30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション 調査方法と調査項目の検討・調査票の作成	科目の進め方を説明する。 自身の研究計画に従って、調査方法及び調査項目を検討する。研究テーマと上記内容が合致した内容であるか、熟考し、調査票を作成する。	事前学修：自身の研究が計画的に進められるように、具体的スケジュールを立案する。 事後学修：授業後は、調査票の内容を検討し、次回の講義に備える。	大学院要覧 適宜提示する。		
2	調査対象者への依頼文の作成・同意書の作成	調査対象者への調査票・インタビューガイド、同意書を作成する。また、研究の流れをイメージしながらシミュレーションを行う。依頼文（施設・研究対象者）を作成する。	事前学修：調査対象者への依頼文書・同意書の作成に当たり、案を作成すると共に、スケジュール案も作成する。 事後学修：実施に当たり、内容やスケジュールが適切か、熟考する。	適宜提示する。		
3	調査対象者への依頼文の作成・同意書の作成	調査対象者への調査票・インタビューガイド、同意書を作成する。また、研究の流れをイメージしながらシミュレーションを行う。依頼文（施設・研究対象者）を作成する。	事前学修：調査対象者への依頼文書・同意書の作成に当たり、案を作成すると共に、スケジュール案も作成する。 事後学修：実施に当たり、内容やスケジュールが適切か、熟考する。	適宜提示する。		
4	調査の依頼・データ収集	実際に調査対象に依頼し、データを収集する。	事前学修：調査対象を事前に情報収集し、調査方法や進め方について、依頼先担当者と入念に調整しておく。回収・実験の時期や方法などについても協働での作業ができるように打ち合わせておく。 事後学修：調査票（内容）を収集後は、直ぐにデータを入力できる	適宜提示する。		

			ように、準備しておく。	
5	調査の依頼・データ収集	実際に調査対象に依頼し、データを収集する。	事前学修：調査対象を事前に情報収集し、調査方法や進め方について、依頼先担当者と入念に調整しておく。回収・実験の時期や方法などについても協働での作業ができるように打ち合わせておく。 事後学修：調査票（内容）を収集後は、直ぐにデータを入力できるように、準備しておく。	適宜提示する。
6	調査の依頼・データ収集	実際に調査対象に依頼し、データを収集する。	事前学修：調査対象を事前に情報収集し、調査方法や進め方について、依頼先担当者と入念に調整しておく。回収・実験の時期や方法などについても協働での作業ができるように打ち合わせておく。 事後学修：調査票（内容）を収集後は、直ぐにデータを入力できるように、準備しておく。	適宜提示する。
7	調査の依頼・データ収集	実際に調査対象に依頼し、データを収集する。	事前学修：調査対象を事前に情報収集し、調査方法や進め方について、依頼先担当者と入念に調整しておく。回収・実験の時期や方法などについても協働での作業ができるように打ち合わせておく。 事後学修：調査票（内容）を収集後は、直ぐにデータを入力できるように、準備しておく。	適宜提示する。
8	調査の依頼・データ収集	実際に調査対象に依頼し、データを収集する。	事前学修：調査対象を事前に情報収集し、調査方法や進め方について、依頼先担当者と入念に調整しておく。回収・実験の時期や方法などについても協働での作業ができるように打ち合わせておく。 事後学修：調査票（内容）を収集後は、直ぐにデータを入力できるように、準備しておく。	適宜提示する。
9	調査の依頼・データ収集	実際に調査対象に依頼し、データを収集する。	事前学修：調査対象を事前に情報収集し、調査方法や進め方について、依頼先担当者と入念に調整しておく。回収・実験の時期や方法などについても協働での作業ができるように打ち合わせておく。 事後学修：調査票（内容）を収集後は、直ぐにデータを入力できるように、準備しておく。	適宜提示する。
10	調査の依頼・データ収集	実際に調査対象に依頼し、データを収集する。	事前学修：調査対象を事前に情報収集し、調査方法や進め方について、依頼先担当者と入念に調整しておく。回収・実験の時期や方法などについても協働での作業ができるように打ち合わせておく。 事後学修：調査票（内容）を収集後は、直ぐにデータを入力できるように、準備しておく。	適宜提示する。

11	調査の依頼・データ収集	実際に調査対象に依頼し、データを収集する。	事前学修：調査対象を事前に情報収集し、調査方法や進め方について、依頼先担当者と入念に調整しておく。回収・実験の時期や方法などについても協働での作業ができるように打ち合わせておく。 事後学修：調査票（内容）を収集後は、直ぐにデータを入力できるように、準備しておく。	適宜提示する。
12	データ入力・分析	データを間違いなく入力し、得られたデータの分析を行う。ある程度予測していた分析方法を駆使し、様々な視点で分析を進める。	事前学修：データを入力し、間違いなく入力されているか、どのように扱うのか検討、分析する。 事後学修：データや分析内容について、塾考し、他の院生や教員との検討資料として分析結果を準備する。	適宜提示する。
13	データ分析・検討	研究者間で得られたデータの分析・検討を行う。	事前学修：資料化したデータを学生や教員と検討できるように、準備する。事後学修：授業後は、検討した内容を修正、更に熟考する。その内容を文章化しておく。	適宜提示する。
14	データ分析・検討	研究者間で得られたデータの分析・検討を行う。	事前学修：資料化したデータを学生や教員と検討できるように、準備する。事後学修：授業後は、検討した内容を修正、更に熟考する。その内容を文章化しておく。	適宜提示する。
15	データ分析・検討	研究者間で得られたデータの分析・検討を行う。	事前学修：資料化したデータを学生や教員と検討できるように、準備する。事後学修：授業後は、検討した内容を修正、更に熟考する。その内容を文章化しておく。	適宜提示する。
16	データ分析・検討	研究者間で得られたデータの分析・検討を行う。	事前学修：資料化したデータを学生や教員と検討できるように、準備する。事後学修：授業後は、検討した内容を修正、更に熟考する。その内容を文章化しておく。	適宜提示する。
17	データ分析・検討	研究者間で得られたデータの分析・検討を行う。	事前学修：資料化したデータを学生や教員と検討できるように、準備する。事後学修：授業後は、検討した内容を修正、更に熟考する。その内容を文章化しておく。	適宜提示する。
18	データ分析・検討	研究者間で得られたデータの分析・検討を行う。	事前学修：資料化したデータを学生や教員と検討できるように、準備する。事後学修：授業後は、検討した内容を修正、更に熟考する。その内容を文章化しておく。	適宜提示する。
19	データ分析・検討	研究者間で得られたデータの分析・検討を行う。	事前学修：資料化したデータを学生や教員と検討できるように、準備する。事後学修：授業後は、検討した内容を修正、更に熟考する。その内容を文章化しておく。	適宜提示する。
20	分析結果の図表化	研究計画に基づいて、分析の結果を表や図を用いて理解しやすく表現する。	事前学修：データ・分析結果を図評価しておく。 事後学修：分析結果が当初の研究目的の結果として反映されている	適宜提示する。

			か、だれが見ても分かりやすいものか十分検討する。	
21	分析結果の図表化	研究計画に基づいて、分析の結果を表や図を用いて理解しやすく表現する。	事前学修：データ・分析結果を図評価しておく。 事後学修：分析結果が当初の研究目的の結果として反映されているか、だれが見ても分かりやすいものか十分検討する。	適宜提示する。
22	研究論文の作成	研究活動の成果を論文にまとめる。	事前学修：研究活動の結果を論文にまとめることができるように、整理し、論文執筆の規定に則って作成していく。事後学修：論文への記載内容について、再度確認し、結果を論文に反映させていく。	適宜提示する。
23	研究論文の作成	研究活動の成果を論文にまとめる。	事前学修：研究活動の結果を論文にまとめることができるように、整理し、論文執筆の規定に則って作成していく。事後学修：論文への記載内容について、再度確認し、結果を論文に反映させていく。	適宜提示する。
24	研究論文の作成	研究活動の成果を論文にまとめる。	事前学修：研究活動の結果を論文にまとめることができるように、整理し、論文執筆の規定に則って作成していく。事後学修：論文への記載内容について、再度確認し、結果を論文に反映させていく。	適宜提示する。
25	研究論文の作成	研究成果を修士論文にまとめる。	事前学修：研究活動の結果を論文にまとめることができるように、整理し、論文執筆の規定に則って作成していく。事後学修：論文への記載内容について、再度確認し、結果を論文に反映させていく。	適宜提示する。
26	研究論文の中間発表の準備・発表	発表会で研究成果を発表し、質疑応答に回答するとともに、助言内容をさらに論文に反映させる。	事前：中間発表に向けてパワーポイントを作成し、発表練習をする。 事後：助言を受け、パワーポイントの修正、繰り返し自己練習をする。	適宜提示する。
27	研究論文の最終発表	修士論文発表会で成果を発表する。	事前学修：発表会で研究成果が十分発表できるように、準備しておく。 事後学修：発表後は、質問や指摘内容について記録・修正をし、論文に反映し提出に備える。	適宜提示する。
28	研究論文の審査	研究論文を完成させ、修士論文および審査書類w 期日までに教務課に提出する。 研究論文の審査を受ける	事前学修：審査を受けるにあたり、論文を見直し、書類に不備がない状態で提出する。 事後学修：論文審査後は、質問、指摘事項について検討する。	適宜提示する。
29	研究論文の審査・修正	研究論文の審査で指摘を受けた箇所を修正する。	事前学修：審査結果を見直し、指摘内容についての修正を行う。 事後学修：論文内容を見直す。	適宜提示する。
30	論文の修正・最終提出	審査で指摘を受けた箇所を修正し、提出する。	事前学修：修正部分を確認し、論文内容を見直す。 事後学修：様式一式と論文を提出する。	適宜提示する。

教科書・参考文献など	
適時、提示する。	
最終到達目標	評価方法
1) 研究課題に適した研究方法で正確な調査・実験を実施することができる。 2) データの入力ができ、適切な分析と解釈を行うことで信頼性・妥当性のある結果を導き出すことができる。 3) 得られた結果を論理的に考察し、オリジナリティのある論文を完成できる。 4) 研究結果を発表し、論文審査を受け、指摘箇所を修正し、研究論文を完成させることができる。	課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・
評価基準	
評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)	

授業コード	EME0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME01				教育・実践力	○
授業科目名	地域・在宅看護学特論 M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2		連携力	○
担当教員	田中正子 宮崎博子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、地域で暮らす人々への保健医療福祉、看護と介護の質を高め、健康維持と健康回復、安らかな死に繋がりが、高い QOL 維持のための看護の役割・機能についての知識を深めることを目的とする。全ての世代の健康生活に関連する法制度を概観し、超高齢多死社会の地域生活における課題と対策について多角的に論述する。さらに既存の文献から、国内外の各地域の健康関連の挑戦的な取り組みなどについて言及し、地域看護の方向性とその意義について論述する。</p>						
授業の概要						
<p>本科目担当教員、田中は臨床看護師・訪問看護ステーション31年間の実務経験を有し、宮崎は、県保健所保健師として35年間、発達障害等相談センターの相談員として7年間の実務経験を有する。この、実務経験と大学教員経験を基に、科目の授業を展開する。授業は、講義、討議、プレゼンテーション等で構成する。</p> <p>(1) 主として地域・在宅看護学分野の課題に関して、受講生の希望に合わせて取り上げる。</p> <p>(2) 主として、青年期・高齢者、障害者、公衆衛生看護、在宅看護の研究テーマを、自分の研究課題に合わせて取り上げる。</p> <p>(田中正子：オフィスアワー水曜日 昼休み時間 12:20～13:00)</p> <p>(宮崎博子：オフィスアワー月曜日 昼休み時間 12:20～13:00)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目ガイダンス (田中)	本科目の進め方と内容を確認する。地域で暮らし、療養する人々のQOLとは	シラバスを読んでおく。 一般的なQOLについて既存の資料を確認する。	適時、提示する。		
2	訪問看護・在宅看護制度の変遷 (田中)	訪問看護の歴史と諸外国との比較から、現在の課題を探究する。	諸外国の地域看護の実用を調べてまとめておく。他国の法制度を調べ日本の制度の特徴と弊害を考察	適時、提示する。		
3						
4	訪問看護・在宅看護の実態と課題 (田中)	COVID-19 対応下の課題を含めて、現在の実態と課題を経験知と文献から整理する。	先行文献や参考図書を調べておく。法制度の限界と提言を考える。	適時、提示する。		
5						
6	在学看護分野の研究の動向 (田中)	最新の在宅看護、地域看護、訪問看護の研究について把握する。	関連文献を調べておく。 自研究に活かす。	適時、提示する。		
7						
8	家族看護の課題及び研究動向 (田中)	家族看護の実態と課題を広く把握する。	家族看護の課題を把握する。研究的視点で介入方法を考察する。	適時、提示する。		
9	介護保険法 介護予防 (宮崎)	介護予防のための公衆衛生看護活動 講義と学生間の討議、発表で展開する。	事前学修は、該当のテキストの内容を熟読する。事後学修は、事例を用いたレポート課題を提示、提出を求める。	適時、提示する。		
10	保健所の機能 保健センターの機能 (宮崎)	地域集団の健康管理の実際と行政の役割と機能 講義と学生間の討議、発表で展開する。	事前学修は、該当のテキストを熟読する。厚生労働省や県や市町のホームページ、国民衛生の動向から、公衆衛生活動について理解する。事後学修は、行政機関の機能についてのレポートを課す。	適時、提示する。		
11	公衆衛生看護の機能 公衆衛生看護技	公衆衛生看護活動の役割と機能、方法と評価 講義と討議、発表で展開する。	事前学修は、該当のテキストの内容を熟読する。事後学修は、レポート課題を提示、提出を求める。	適時、提示する。		

	術 PDCA サイクル 評価 (宮崎)			
12	保健医療福祉関係機関 連携調整 (宮崎)	保健医療福祉関係機関における連携・協働 講義と討議、発表で展開する	事前学修は、該当のテキストの内容を熟読する。関係機関の連携や協働に関する文献を複数調べておくこと。事後学修は、レポート課題を提示、提出を求める。	適時、提示する。
13	障害者総合支援法、障害者の支援体制 (宮崎)	地域における支援体制づくり 特に障害者(精神障害者、難病、発達障害)に視点を当て、議論する。 事前に配布した、活動事例を用いた討議と発表で展開する。	事前学修は、該当のテキストの内容を熟読する。また、実践活動事例を事前に配布するので、その事例を通して支援体制の在り方について考察する。事後学修は、レポート課題を提示、提出を求める。	適時、提示する。
14	対象別健康課題 ①母子保健：児童虐待) ②精神保健 (宮崎)	各対象における健康課題と支援 講義と討議、発表で展開する。	事前学修は、該当のテキストの内容を熟読する。近年の対象別の健康課題についての文献を複数調べておくこと。事後学修は、レポート課題を提示、提出を求める。	適時、提示する。
15	健康危機管理 ①災害 ②感染症 (宮崎)	健康危機管理と保健活動 講義と討議、発表で展開する。	事前学修は、該当のテキストの内容を熟読する。近年の健康危機管理に関する文献を複数調べておくこと。事後学修は、レポート課題を提示、提出を求める。	適時、提示する。
16	試験			
教科書・参考文献など				
参考文献：公衆衛生看護学. j p 第5版データ更新版 インターメディカル 2022、公衆衛生が見えるメディックメディア 2022-2023 第5版、国民衛生の動向 厚生労働統計協会 2022/2023				
最終到達目標			評価方法	
1) 在宅看護・訪問看護に関連した課題が説明できる。 2) 近年の在宅看護関連の研究の動向が説明できる。 3) 公衆衛生看護活動における健康課題の発見、アセスメント、計画の立案と実施、評価の展開方法が理解できる。 4) 提示した活動事例から、①なぜその活動が必要であるのか。②なぜ、その活動が他の地域にまで影響を与えたのか。鍵となる事柄や実践者の視点や役割などについて、分析・説明できる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・	
履修判定指標・評価基準				
評価の基準は以下のとおりとする。 A(100~80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79~70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

+授業コード	EME0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME02				教育・実践力	○
授業科目名	地域・在宅看護学特別演習 M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	田中正子 宮崎博子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、地域・在宅看護学特論 M を踏まえて、実践と研究の両側面から、より深く実践の現象と理論とを往還させながら学習することを目的とする。幼児から高齢者までの地域生活者の生活支援と関連する法制度を概観し、医療保健福祉の課題と発展について、実践的に現象を理解しつつ、教育的視点と研究的視点で課題に対するサジェスションを得られるよう学習を進める。さらに、各地域で活用できる制度の中で、例えば認知症カフェなどにおける地域の社会資源の創出について言及する。得られた知見が自己の実践的課題解決と研究課題との明確化に繋がるよう学生の研究テーマに合わせて、選択的に論述する。</p>						
授業の概要						
<p>1回目から15回目までは、主として地域・在宅看護学分野でフィールド調査やアクションリサーチを行う。①基幹地域包括支援センターで、高齢者・障害者への虐待防止に向けた当事者と家族の関係調整や介入に関する実証研究から専門看護師等の人権擁護に果たす役割を考察する。②重度認知症デイケアで、重度認知症高齢者に生じやすい身体的リスクや家族関係への影響を把握し、当事者の意向や価値観を尊重した生活の継続を達成する調整課題とその解決に向けた専門職連携の在り方を考察する。③人生会議と在宅看取りや、パンデミックとSDGsなどをテーマとした看護学生のアクティブラーニングによるアクションリサーチを通して、現代日本や世界の保健福祉医療問題を考察する。</p> <p>16回目～30回目までは、主として青年期・高齢者、障害者、公衆衛生看護、在宅看護の研究テーマを、自身の研究課題に合わせて取り上げる。①地域における保健活動と介護予防、地域における世代間の繋がりなどのための地域活動に関する実践的介入の実証研究について概観する。②地域における共生社会の創出と地域生活者の人材発掘と育成の効果、③集団の健康管理上の課題、及び行政の役割と機能による戦略的介入、④保健活動の役割と機能、実践と評価の文献的・実践的考察を行う。また、⑤各種制度の課題と制度の対象外の人への支援、⑥健康危機と保健活動と看護活動の実際について論述する。</p> <p>(オフィスアワー：田中正子；水曜日 13：20-14：50 宮崎博子；月曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目ガイダンス (田中)	本科目の進め方を把握する。	シラバスを読んでおく。 自己の学修課題を明確にする。	適時、提示する。		
2	地域・在宅看護学分野でフィールド調査やアクションリサーチ (田中)	フィールドワークなどの計画を立て、フィールドワークにおける課題を設定する。	フィールドワーク先を選定し、教員に相談。 フィールドワークの目的目標などの設定を行う。	適時、提示する。		
3	基幹地域包括支援センター (田中)	高齢者・障害者への虐待防止に向けた当事者と家族の関係調整や介入に関する実証研究から専門看護師等の人権擁護に果たす役割を考察	フィールドワークの計画立案 経過報告	適時、提示する。		
4						
5						
6						
7	認知症関連施設など 学会での研究者間の 情報交換 (田中)	重度認知症デイケアで、重度認知症高齢者に生じやすい身体的リスクや家族関係への影響を把握し、当事者の意向や価値観を尊重した生活の継続を達成する調整課題とその解決に向けた専門職連携の在り方を考察	フィールドワークの計画立案 経過報告。 当事者の意向や価値観を尊重した生活の継続を達成する調整課題とその解決に向けた専門職連携の在り方を考察	適時、提示する。		
8						
9						
10						
11	訪問看護、地域包括支援センター	人生会議と在宅看取りや、パンデミックとSDGsなどをテーマとし	フィールドワークの計画立案 経過報告。	適時、提示する。		
12						

13	(田中)	た看護学生のアクティブラーニングによるアクションリサーチを通して、現代日本や世界の保健福祉医療問題を考察	先進的活動をしているフィールドなどを検索する。日本における在宅死の在り方に関する課題と支援の方向性を考察。	
14				
15	まとめ発表と課題整理 (田中)	自研究につながる課題へのサジェッションを発表し、ディスカッションする。	結果をまとめ資料を作成し、発表する。目的に合わせた内容で資料媒体も工夫する。まとめた内容をそれぞれフィールドワーク先に提出する。	適時、提示する。
16	研究課題に関連する文献の選定 (宮崎)	自己紹介。自身の研究テーマに関連する先駆的な実践的介入の実証研究を選定、概観する。科目担当教員も学生と討議、研究の知見を共有できるよう授業を展開する。	事前学修：文献の選定を行う。選定した文献をクリティークする。 事後学修：学生間、教員で討議したことの振り返りを行い、レポートしておく。	適時、提示する。
17	研究課題の討議 (宮崎)	前回授業に引き続き、研究課題に関連した討議を行い、知見を共有する。 研究テーマを決定する。	事前学修：前回授業での振り返りをもとに必要な文献を更に選定し、クリティークする。 事後学修：討議した内容をレポートする。	適時、提示する
18	実践活動事例の検索 (宮崎)	研究テーマに深く関連する実践活動の行われている地域活動の場について情報を得る。	事前学修：活動事例の検索 事後学修：域活動事例の情報収集	適時提示する
19	実践活動事例の情報収集 研究課題計画立案 (宮崎)	地域活動の実践に関して、直接情報を得るなどの介入を通して、自己の研究課題を焦点化するための計画を立案する。	事前学修：実践活動事例の情報を整理し、資料化しておく。 事後学修：研究課題計画立案	適時、提示する
20	現地での説明を受ける。 資料からの情報を収集 (宮崎)	実践の場に出向き、地域の健康課題の発見から計画、実践、評価までの展開に関する説明を受ける。一連の資料(地区診断資料・事業立案計画書・報告書・地域住民からの情報・研究など)の閲覧を行う。	事前学修：現地での情報収集の内容を明確化 事後学修：得た情報の整理と資料化を行う	適時、提示する
21	実践活動に参加。 住民の生の声を聴取 直接、観察する。(宮崎)	実践活動の場に、学生と教員が参加し、実践者との共同での活動を行う。直接、住民の声を聞き、観察を行うことにより、活動についてより深く理解する。	事前学修：現地での活動手順、実施要領を作成しておく。参加者と現地スタッフ用を印刷しておく。	適時、提示する
22	活動に参加 住民の声を聴取 直接、観察する。(宮崎)	活動の場に参加し、実践者との共同での活動を行う。直接住民の声を聞き、観察を行うことにより、活動についてより深く理解する。	事後学修：得た情報・観察した内容を整理し、資料化しておく。	
23	活動に参加後、討議 活動について考察・評価 (宮崎)	実践活動の場に参加後、実践者とその活動(事業)の展開の具体的な経緯と展開方法、評価などについての考察を行う。	事前学修：資料化した資料を印刷しておく。 事後学修：討議した内容や考察した内容を資料化する。	適時、提示する
24	研究課題と問題解決の明確化 (宮崎)	現地での活動で得られた情報と観察、インタビュー等から、自身の研究課題に視点を当て、考察する。学生間での討議を行い、研究課題と課題解決について明確化する。	事前学修：資料化し印刷し、討議用に持参する。 事後学修：討議した内容を記録整理し、研究課題と問題解決について明確化する。	適時、提示する
25	研究課題について 論述 (宮崎)	現地での活動で得られた情報と観察、インタビューなどから、自身の研究課題に視点を当て、論述する。	事前学修：研究課題と問題解決について、考察した内容を記述し、担当教員に説明する。	適時、提示する

26	研究課題について 論述（宮崎）	現地での活動で得られた情報と観察、インタビュー等から自身の研究課題に焦点を当て、論述する。	事後学修：論述を継続する。	
27	成果発表資料の作成（宮崎）	演習での成果をプレゼンテーションするために、資料（パワーポイント）を作成する。	事前学修：プレゼンテーションの内容を検討しておく。	適時、提示する
28	成果発表資料の作成（宮崎）	演習での成果をプレゼンテーションするために、資料（パワーポイント）を作成する。	事後学修：資料を作成する。	
29	成果発表、討議（宮崎）	研究課題を発表し、学生・教員による討議を行う。	事前学修：資料を印刷しておく。 事後学修：討議の結果を記録整理し、次回まとめに備える。	適時、提示する
30	演習のまとめ、評価（宮崎）	後半の特別演習のまとめと振り返りを行う。	事前学修：演習の振り返りをレポートしておく。 事後学修：レポートを課す	適時、提示する
31	試験			
教科書・参考文献など				
プリント資料を配布予定。				
最終到達目標			評価方法	
①地域・在宅看護の対象を理解し、法制度や社会資源を効果的に活用しながら健康課題の解決に向けた方策を提案できる。 ②研究の意義と研究成果の実践への応用について考察できる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 判定基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EME0301			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME03				教育・実践力	○
授業科目名	精神看護学特論M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2		連携力	○
担当教員	別宮直子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目の目的は、精神看護学に関連する理論や現象を学び、現代社会の抱える精神の健康問題に対し、自ら探究し、知識を深め精神看護学の技術の質向上を図る。具体的には、精神保健医療福祉を取り巻く社会情勢、精神分析理論や危機介入理論、集団精神力動、ストレングスモデル、セルフケア理論、治療的関係、対人関係論、医療施設や地域における精神看護の役割や課題、精神看護における倫理課題等を先行研究などから探究し、知識を深める。さらに、コロナ感染による PTSD やうつ、現代病ともいえるゲーム障害、国際的にも病床数の多さが指摘されている日本の精神科医療の抱える問題など、歴史や社会など複雑に絡み合った課題について心理的社会的側面を探究し、知識や課題分析力（アセスメント力）を養う。</p>						
授業の概要						
<p>具体的には、精神保健医療福祉を取り巻く社会情勢、精神分析理論 や危機介入理論、集団精神力動、ストレングスモデル、セルフケア理論、治療的関係、対人関係論、医療施設や地域における精神看護の役割や課題、精神看護における倫理課題等を先行研究などから探究し、知識を深める。15回 (オフィスアワー：水曜日 12：00-13：30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	精神保健・医療・福祉の歴史の変遷と法制度	精神保健・医療・福祉の歴史の変遷とそれに伴う法制度について概説する。	初回の授業では、講義を行う。その際、以後の授業について、各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	精神障害をもつ人の看護①②、メヂカルフレンド社		
2	精神の健康と不健康	精神の健康と不健康について、どのように捉えられているかを概説する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	標準精神医学【第8版】医学書院、		
3	精神看護における倫理的問題の特徴および傾向	精神看護における倫理的問題について、その特徴や傾向を理解する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	関連文献		
4	精神科医療の課題	現在、国際的にも日本の精神科医療の抱える課題は取り上げられている。それらの課題とその背景を理解する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	関連文献		
5	医療における精神看護の役割	医療機関における精神看護の役割を理解する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	関連文献		
6	地域における精神看護の役割	地域における精神看護の役割を理解する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	関連文献		
7	精神分析理論	フロイトの提唱した精神分析理論について理解する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	関連文献		
8	危機介入理論	現在提唱されている危機（介入）理論について理解する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	危機介入の理論と実際、川島書店		
9	セルフケア理論	オレム - アンダーウッドのセルフケア理論やケアシステム論を理解する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	オレム - アンダーウッドのセルフケア理論		
10	ストレングスモデル	現在、支援の視点とされるストレングスモデルについて理解する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	ストレングスモデル		
11	集団精神療法	集団精神療法について理解する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	グループサイコセラピー、西村書店		

12	対人関係論、治療的関係	対人関係論および治療的関係について理解する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	対人関係論
13	現在における精神問題と治療や看護	現在社会においてメンタルヘルスの問題となっている疾患（例えばゲーム障がいやギャンブル障がいなど）について、調べ、理解を深める。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	関連文献
14				
15				
教科書・参考文献など				
参考文献：標準精神医学【第8版】医学書院、カプラン臨床精神医学テキスト DSM-5 診断基準の臨床への展開、MEDSI、危機介入の理論と実際、川島書店、看護における危機理論、危機介入、金芳堂他				
最終到達目標			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・精神看護学に関連する代表的な理論を理解することができる。 ・現在の精神看護に至る背景や、抱える課題を理解し、その要因を考察することができる。 ・現在の社会情勢とメンタルヘルスの関連を探究することができる。 			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・	
履修判定基準・評価基準				
<p>評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p>(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>				

授業コード	EME0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME04				教育・実践力	○
授業科目名	精神看護学特別演習 M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	別宮直子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目の目的は、精神看護学特論 M の学修を踏まえ、精神の健康問題や精神看護学に関連するテーマを設定し、テーマに関する論文を複数精読し、各文献のクリティークを行う。同一のテーマに対し複数の文献を批判的に精読することで、研究目的から研究デザイン、研究方法等の研究計画の流れ、さらに研究目的・研究方法から結果および考察への科学的論理の一貫性への理解を深め、自身の研究課題に取り組む論理的思考力を培うことである。</p>						
授業の概要						
<p>本科目の授業は、上記の目的に記述したように、精神の健康問題に関連するテーマを設定し、テーマに関する論文を精読し、各文献のクリティークを行う。基本的にはこのクリティークを対象論文を変え、行うことで批判的視点、能力を培う。さらに自己の研究課題を明確にする必要がある場合には、必要時、病院施設や地域施設でのフィールドワーク等の実体験を取り入れ、自身の体験をまとめ、ディスカッションを行い、自己の研究課題に繋げる。具体的には、疾患と看護（診断基準、症状と特徴、治療と経過、経過に沿った看護）、自殺予防と自殺への看護、看護介入法（認知行動療法、心理教育、生活技能訓練、WRAP、SST、カウンセリングなど）、精神疾患をもつ対象者に対する地域包括ケアシステムの現状、地域包括ケアシステムにおける精神看護の役割、A C T、オー プンダイアログ、ハームリダクション等について、テーマを決定し、テーマに関する論文を複数精読し、各文献のクリティークを行う。しかし、基本的には受講学生の関心テーマが望ましい。</p> <p>（オフィスアワー：水曜日 12：00-13：30）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	クリティークとは	クリティークとは、クリティカルシンキングとはについて概説する	事前：使用図書を授業開始までに購入しておくこと。 事後：クリティークとは等を復習する。	よくわかる看護研究論文のクリティーク第2版、日本看護協会出版会		
2	文献クリティークの方法	研究テーマと研究枠組みから研究手法によるクリティークについて、使用図書を参考にまとめる。	事前：使用図書の該当箇所をまとめる。 事後：関心あるテーマに関する質的研究文献を入手する。			
3	文献クリティーク（質的研究）	質的研究における文献クリティークの視点をまとめ、関心あるテーマにおける質的研究文献のクリティークを行う。	事前：文献のクリティークをしておく。 事後：関心あるテーマに関する尺度開発研究文献を入手する。			
4						
5	文献クリティーク（尺度開発）	尺度開発における文献クリティークの視点をまとめ、関心あるテーマにおける尺度開発研究文献のクリティークを行う。	事前：文献のクリティークを行う。 事後：関心あるテーマに関する介入研究文献を入手する。			
6						
7	文献クリティーク（介入研究）	介入研究における文献クリティークの視点をまとめ、関心あるテーマにおける介入研究文献のクリティークを行う。	事前：文献のクリティークを行う。 事後：関心あるテーマに関するシステムティックレビューを入手する。			
8						
9	文献クリティーク（システムティックレビュー）	システムティックレビューにおける文献クリティークの視点をまとめ、関心のあるテーマにおけるシステムティックレビューのクリティークを行う。	事前：文献のクリティークを行う。 事後：関心あるテーマに関するケーススタディを入手する。			
10						

11	文献クリティーク (ケーススタディ)	ケーススタディにおける文献クリティークの視点をまとめ、関心のあるテーマにおけるケーススタディ文献のクリティークを行う。	事前: 文献のクリティークを行う。	
12			事後: 関心あるテーマに関する観察研究文献を入手する。	
13	文献クリティーク (観察研究)	観察研究における文献クリティークの視点をまとめ、関心のあるテーマにおける観察研究文献のクリティークを行う。	事前: 文献のクリティークを行う。	
14			事後: 各研究方法におけるクリティークの視点をおさえる。	
15	まとめ	これまでの授業内容をまとめ、クリティカルシンキング能力の向上を図る。	事前: 各研究方法におけるクリティークの視点をまとめる。	
教科書・参考文献など				
教科書: よくわかる看護研究論文のクリティーク第2版、日本看護協会出版会				
最終到達目標			評価方法	
(1) クリティークとは、クリティカルシンキングとは何かを理解できる。 (2) 実際に、入手した文献のクリティークを行うことができる。 (3) クリティークを行ったことで研究全体における科学的論理的一貫性を理解できる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・	
履修判定基準・評価基準				
<p>評価基準: 評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100~80点): 到達目標を達成している (Very Good)</p> <p>B(79~70点): 到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69~60点): 到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(60点未満): 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p>(E: 試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F: 出席不足で成績評価要件の未充足)</p>				

授業コード	EME0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME05				教育・実践力	○
授業科目名	高齢者看護学特論M	選択・必修	必修		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2		連携力	○
担当教員	讃井真理 赤松公子				提言力	
授業の目的						
<p>日本の超高齢多死社会における医療・看護、及びエンドオブライフケアの課題を明確化するための科目である。そのため諸外国の高齢者並びにエンドオブライフの各種制度とシステムからその特徴と課題を考察する。高齢者自身が生きてきた存在価値を認識でき、自己による意思決定が尊重されることを目標として、健康の自己コントロールを行うための理論と実践について、先行研究などから探究し、自己のアセスメント力、ケア実践能力、ケア評価、ケア管理、実践者・研究者としての管理の力と倫理的課題に対して対応できる能力を高める。</p>						
授業の概要						
<p>(讃井真理/7回) 諸外国の高齢者ケアとエンドオブライフケアに関連する制度と支援システムについて文献などを活用し、日本との相違点を明確にする。日本における高齢者看護の課題について既存の文献と、自経験から明確にする。また、高齢者看護に関連する看護理論を活用し、ケースレポートにまとめ、アセスメント、介入法、ケアシステム、他職種連携について課題解決に向けてプランニングする。</p> <p>(赤松公子/7回) 高齢者ケアの現状から高齢者への倫理的課題について考察し、意思決定、高齢者の尊厳を守る保健医療福祉のサービス提供者の問題解決への方策を検討する。高齢者ケアの各場におけるエンドオブライフケアの質を評価し、それぞれの課題について考察し、実践者・管理者としての課題を検討する。高齢者看護、エンドオブライフケアに関連する先行研究のレビューし、自己の課題をまとめる。</p> <p>(讃井真理・赤松公子/1回) エンドオブライフケアに関連した自己の臨床的課題、及び研究的課題についてまとめ、発表する。そのうえで問題提議し、互いのディスカッションによってケア実践能力、ケア評価、ケア管理、実践者・研究者としての管理力、及び高齢者看護の倫理的課題に対する課題解決への視点を深める。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目リエンション 老年期 (讃井)	本科目の進め方を確認する リサイクルからみた老年期	リサイクルからみた老年期の特徴を理解し、自臨床経験と照合しておく。意見交換後の振り返りで対象理解を深める。	参考文献 資料配布		
2	高齢者の心理と QOL (讃井)	高齢者の心理・QOL への理解を深める	老年期を生きる人の心理・QOL について調べてくる。知らなかった理論などを深く調べる。	小泉 隆：北歐のパブリックスペース：街のアクティビティを豊かにするデザイン、学芸出版社、2023。		
3	高齢者ケアと エンドオブライフ ケア (讃井)	高齢者ケア・エンドオブライフケアの諸外国の取り組み	高齢者ケア、あるいはエンドオブライフケアの諸外国の取り組みを調べて発表する。他国の取り組みも調べる。	コンパッション都市：公衆衛生と終末期ケアの融合、慶應義塾大学出版会、2022。		
4	高齢者ケアと エンドオブライフ ケア・看取り (讃井)	日本の高齢者研究・エンドオブライフケアの最新研究 高齢者の看取りケア	日本の高齢者研究、エンドオブライフケア研究等の最新の文献を調べておく。 自実践・研究課題との関連を省察	アラン・ケレハー：いのちをもらい、いのちをつくるホスピス：イタリアの終末介護のパイオニアたち、22世紀アート、2022。		
5	看護理論で アセスメント (讃井)	看護理論を使ったケースレポートの作成と発表・ディスカッション	各種理論を活用してケースレポートを作成しディスカッションする準備。	学自選定した文献		
6	家族 アセスメント (讃井)	家族看護に関連する理論を使ったケースレポートの作成と発表	家族看護アセスメントの理論で展開してみる。看護の考え方の振り返り			
7	他職種 連携の課題 (讃井)	他職種連携の課題と展望	他職種連携に関連する文献を取り寄せて、課題と課題解決について考えておく。ディスカッションの内容整理			
8	高齢者 ケアにおける 倫理的課題 (赤松)	高齢者ケアにおける倫理的課題について論文を抄読し議論			適時提示	

9	高齢者の意思決定 (赤松)	高齢者の意思決定に関する論文を抄読し議論	高齢者の意思決定に関する論文を用意する。	適時提示
10	保健医療福祉のサービスの課題 (赤松)	現在の高齢者に対する保健医療福祉サービスの課題と問題解決への方策について議論	議論したい関連論文を用意する。	適時提示
11	保健医療福祉のサービスの課題 2 (赤松)	現在の高齢者に対する保健医療福祉サービスの課題と問題解決への方策について議論	第 10 回の授業をもとに、さらに議論したいと考える関連論文を用意する。	適時提示
12	エンドオブライフの質評価 (赤松)	エンドオブライフの質評価に関する論文を抄読し議論	エンドオブライフの質評価に関する論文を用意する。	適時提示
13	エンドオブライフの質評価 2 (赤松)	エンドオブライフの質評価に関する論文を抄読し議論	第 12 回の授業をもとに、さらなるエンドオブライフの質評価に関する論文を用意する。	適時提示
14	エンドオブライフにおける課題 (赤松)	エンドオブライフにおける実践者・管理者としての課題を議論	エンドオブライフにおける実践者・管理者の課題に関する論文を用意する。	適時提示
15	老年期のエンドオブライフケアの臨床的・研究的課題と課題解決 (讃井 赤松)	文献やケースレポートで自己の主張を明確にし、意見を交換する	老年期のエンドオブライフケアに関連する文献を調べてまとめてくる。自研究課題あるいは、対象論・方法論理解の研究活動に活かす。	資料配布
16	試験			

教科書・参考文献など

参考文献：E. H. エリクソン：ライフサイクル、その完結、みすず書房、2001。2,800 円+税、岡本裕子他編：世代継承政研究の展望、ナカニシヤ出版、2018。5,800 円+税、平岡栄治・則末泰博：終末期ケアイノベーション 外来から急性期医療まで 現場でともに考える、メディカルサイエンス・インターナショナル、2021。3,700 円+税、Stephen J. McPhee 他：終末期医療のエビデンス、日経メディカル、2017。18,000 円+税

最終到達目標

日本の超高齢多死社会における医療・看護、及びエンドオブライフケアの課題を諸外国の状況から考察・説明できる。
エンドオブライフケアの質保証について説明できる。

評価方法

課題達成度を以下の方法で評価する
筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)

履修判定指標・評価基準

履修判定指標：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

- A(100～80 点)：到達目標を達成している (Very Good)
- B(79～70 点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)
- C(69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D(60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EME0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME06				教育・実践力	○
授業科目名	高齢者看護学特別演習 M	選択・必修	必修		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	赤松公子 讃井真理				提言力	
授業の目的						
<p>本科目は、高齢者自身が培ってきた経験と自信を強みとし、最期まで自身の人生を全うできるよう支援する方法を探究するための科目である。臨床にある課題を、さらに深く追究し、さらに多角的な視点で生活問題、身体問題、セルフケア、介護予防、認知症ケア、各施設でのケア実践、認知症看護管理、看取りケア、家族看護、看護システムなどの視点で、知識と技術の質を高める。</p>						
授業の概要						
<p>(赤松公子/14回) 介護予防について、先行研究、及び自研究の結果を詳述し、今後の介護予防対策について論じる。また、セルフケアのアセスメントと日常生活行動機能評価指標、うつと認知症など心理社会的機能等評価指標、援助方法の分析と評価について、介入に結びつくアセスメント方法について考察する。各種高齢者支援サービスと制度、認知症看護の看護管理と安全管理について言及し、高齢者の各種リスクへの介入対策について探究する。</p> <p>(讃井真理/14回) 高齢者・認知症者などエンドオブライフケア、認知症者の日常生活援助方法、特に食事援助を中心に、生活支援、家族支援に対して、課題の整理・分析、介入方法と評価などについて、各理論、及び各種の高齢者施設、学会などのフィールドワークにより、課題解決に向けた具体的解決につながる研究課題への示唆を得る。特に、学生の研究課題を踏まえた、幅広い視野からの検討を行う。</p> <p>(讃井真理 赤松公子/2回) 前述の内容を検討したうえで、生活問題、身体問題、セルフケア、介護予防、認知症ケア、各施設でのケア実践、認知症看護管理、看取りケア、家族看護、看護システムなどの課題をまとめて、自己の問題解決、課題解決と、研究的課題について発表し、自己の臨床的・研究的課題についてより深く考察する。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション (赤松)	前半14回の取り組み設計	シラバスを確認して取り組みたい課題を明確にする	適時提示		
2	評価指標の開発背景 (赤松)	選択した評価指標を数点持ち寄り開発背景について概観する。	選択した評価指標の開発背景について議論できるように論文を要約する。	適時提示		
3	評価指標の信頼性・妥当性、有用性 (赤松)	選択した評価指標の信頼性・妥当性、有用性について議論する。	評価指標について議論できるように準備する。指標の比較ができるように、2編以上の論文を準備する。	適時提示		
4	評価指標の項目の信頼性・妥当性、有用性2 (赤松)	選択した評価指標の項目の信頼性・妥当性、有用性について議論する。	第3回の議論をもとに、他の論文の指標を準備する。指標の比較ができるように、2編以上の論文を準備する。	適時提示		
5	評価指標の作成 (赤松)	介護予防介入に結びつく評価指標を作成する。	第4回までに検討した論文の評価指標を整理する。	適時提示		
6						
7						
8						
9						
10	評価指標の検討 (赤松)	高齢者ケアに携わっている実践家に意見を求める。	フィールドの調整			
11						
12	評価指標の検討 (赤松)	学内で指標の再検討を行う。	フィールドワークでの知見を整理する。	適時提示		
13						

14	前半まとめ（赤松）	介護予防対策について議論する。	議論の準備	適時提示
15	後半オリエンテーション（讃井）	14回の取り組み設計	シラバスを確認して課題取り組みの準備をする	資料配布
16		文献検討→発表		
17	研究課題の研究のクリティーク 高齢者・認知症者看護の観察・援助技術の省察（讃井）	先行研究2編以上の論文クリティークを行う。高齢者認知症者の看護における援助技術に関する演習、科学的な解決法の検討＝資料作成、発表、ディスカッション	発表資料作成等準備をする。研究過程について理解する。高齢者看護の技術に関する疑問から文献しておく。課題の解決策をまとめる。	
18				
19				
20				
21				
22	学会に参加し、自課題に関する研究者間のディスカッション（12/9-10 看護科学学会、or 11/-健康心理学会等）（讃井）	学会に参加し、高齢者看護、認知症者の看護に関する自己の研究課題に関連する情報収集と、自己研究課題に関連する研究に対する意見交換を行う。	抄録集及び学術集會集録などを事前に読み、意見交換に必要な知識を収集しておく。自己の研究課題、あるいは、高齢者・認知症看護関連の倫理・教育に関連する研究についての疑問等をまとめておく。	
23				
24				
25				
26	高齢者・認知症者看護の観察・援助技術の検討（讃井）	高齢者・認知症者看護における援助技術に関する演習	高齢者・認知症者看護の技術に関する疑問から文献検索しておく。課題の解決策をまとめる。	
27				
28				
29	自研究課題に対する解決策の明確化（赤松・讃井）	自己の課題等に関連する、高齢者看護の研究的問題解決法について発表し、ディスカッションする。	自研究課題や援助技術に関連する問題解決策を科学的思考で考え、研究活動に活かす。	
30				
31	試験			
教科書・参考文献など				
医療情報科学研究所：看護が見える Vol.3 フィジカルアセスメント、メンタルケア、2019. 3,300円＋税 亀井智子編：根拠と事故防止からみた 老年看護技術 第3班、医学書院、2020. 4,000円＋税				
最終到達目標			評価方法	
高齢者・認知症者へのエンドオブライフケア、認知症者の日常生活援助方法の課題解決に向けた研究展開が広い視野から検討ができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EME0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME07				教育・実践力	○
授業科目名	広域看護学特別研究 IM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	讃井真理				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、広域看護学領域における課題に対する臨床と研究の循環型研究に取り組むための科目である。この科目では、研究計画書の完成と、倫理審査の申請を目標とする。研究計画書は国内外の先行研究レビューから自己の研究課題を絞り、研究の目的を明確にする。研究目的に合った研究デザインと研究方法を選択し、信頼性と妥当性のあるデータの収集と分析から結果が導き出せるよう、研究設計を行う。</p>						
授業の概要						
<p>自研究テーマに関する先行研究の課題を整理し、研究テーマに関する課題の明確化、研究課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い、倫理審査を受ける。これらの研究プロセスと論理的思考、適切な研究方法を理解・選択し、質の高いデータ収集と分析につなぐ。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション(讃井)	自研究に関連する文献の検索を行い、文献レビュー・クリティカルレーディングによる自研究課題の周辺の様々な知見を整理・分析し、研究課題を絞る。自研究課題等の研究手法を検討する。	先行研究を検索し、自己の研究課題の周辺テーマについて情報を集める。文献をクリティークし、課題の周辺の研究に整理・分析を行う。研究課題を明確化していく。研究手法を理解する。	関連文献は自身で検索 山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版：研究手法別のチェックシートで学ぶ、日本看護協会出版会、2020。 D.F. ポーリット他：看護研究、原理と方法、医学書院、2010。		
2						
3						
4						
5						
6	研究目的を明確にし、研究計画書を作成する。	文献を分析し、課題を論理的に説明する研究の概念化を行う。研究の意義と価値を問い直す。研究の目的と目標を設定し、それに合う研究方法を選択する。量的研究の場合は仮説を立てる。質的研究の場合はインタビューガイドを作成する。	研究計画書を記載していく。研究の価値を明文化し、研究を設計し、目的に沿った研究方法を選択しているかを確認する。	先行研究論文は自身で検索 研究計画書と倫理申請書		
7						
8						
9						
10	1年次10月に研究論文の中間発表として、研究計画発表を行う。	研究計画を立て、中間発表の資料を作成する。発表によって矛盾や疑問点を解決して研究計画書を精選、完成させる。	計画書の文章を何度も読み返し、完成度を高める。発表準備を行う。発表後に質疑応答の内容を加味して計画書を修正する。	先行研究論文は自身で検索 研究計画書		
11						
12						
13	1年次以内に研究倫理申請を行う。	倫理審査申請書を作成し、各書類を整えて、申請する。	倫理審査申請書の様式を事前に取り寄せる。倫理審査の結果を受けて修正する。	D.F. ポーリット他：看護研究、原理と方法、医学書院、2010。		
14						
15	研究調査実施順位をする。	倫理審査で指摘部分を改善する。承認が下りたら、調査を開始する	倫理審査と計画書を読みかえし、指摘があれば改善し、データ取のための予定を立てる。	調査関連書類、倫理申請書類 研究計画書		
16						

教科書・参考文献など	
D.F. ポーリット他：看護研究, 原理と方法, 医学書院, 2010. 10, 450 円 山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版: 研究手法別のチェックシートで学ぶ, 日本看護協会出版会, 2020. 3, 520 円 その他、研究方法に沿った参考書	
最終到達目標	評価方法
研究の概念化と研究手法が検討できる。 自己の研究課題解決に向けた独創的な研究計画書が完成できる。 倫理委員会に申請書を提出できる。	課題達成度を以下の方法で評価する 研究計画書(50%)・倫理審査(30%)・ 中間発表などプレゼンテーション (20%)・
履修判定指標・評価基準	
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)	

授業コード	EME0702			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME07				教育・実践力	○
授業科目名	広域看護学特別研究 IM	選択・必修	必修		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	赤松公子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、広域看護学領域における課題に対する臨床と研究の循環型研究に取り組むための科目である。この科目では、研究計画書の完成と、倫理審査の申請を目標とする。研究計画書は国内外の先行研究レビューから自己の研究課題を絞り、研究の目的を明確にする。研究目的に合った研究デザインと研究方法を選択し、信頼性と妥当性のあるデータの収集と分析から結果が導き出せるよう、研究設計を行う。</p>						
授業の概要						
<p>広域看護学領域における探求すべき研究課題について、文献検討を通して焦点化し、研究の目的を明確にする。研究目的に合った研究デザインと研究方法を検討後、研究計画書の作成を目指す。 (オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	研究課題の明確化	広域看護学領域において看護が取り組む課題について既存の文献を検索し、研究としての意義を視野に入れて、研究課題を明確にする。	学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示		
2						
3						
4						
5						
6	研究デザインの選定	焦点を当てる現象を明らかにして、適切な研究デザインを選定する。	学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示		
7						
8						
9						
10	研究方法の検討	対象者、データ収集方法、データ収集期間の検討を行う。	学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示		
11						
12						
13	倫理的配慮の検討	研究課題を遂行するにあたり必要な倫理的配慮法を検討する。	学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示		
14						
15	研究計画書の作成	中間発表会で発表できるように作成を目指す。	学修課題の進行に合わせて、計画的に進める。	適時提示		
16						
教科書・参考文献など						
適宜提示する。						
最終到達目標				評価方法		
研究課題にもとづいた研究計画書が完成できる。				課題達成度を以下の方法で評価する 研究計画書(70%)・中間発表などプレゼンテーション(30%)・		
履修判定指標・評価基準						
<p>評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p>(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>						

授業コード	EME0703			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME07				教育・実践力	○
授業科目名	広域看護学特別研究IM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	別宮直子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目の目的は、『広域看護領域における課題に対する臨床と研究の循環型研究に取り組むための科目である。この科目では、研究計画書の完成と、倫理審査の申請を目標とする。研究計画書は国内外の先行研究レビューから自己の研究課題を絞り、研究の目的を明確にする。研究目的に合った研究デザインと研究方法を選択し、信頼性と妥当性のあるデータの収集と分析から結果が導き出せるよう、研究設計を行う。』ことを目的とする。</p>						
授業の概要						
<p>本科目は、研究テーマは学生自身の個別テーマであるが、精神看護学およびメンタルヘルスに関する研究を担当する。1.精神疾患をもつ対象者とその家族への看護および支援方法の開発 2.対象者のセルフコントロールに向けた支援方法の開発 3.長期入院患者の退院支援 4.精神科における倫理的課題に関する研究</p> <p>本科目は、1年次の4月に研究指導教員決定後、文献検討から課題の分析、研究テーマの決定、研究計画書の作成、その後、10月に研究計画発表、12月に研究計画書作成を完了し、2月の倫理審査委員会への申請書を提出し、審査を受ける。この一連の流れを行う。</p> <p>(オフィスアワー：水曜日 12：00-13：30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	授業スケジュールについて	今後の授業スケジュールを組み立てる	事前：自身の年間スケジュールの把握 事後：関心ある研究テーマの文章化を行う。	大学院要覧 関連文献		
2	文献検討から課題の分析	自身の個別テーマに関する文献検討を行い、課題の分析を行う。	事前および事後：文献検討を繰り返し、関心ある研究テーマに関する課題の分析を行う。	関連文献		
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9	研究テーマの決定	文献検討および課題の分析から、自身の研究テーマを決定する。	事前：課題の分析から自身の研究テーマの絞り込みを図る。	関連文献		
10						
11						
12	研究計画書作成	研究テーマ決定後、研究計画発表会に向け、研究計画書を作成する。	事前：これまでの文献検討および課題の分析をまとめておく。			
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19	研究計画発表準備	10月の研究計画発表に向けて準備を行う。	事前：研究計画書を作成しておく 事後：研究計画発表に向け、練習を重ねる。			
20						
21						
22	研究計画発表	研究計画発表を行う。	事前：指摘される点の洗い出しを行っておく。 事後：指摘された点の整理			

23	研究計画書完成	研究計画発表で指摘を受けた内容を再検討し、研究計画書を完成させる。	事前：研究計画発表で指摘を受けた点を、整理しておく。	
24				
25				
26	倫理申請書の作成	2月の倫理審査委員会への申請に向け、倫理申請書を作成する。	事前：研究計画書を完成させておく。	
27				
28				
29				
30	倫理審査委員会への申請	倫理審査委員会への申請を行い、承認を得る。	事前：倫理審査委員会に倫理申請書を提出する。	
教科書・参考文献など				
最終到達目標			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・文献検討および課題の分析から研究テーマを決定できる。 ・研究計画書を作成し、研究計画発表を行うことができる。 ・研究計画書を完成させることができる。 ・倫理審査申請書を提出することができる。 			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・	
履修判定基準・評価基準				
評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EME0801			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME08				教育・実践力	○
授業科目名	広域看護学特別研究ⅡM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	讃井真理				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、成人・高齢者看護領域における臨床と研究の循環型研究に取り組む科目である。この科目では、研究計画書作成・倫理審査承認後に、精度の高い研究データの収集、正確で妥当性のあるデータの入力と分析、クリアな結果を導き出し、得られた結果を考察するプロセスを修得する。</p>						
授業の概要						
<p>研究プロセスは、データの収集・分析・結果・考察の段階を経て、論文として完成させる。自己の研究結果を発表（プレゼンテーション）し、研究プロセスと内容に対して質疑に回答し、公表するプロセスまでが含まれる。そのプロセスの中では、論文指導者以外からの論文審査が行われ、同時に研究指導を受けるため、他学問、他領域の教員の研究指導からも、自己の論旨の精度、論文の完成度を高める。</p> <p>（オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション（讃井）	研究計画に沿って研究データの収集を行う。研究倫理原則に則り、丁寧なデータ、質の良いデータが収集できるための計画を綿密に行う。データを集計・分析し、結果を出す。先行研究などと比較検討し、結果を考察する。修士論文を形にする。	研究倫理申請書に則り、各種の書類を準備する。調査を実施する。データを解析・分析する。修士論文を執筆する。	各種のデータ解析法関連の著書 考察のための文献等 大学院要覧 p37-44		
2	研究活動を推進し、調査を実施する。					
3	データを収集・分析し結果を出す。					
4	結果を考察する。					
5	修士論文を執筆する。					
6						
7						
8	2年次10月に中間発表としてデータ解析の結果と考察、結論までを発表する。	データを集計・分析し、結果、考察・結論までをまとめ、中間発表で発表する。中間発表の資料を作成し、研究をプレゼンテーションする。質疑に適切に回答する。	データ分析と結果を行き来し、結果を出す。結果を考察し、結論を導き、発表する準備をする。資料を作成し、発表時の質疑内容を加味し、論文に反映させる。	中間発表資料と発表媒体		
9	修士学位論文を完成させる。	修士論文を作成する。	論旨に一貫性があるか確認し、矛盾する箇所は丁寧に見直し修正する。	修士論文原案		
10						
11						
12						
13	3年次1月に学位論文審査書類を提出し、審査を受ける。	学位論文審査書類を提出する。学位論文審査は、原則、3名の審査者で行われる。審査者からの修正事項、追加事項を15分程度で説明し、1時間程度の質疑に回答する。修正が必要な場合は、指定された期日に提出し、再度審査を受ける。	学位論文審査書類を整え、期日までに提出する。審査時の質疑に答えられるよう、準備をする。審査結果を受け、修正が必要な場合は、指定の期日までに修正を行う。その際、質疑や指摘事項に対する修正について、対応表を作成する等、審査者に分かりやすいよう提示する。不合格となった場合は、次年度の提出に向けて論文内容を吟味し、追加・修正する。	必要な資料は配布 松山看護学研究科2023年度大学院要覧、p20-22		
14						
15	2月修士学位論文最終発表を行う（研究科の審査の一環）	最終発表の準備を行う。	最終発表の準備のため、資料と発表媒体を作成する。			

16	修士学位論文提出する。		修士学位論文他、必要な書類を提出する。 学位論文は冊子にし、指定された部数を提出できるように準備する。	松山看護学研究所 2023 年度大学院要覧、p20-22
教科書・参考文献など				
自研究に沿った各種データ分析のための書籍 考察のための論文作成に沿った先行研究 大学院要覧				
最終到達目標			評価方法	
修士論文を執筆し、学位論文審査を受ける。 各審査で質疑に対応できる。助言及び指摘について、論文を適切に修正して提出する。中間発表と最終発表で、自己の研究を報告でき、審査を終える。最終的には論文審査に合格する。			課題達成度を以下の方法で評価する 修士論文完成度(90%)・プレゼンテーション(10%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EME0802			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME08				教育・実践力	○
授業科目名	広域看護学特別研究ⅡM	選択・必修	必修		倫理調整力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	赤松公子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、成人・高齢者看護領域における臨床と研究の循環型研究に取り組む科目である。この科目では、研究計画書作成・倫理審査承認後に、精度の高い研究データの収集、正確で妥当性のあるデータの入力と分析、クリアな結果を導き出し、得られた結果を考察するプロセスを修得する。</p>						
授業の概要						
<p>研究計画に沿ってデータ収集を行った後、正確で妥当性のあるデータの整理と分析を行う。分析した結果をまとめた後、結果を論理的に考察するプロセスを学修し、修士論文作成を目指す。 (オフィスアワー：火曜日 13:20-14:50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	データ収集	研究計画書に沿って倫理的配慮を行いながらフィールドとの調整、対象者への対応を行う。	学修課題に沿った準備	適時提示		
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8	データ入力と分析	計画書に沿ったデータの整理と分析を行う。	学修課題に沿った準備	適時提示		
9						
10	結果のまとめ	計画書に沿った適切な方法で結果を整理する。				
11						
12						
13	考察	論理性、整合性、一貫性を維持しながら考察を記載する。				
14						
15	修士論文作成	学術論文としての記述方法を理解し、修士論文として執筆する。	学修課題に沿った準備	適時提示		
16						
教科書・参考文献など						
適時提示						
最終到達目標				評価方法		
修士論文を執筆し、学位論文審査を受け、最終的に審査に合格できる。				課題達成度を以下の方法で評価する 修士論文完成度(90%)・プレゼンテーション(10%)		
履修判定指標・評価基準						
履修判定指標：						
評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。						
A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)						
B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)						
C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)						
D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)						
(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)						

授業コード	EME0803			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME08				教育・実践力	○
授業科目名	広域看護学特別研究ⅡM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	別宮直子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目の目的は、成人・高齢者看護領域における臨床と研究の循環型研究に取り組む科目である。この科目では、研究計画書作成・倫理審査承認後に、精度の高い研究データの収集、正確で妥当性のあるデータの入力と分析、クリアな結果を導き出し、得られた結果を考察するプロセスを修得することである。研究プロセスは論文として完成し、さらに自己の研究結果を発表（プレゼンテーション）し、研究プロセスと内容に対して質疑に応答し、公表するプロセスまで含まれる。そのプロセスの中では、論文指導者以外からの論文審査が行われ、同時に研究指導を受けるため、他学問、他領域の教員の研究指導からも、自己の論旨の精度、論文の完成度を高める。</p>						
授業の概要						
<p>本科目における、担当教員の指導可能な研究テーマは以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.精神疾患をもつ対象者とその家族への看護および支援方法の開発 2.対象者のセルフコントロールに向けた支援方法の開発 3.長期入院患者の退院支援 4.精神科における倫理的課題に関する研究 <p>本科目は、1年次の2月に倫理審査委員会への申請書を提出し、審査を受けた後に修正を行い、倫理審査委員会の承認を得る。承認を得た研究を前期期間にデータ収集および分析を行う。その後、9月には修士論文作成を行い、10月には修士論文中間発表会、2月には修士論文審査委員3名による審査、修士論文最終発表会、修士論文最終審査、最終試験を行う。</p> <p>（オフィスアワー：水曜日 12：00-13：30）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	研究計画書の修正	倫理審査結果を踏まえた研究計画書の修正を行う。	事前：倫理審査結果を把握する。 事後：倫理審査結果を踏まえた修正およびコメントを行い、再提出を行う。			
2						
3	研究の実践	倫理審査委員会の承認を得た後、研究計画書に基づき、研究を行い、データの収集を進める。	事前：研究を行うための、事前準備を十分に行う。 事後：データの収集および保管を徹底する。			
4						
5						
6	データ分析	収集したデータの分析を行う。	事前：収集したデータの入力および、統計解析の手法を理解しておく。 事後：集計や統計解析を行い、データの分析を進める。			
7						
8						
9	修士論文作成	データの分析結果を踏まえ、修士論文を作成する。	事前：分析結果をまとめる。 事後：修士論文要領に従った作成を行う。			
10						
11						
12						

13	修士論文中間発表会後の修士論文修正	修士論文中間発表会での指摘を受け、修士論文の修正を行う。	事前：指摘された箇所を正確に理解しておく。 事後：指摘に対し、適切に修正を行う。	
14				
15				
	修士論文最終審査、最終試験	修士論文最終審査および最終試験を受ける。	事前：これにより合否が決定することを理解しておく。	
教科書・参考文献など				
最終到達目標			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・倫理審査委員会の承認を得ることができる。 ・研究計画書を基に、研究を行い収集したデータの分析を行うことができる。 ・修士論文を作成し、中間発表会を行うことができる。 ・中間発表会後の修士論文の修正および、提出を行うことができる。 			課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(90%)・プレゼンテーション(10%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				